

大学における電子ジャーナルの利用の現状と
将来に関する調査
- 結果報告書 -

2003年12月

国立大学図書館協議会
電子ジャーナルタスクフォース

目 次

はじめに

調査概要	1
回答者プロフィール	3
総 括	4
調査結果	
1. 電子ジャーナルの認知・利用状況	12
1. 電子ジャーナルの利用度	13
2. 電子ジャーナルに関する情報源	14
3. 電子ジャーナルを利用しない理由	15
<参考> 現状における学術研究上のツールの利用度	16
2. 電子ジャーナルの利用意向	18
1. 電子ジャーナルの必要度	19
2. 電子ジャーナルの利用意向	20
<参考> 今後における学術研究上のツールの利用意向	21
3. 電子ジャーナルに対する意識・考え方	23
1. 電子ジャーナルに対する意識・考え方	24
2. 利用できる電子ジャーナル・二次データベースの満足度	25
3. 電子ジャーナルに関する情報・利用法の提供	26
4. 文献検索のニーズについて	27

5. 電子化の推進について	28
6. リモートアクセスについて	29
7. 有料電子ジャーナルの整備・経費負担について	30
8. 冊子体の必要性	31
9. 論文掲載までのスピードアップ / 査読機能について	32
10. 研究成果の国際的な交換	33
11. 情報倫理	34
4. 主要な電子ジャーナルの認知・利用・評価	35
1. 主要な電子ジャーナルの認知度	36
2. 主要な電子ジャーナルの利用度	38
3. 主要な電子ジャーナルの評価	41
<参考> 主要な電子ジャーナルの評価	46
4. 使いやすさにつながる機能	47
5. 必要な文献入手の方法	48
6. 利用するデータ形式とその理由	50
7. 必要なバックファイル年数	51
5. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の認知・利用・評価	52
1. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の認知度	53
2. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用度	55
3. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価	58
<参考> 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価	62
6. 自由回答にみる電子ジャーナルに対する意見・要望	63
1. 電子ジャーナルについて	64
2. 今後図書館に期待するもの	66

はじめに

一昨年度に、10大学において電子ジャーナルに関する利用者アンケートを、国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースが出版社と共同プロジェクトとして行い、報告書を作成した。電子ジャーナルは、この2年間に急速に普及し、10,000タイトルを超える購読を実現した大学も出てきた。またこの間、電子ジャーナルは、冊子体の補助的な役割から、学術情報基盤の主要な要素となった。

このような状況において、利用者がどのような利用方法をとっているのか、また、利用者の立場から問題点を明らかにするために、一昨年度に行われたアンケート調査を受けて、定点観測を行った。本報告書は、前回と同じ10大学に、全国の特徴を捉えるために新たに3大学を加えた計13大学で行われたアンケート調査の結果をまとめたものである。一昨年度のアンケート結果との比較も行っており、大変興味深い結果が得られている。

例えば、電子ジャーナルの利用の面では、全回答者の約52%の人が定期的に（週1日以上）電子ジャーナルを利用しており、前回調査の37%から大幅に増加している。自然科学系では、教官、院生とも約6割が定期的に利用している一方、人文・社会科学系では2割弱にとどまっている。

他方、電子ジャーナルの非利用の理由では、「研究分野の収録が少ないから」という理由が5.8ポイント増の36.2%となっており、ニーズは高まりつつあるものの充足されていない潜在層が増えている。特に、人文・社会科学系の6割強の教官、院生は、ともに導入されている電子ジャーナルや二次データベースの種類に満足していない結果がでてくる。

今後、この利用調査アンケートを更に分析し、種々の方法で公開を考えている。

国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォースは、この3年以上の活動で、12,000タイトルを超える電子ジャーナルのコンソーシアムを実現するとともに、利用統計やアーカイブスなどの問題にも取り組んできた。今回の利用者アンケートもその活動の一環である。今回のアンケート調査の回収率は、前回よりも9ポイント高い43.2%となったが、これはまさに利用者の電子ジャーナルへの関心の高さと、このアンケートを実施した各大学図書館職員の貢献のたまものである。

電子ジャーナルは、価格の上昇、アーカイブス、利用の高度化、情報格差など、まだ多くの問題点を抱えている。時代の変化に対応し、教育研究を高度に支援するためには、今後もたゆまぬ努力が必要であろう。図書館を取り巻く環境は、ますます厳しくなっているが、今回のような活動が、今後の図書館の改革の一助になればと考える。

最後になりましたが、このアンケートを実施頂いた13大学の附属図書館職員およびアンケートの作成と報告書のまとめに尽力いただいた東京工業大学附属図書館の朝妻氏、棚橋氏、砂押氏及び名古屋大学附属図書館研究開発室の逸村先生に厚くお礼申し上げます。

平成15年12月

国立大学図書館協議会
電子ジャーナルタスクフォース主査
名古屋大学附属図書館長
伊藤 義人

調査概要(1)

- 調査目的 : 大学における電子ジャーナルの利用実態・利用意向等について調査し、また、前回2001年の調査結果との比較を通して、この2年間における利用動向の変化・普及状況も分析し、今後の電子ジャーナル関連の環境整備の基礎資料とする。
- 調査対象 : 北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、上越教育大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、島根大学、広島大学、九州大学の教官及び院生
- サンプリング方法 : 教官:「文部科学省職員録(H14版)」より、13大学の全教官から無作為抽出。
院生:各大学図書館にて、割当て数に応じ無作為抽出。
- 調査方法 : 各大学図書館経由で対象教官、対象院生に調査票を配布。回収は各大学図書館で集約後、日経リサーチへ返送。
- サンプル数 : 設定数:3750サンプル、回収数:1619サンプル
回収率:43.2%
- 調査期間 : 2003年7月10日(木) ~ 7月31日(木)
- 調査実施名義 : 国立大学図書館協議会 電子ジャーナルタスクフォース
- 調査委託機関 : 株式会社 日経リサーチ

調査の関連資料はWEBページ上での公開が予定されております。公開までの間、資料に関するお問い合わせは東京工業大学附属図書館までお願いいたします。

調査概要(2)

ウェイトバックについて : 当調査では、下記の4つの区分ごとに十分な回収数を確保するため、一律に設定数(配布数)の割当を行った。

自然科学系 教官
自然科学系 院生
人文・社会科学系 教官
人文・社会科学系 院生

但し、自然科学系と人文・社会科学系では実際の教官/院生数には大きな差があるので、そのまま両系の回収数を足して、それを全体の傾向とすることはできないため、当報告書ではウェイトバックしたデータで論じている。

ウェイトバックとは、回収されたデータを、対象者の母集団の構成に合わせるため、個々の回答結果にウェイト値を与え集計することである。

当調査でのウェイトの与え方は下記の通りである。

- ・自然科学系と人文・社会科学系のウェイトは、実際の構成比になるようウェイトバックしている。
(教官では、自然科学系:人文社会科学系 3.4:1。院生では、自然科学系:人文社会科学系 3:1)
- ・教官と院生については、設定数に合わせて教官:院生 = 2:1という構成比になるようにウェイトバックした。

		自然科学系	人文・社会科学系	計
教官	実数	17,623	5,200	22,823
	設定数	1,250	1,250	2,500
	回収数	619	320	939
	ウェイト後サンプル数	1,615	477	2,092
院生	実数	48,755	16,219	64,974
	設定数	625	625	1,250
	回収数	419	261	680
	ウェイト後サンプル数	785	261	1,046

注)中には学際的な学部・研究科等もあるが、全体の研究の性格から、自然科学系/人文・社会科学系に振り分けた。

回答者プロフィール

年 齢

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実 数	277	324	210	176	177	160	124	111	59
% (ウエイト前)	17.1	20.0	13.0	10.9	10.9	9.9	7.7	6.9	3.6
% (ウエイト後)	14.5	16.3	13.3	12.1	12.6	11.1	8.5	7.6	4.0

立 場

	教授	助教授	講師	助手	大学院生	その他
実 数	315	278	67	279	680	0
% (ウエイト前)	19.5	17.2	4.1	17.2	42.0	0.0
% (ウエイト後)	21.0	19.5	4.8	21.4	33.3	0.0

研究分野

	<人文科学系>					<社会科学系>						
	文学	史学	哲学	教育学	その他 人文科学系	心理学	社会学	経済学	経営学	政治学	法 学	その他 社会科学系
実 数	68	61	26	74	55	51	34	87	27	17	67	14
% (ウエイト前)	4.2	3.8	1.6	4.6	3.4	3.2	2.1	5.4	1.7	1.1	4.1	0.9
% (ウエイト後)	2.8	2.5	1.1	3.0	2.3	2.0	1.3	3.5	1.0	0.7	2.7	0.6

	<自然科学系>						
	理学	工学	農学	医学	歯学	薬学	その他 自然科学系
実 数	306	340	95	170	32	40	55
% (ウエイト前)	18.9	21.0	5.9	10.5	2.0	2.5	3.4
% (ウエイト後)	22.8	24.4	7.1	13.1	2.5	2.9	3.7

所属大学

	北海道大学	東北大学	千葉大学	東京大学	東京工業 大学	一橋大学	上越教育 大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学	島根大学	広島大学	九州大学
実 数	162	145	67	223	88	93	21	142	230	176	26	105	141
% (ウエイト前)	10.0	9.0	4.1	13.8	5.4	5.7	1.3	8.8	14.2	10.9	1.6	6.5	8.7
% (ウエイト後)	11.0	9.5	4.3	14.1	6.0	3.8	1.0	8.7	14.1	10.5	1.5	6.5	9.0

電子ジャーナルの利用実態

1. 電子ジャーナルの認知・利用状況

2001年からさらに利用者が増加 - 自然科学系を中心に定常的な利用が一般的に

全体では、約52%が定常的に（週に1日以上）電子ジャーナルを利用しており、前回調査（2001年）の37%から大幅に増加している。月に1日程度の利用まで広げると、約7割が利用者となったといえる。利用経験のない人は15%と、2001年の27%からさらに減少した。利用タイトル数も、中央値が2001年の「6～9タイトル」から「10～14タイトル」に増加しており、利用の幅にも広がりが見られる。

自然科学系/人文・社会科学系別にみると、実際の電子ジャーナルの分野別タイトル数の影響も大きいいためか、定常的な利用（週に1日以上）が自然科学系では教官、院生とも6割以上に達しているのに対して、人文・社会科学系では教官、院生とも定期的な利用は2割弱にとどまっている。2001年調査時では自然科学系教官は47%・院生は39%、人文・社会科学系では教官・院生とも1割弱となっており、今回は各分野とも定常的な利用率は高まっているが、分野間の利用率の差も依然として大きい。

電子ジャーナルは、自然科学系ではもはや当たり前前の存在となっている。人文・社会科学系でも今後の利用の伸びが期待される。

（「1-1.電子ジャーナルの利用度」参照）

2. 電子ジャーナルの非利用の理由

電子ジャーナルの非利用の理由は、タイトル数の少なさが大きく、利用ニーズの充足されていない層が増加

電子ジャーナルを現在利用していない理由についてみると、「研究分野の収録が少ないから」「パソコン画面では読みにくいから」「冊子体があれば十分だから」といった理由が上位にあげられている。2001年調査と比較すると、「研究分野の収録が少ないから」という理由が増加しており、ニーズはあるものの充足されていない潜在層が増大していることがうかがえる。実際、電子ジャーナルの利用経験のない層においては、「現在、自分が使える電子ジャーナル又は二次データベースの種類に満足している」に対して、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」という回答が約7割におよんでいる。

人文・社会科学系では、「研究分野の収録が少ないから」、「利用したいタイトルがないから」といったタイトル数の未整備が非利用の理由として多く、更なる電子ジャーナルの導入が必要とされている。また、例えば分野別の電子ジャーナルリストを作成するなど、利用者が自分の研究分野にどのような電子ジャーナルが収録されているかが容易に分かるような仕組みを導入し、利用者に図書館の電子ジャーナルへの取り組みを周知することも必要といえる。

（「1-3.電子ジャーナルを利用しない理由」参照）

（「3-2.利用できる電子ジャーナル・二次データベースの満足度」参照）

電子ジャーナルの利用実態

3. 電子ジャーナルに関する情報源

電子ジャーナルの主な情報源は、インターネット、図書館からのお知らせ・案内と研究者同士の口コミ

電子ジャーナルに関する情報を日頃どこから得ているかということについては、全体としては、他の研究者からの口コミ情報も根強いものの、インターネットと図書館からのお知らせ・案内が高い。2001年調査と比べると、図書館からのお知らせ・案内の比重はやや低下傾向となっている。

教官と院生について比較すると院生は教官に比べ学生同士の口コミを情報源にしており、教官は院生に比べ図書館からのお知らせ・案内を情報源にしている。

(「1-2. 電子ジャーナルに関する情報源」参照)

院生、特に人文・社会科学系で、利用方法等の情報に対する要望が強く、研修等の実施が今後も重要

「電子ジャーナルやその利用法についての情報がもっとほしい」に対して「とても思う」人は48%で、「やや思う」を含めると9割近くが情報をさらに必要と考えている。

特に、院生では要望が強く、自然科学系院生では5割強が、人文・社会科学系では6割を超える院生が「とても思う」と回答している。

一方、「大学図書館が中心となって電子ジャーナルの使い方の研修を行うべきだ」という項目に対しては、23%が「とても思う」、「やや思う」が43%で、およそ3人に2人が研修の実施を期待している。人文・社会科学系院生では、4割近くが「とてもそう思う」と、強くその必要性を指摘している。

(「3-3. 電子ジャーナルに関する情報・利用法の提供」参照)

4. 主要電子ジャーナルの認知・利用

Elsevier Science社のScienceDirect、Nature Publishing Group、Springer-Verlag社のSpringer LINKが3大サービス

電子ジャーナルのサービス名ベースでの認知・利用をみると、全体ではElsevier Science社のScienceDirectが突出して認知度、利用度が高い。次いで、Nature Publishing GroupとSpringer-Verlag社のSpringer LINKが上位3サービスとなっている。なお、人文・社会科学系に限ってみるとOUP:Oxford University Press、JSTORなどが上位にあがっている。

(「4-1. 主要な電子ジャーナルの認知度」「4-2. 主要な電子ジャーナルの利用度」参照)

また、日頃利用している電子ジャーナルの印象・イメージ(評価)を聞いた結果、Elsevier Science社のScience Direct、ACS(American Chemical Society)、APS(American Physical Society)の評価が特に高い。

評価の内容を見ると、Science Directはデータ量が豊富であること、ACS、APSやNature Publishing Groupはコンテンツの質が高いことが、それぞれ最も評価されている。

(「4-3. 主要な電子ジャーナルの評価」参照)

電子ジャーナルの利用実態

5. 文献入手の方法

専門分野の電子ジャーナルのブラウジング、あるいは検索機能を活用

電子ジャーナルの中から、必要とする文献を探し入手する方法として「よく行う」という人が多いのは、「自分の専門分野の電子ジャーナルをブラウジングして、読みたい文献を入手する」(53%)、「電子ジャーナルの検索機能を使って得た検索集合の中から読みたい文献を入手する」(43%)、「二次データベースの検索集合から読みたい文献を探し、リンク機能を使って入手する」(36%)など。

自然科学系の院生においては、「検索機能を使って読みたい文献を入手する」(55%)のほか、「リンクが張ってある参考文献や引用文献の中から読みたい文献を入手する」(28%)といった方法も比較的好く行われている。

(「4-5. 必要な文献入手の方法」参照)

6. 利用するデータ形式

PDF形式が主流 - 印刷した際の画質がポイントに

電子ジャーナルの論文を読む際に最も多いデータ形式については、PDF形式が9割超と大勢を占めている。なお、少数ではあるが、人文・社会科学系を中心に、HTML形式も4%を占めている。

データ形式の利用理由としては、PDF形式は「印刷するときれいだから」が60%と最も多いが、「読みたい論文がたまたまその形式だから」(46%)という人も少なくない。HTML形式については、「ダウンロードに時間がかからないから」が理由として最も多くあげられている。

(「4-6. 利用するデータ形式とその理由」参照)

電子ジャーナルの利用実態

7. バックファイルのニーズ

バックファイルは30年分が満足できるライン

電子ジャーナルのバックファイルについて満足できる年数をみると、10年分以下でよいとする人は17%、20年分以下でよいとする人は合計で46%となっている。全て必要という人が47%と半数近くを占めており、これを30年超と考えると、半数以上を満足させるためには30年分はバックファイルが必要と言える。

自然科学系と人文・社会科学系で比較すると、人文・社会科学系のほうがより昔までバックファイルを求める傾向が強いと言える。

(「4-7. 必要なバックファイル年数」参照)

電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用実態

自然科学系ではMedline、人文・社会科学系ではLexis.comの認知度、利用度がトップ

電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌のサービス名ベースでの認知・利用をみると、自然科学系ではMedline、ISI:Web of Science、Current Contentsが認知度、利用度ともに高くなっている。人文・社会科学系では、Lexis.com、Econlit、PsycInfoが認知度、利用度ともに高くなっている。

(「5-1. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の認知度」「5-2. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用度」参照)

また、日頃利用している電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の印象・イメージ(評価)を聞いた結果、Medlineの評価が最も高く、またCAS:SciFinder Scholar, CA on CDやISI:Web of Scienceも多くの項目で高い評価を得ている。

(「5-3. 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価」参照)

電子ジャーナルをめぐる環境

1. 情報ツールの利用状況

研究の場でもツールとしてのネット利用が日常化 - 学術文献の検索機能に強いニーズ

Eメールや検索エンジンの利用は、ほぼ毎日利用している人がそれぞれ約9割、約7割と、日常的な利用が定着したといえる。

また、ネット上の学会サイトや統計等の情報、学術文献の検索の活用度を見ても、6割前後が週に1日以上利用している。いずれも2001年に比べて1割以上増加している。さらに学術文献の目次/抄録の検索については、今まで以上に利用したいという人が半数を超えており、強いニーズがうかがえる。

「図書館ホームページのリンク集、パスファインダー」については、「月に1～2日程度利用」が平均となっているが、人文・社会科学系の院生の利用が目立っている。

アラート機能やe-Print archiveについては、知らなかった、あるいは利用したことがない人が半数を超えており、まだ一部の利用にとどまっている。その中では、自然科学系教官の利用が目立つ。

(「1. <参考> 現状における学術研究上のツール利用度」参照)

(「2. <参考> 今後における学術研究上のツール利用意向」参照)

リモートアクセスのニーズも顕在化

「電子ジャーナルや学術データベースに自宅からもアクセスしたい」という項目に対して、「とても思う」は54%で、「やや思う」まで含めると78%がリモートアクセスを望んでいる。この利用意向は、2001年調査より1割程度高まっている。

人文・社会科学系院生では、「とても思う」が70%近くに達しており、研究の場のウエイトを反映した結果となっている。時間や場所の限定を受けずに、研究が進められることの利便性が強く求められていると言える。

(「3-6. リモートアクセスについて」参照)

2. 研究活動における電子化、データベースの必要性

一層求められる検索性

「学術研究上、必要な情報を広範囲から検索できる二次データベースが欠かせない」ということに対して「とても思う」とする人が6割を上回り、「やや思う」とする人を合わせると9割以上の研究者が広範囲な二次データベースの必要性を感じている。

また、「電子ジャーナルでは、全文表示だけでなく、全文検索も必要だ」ということに対しては、「とても思う」とする人が32%で、「やや思う」とする人を合わせると約70%の研究者が全文検索の必要性を感じている。この傾向は自然科学系に比べ、人文・社会科学系で強い。

(「3-4. 文献検索のニーズについて」参照)

電子化、インターネット配信が研究の生産性向上に不可欠

「学術情報のインターネット配信を積極的に推進すべきだ」ということに対しては、9割近く(とても思う: 52%、やや思う: 35%)が、推進すべきとしている。この意見については、院生において特に賛成意見が強い。

また、「学術研究上、電子化を促進することが研究の生産性向上に直結する」に対しても、人文・社会科学系でやや低いものの、8割以上(とても思う: 49%、やや思う: 36%)が同意している。

なお、「大学図書館が中心となって学内生産論文の電子化を進めるべきだ」という項目に対しては、「とても思う」が約30%で、「やや思う」と合わせると、合計65%の人が大学図書館のイニシアチブを求めている。

以上から明らかなように、研究活動上、自然科学系/人文・社会科学系を問わず、電子化、インターネットの活用が欠かせない状況になっているが、それに合わせて大学図書館に期待される役割も大きいと言える。

(「3-5. 電子化について」参照)

電子ジャーナルをめぐる環境

3. 有料電子ジャーナルの購入主体について

大学図書館やコンソーシアムによる電子ジャーナルの購入に支持 - 一部経費負担受容の可能性も

「大学図書館は有料電子ジャーナルの整備に力を入れるべきだ」という項目に対しては、約半数が「とても思う」としており、「やや思う」を含めると、約8割が支持している。

また、「有料電子ジャーナルの整備にあたっては、複数の機関による共同購入・利用（コンソーシアム）を進めるべきだ」という項目に対しても、約半数が「とても思う」としており、「やや思う」も含めると8割以上が支持している。

特にこれらの項目で「とても思う」とする人の割合が多いのは自然科学系教官や毎日電子ジャーナルを利用しているヘビーユーザーで、前者は5割以上、後者は7割前後となっている。

一方、「必要とする電子ジャーナルを導入するためには、購入経費の一部を負担してもよい」という項目については、「とてもそう思う」という人は15%にとどまる。ただ、「やや思う」まで広げると肯定層は約6割におよんでいる。図書館が購入の主導的な立場を占めるとしても、利用者側が経費を一部負担することにも一定の受容性があることも認められる。

（「3-7. 有料電子ジャーナルの整備・経費負担について」参照）

4. 電子ジャーナルと冊子体

冊子体と電子ジャーナルの並存、並行利用できる環境が利用者の理想

電子ジャーナルとその冊子体との関係についてしてみると、「電子ジャーナルが充実すれば冊子体の必要性は大幅に低くなる」という項目に対して「とても思う」人は20%にとどまり、「やや思う」とする人も合わせても、50%程度である。2001年調査に比べると、やや増加はしているものの、賛成する人は半数にとどまる。

一方、「電子ジャーナルがあっても冊子体を使いたい」という項目に対しては、31%が「とても思う」としており、「やや思う」とする人も含めると3人に2人が冊子体に対するニーズを持っている。2001年調査では34%が「とても思う」としており、「やや思う」とする人も含めると8割であったので、やや減少をしている。

このように、電子ジャーナルのニーズはさらに高まる傾向にあるが、冊子体に対するニーズも依然として無視できない水準にあると言える。電子媒体と冊子体のそれぞれの長所を評価し、両方を目的に合わせて使い分けていきたいという志向がうかがえる。

（「3-8. 冊子体の必要性」参照）

電子ジャーナルをめぐる環境

5. 電子ジャーナルの論文掲載までのスピードアップと査読機能について

電子ジャーナルの質の高さを評価

「電子ジャーナルによって、論文が掲載されるまでの時間が短縮されるのは評価できる」という項目に対しては、人文・社会科学系教官では低いものの、約60%が「とても思う」としており、特に自然科学系院生では75%が「とても思う」としている。

研究の成果の効率化とともに研究成果の発表のスピードアップ化も特に自然科学系では強い要請となっていることがうかがえる。

「インターネット上の論文も査読機能を強化し、論文の質の低下を防ぐべきだ」とする項目に対しても、約4割が「とても思う」としており、「やや思う」を合わせると約8割が支持をしている。

(「3-9. 論文掲載までのスピードアップ / 査読機能について」参照)

今後の利用意向

電子ジャーナルは不可欠のものとして認識されており、現在以上の利用が想定されている

今後の研究活動上の電子ジャーナルの必要度についてみると、「絶対に必要」とする人が約7割で、2001年調査に比べて2割近く増加している。

自然科学系では教官・院生とも「絶対に必要」とする人が約8割で、ほとんどの自然科学系研究者が必要としている。一方で、人文・社会科学系では「絶対に必要」とする割合は3割強にとどまっているが、「ある程度必要」まで含めると7割を超えており、人文・社会科学系でも趨勢として必要度が高まりつつあるといえる。

今後の研究のための電子ジャーナルの利用意向についてみてみると、全体では73%が「今まで以上に利用していきたい」としており、人文・社会科学系でも3人に2人が「今まで以上に利用していきたい」と回答している。

現在の利用頻度別で見ても、利用経験なし、あるいは電子ジャーナル自体を認知していない層でも、半数以上が「今まで以上に利用していきたい」としている。

(「2. 電子ジャーナルの利用意向」参照)

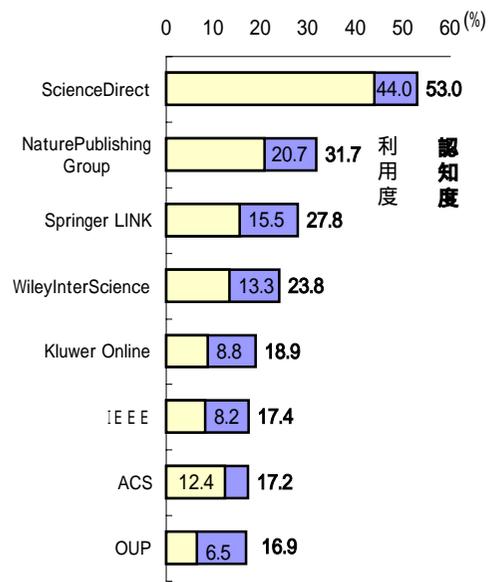
総括 (総まとめ)

電子ジャーナルの日常的な利用

自然科学系
 月1回以上 = 85% (前回67%)
 週1回以上 = 62% (前回44%)

人文・社会科学系
 月1回以上 = 36% (前回17%)
 週1回以上 = 18% (前回9%)

認知度・利用率の上位ランキング
(認知度上位8社分)



現 状
 電子ジャーナルの必要性
 自然科学系では研究の基本インフラ的存在に
 人文・社会科学系でも前回より利用者層が拡大

非利用者の理由
 研究分野の収録タイトルがない / 不足
 PCでは読みにくい / 冊子で十分
 利用方法がわからない

情報源
 インターネット
 図書館からのお知らせ・案内

電子ジャーナルの利用環境

ITツールの使用が定着 電子ジャーナルへのリモートアクセス、二次データベースの整備、学術情報のインターネット配信などの期待

論文投稿・掲載の時短効果など研究生活全般の構造変容 スピードアップ化の要請とともに、質の維持のための査読機能、著作権など情報倫理との配慮等

今後に向けて
 前回調査時よりも、電子ジャーナルは研究上不可欠なツールとしての位置づけがさらに強まっている状況が看取された。
 日常利用者も増え、電子ジャーナルを「今まで以上に利用したい」は4人に3人近くに上る。一方、例えば現在の電子ジャーナルや二次データベースの種類に満足している人は半数前後に留まる。
 量の問題だけでなく、質の側面の向上も含め、ユーザーの声、大学や研究世界全般を取り巻く環境の変化などを考慮していく必要がある。

全体に(特に人文・社会科学系では)、研究分野における電子ジャーナルの不足が利用向上の阻害 潜在ニーズを満たす電子化の促進の必要

電子ジャーナルでは難しい部分(一覧性、過去の蓄積など)から、冊子体の必要性を挙げる声も多い。今後、バックファイルの整備など電子ジャーナルの改善や、冊子体との適切な共存関係の模索が求められる

図書館側からの情報発信や、利用法の研修・講習等の更なる推進が期待される

使用法、ファイル形式、インターフェイスなどの面に関して、更なる利便性を求める声が高いが、特に検索機能や二次データベースの改善・充実を求める声は自由回答にも多く寄せられ、ユーザビリティの向上に大きな鍵といえる

電子ジャーナルの購入については、大学図書館やコンソーシアムへ期待。個人的負担は、一定の範囲においては受容性も

1. 電子ジャーナルの認知・利用状況

1 - 1 . 電子ジャーナルの利用度

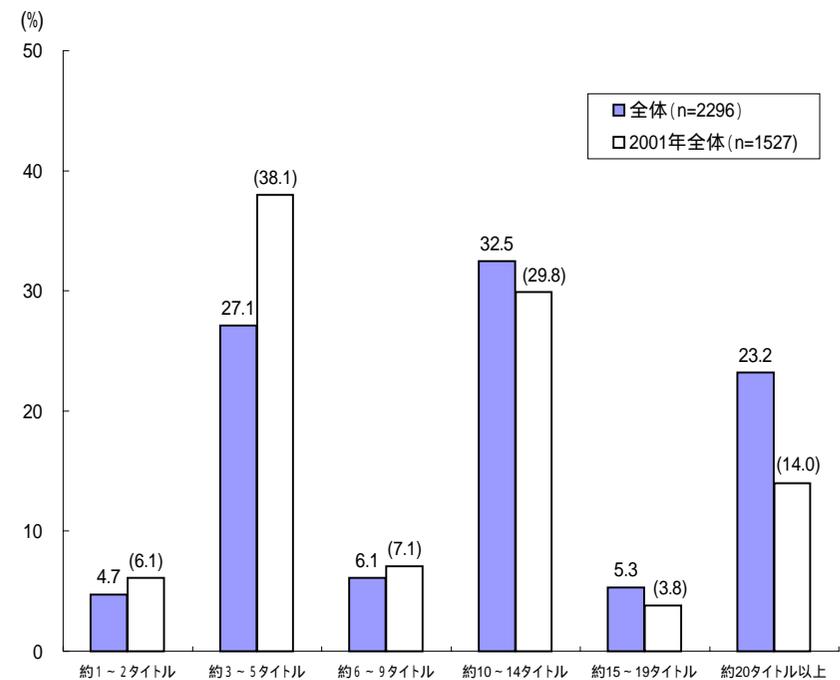
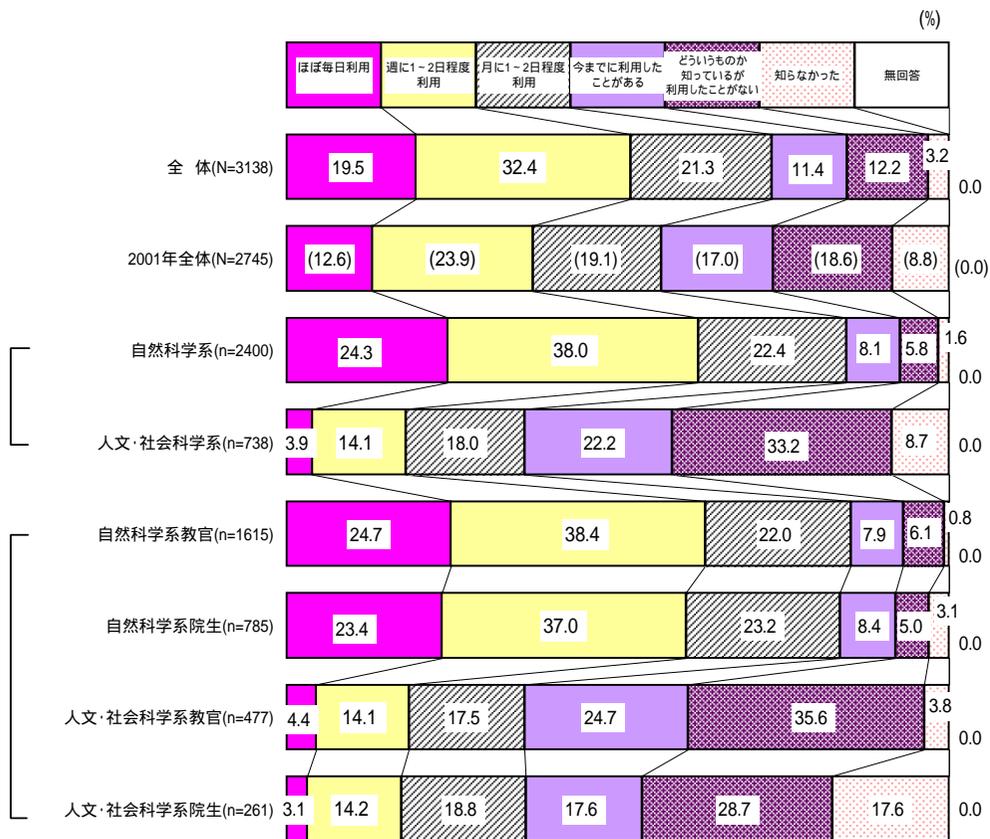
電子ジャーナルのここ1~2年の利用頻度をたずねた。全体では「週に1日以上」利用する層（「ほぼ毎日利用」+「週に1~2日程度利用」）は52%と半数以上を占め、2001年の37%を大きく上回る。

「週に1日以上」利用している層を研究分野別にみると、自然科学系では62%だが、人文・社会科学系では18%と差が大きい。

また、日頃利用しているタイトル数では、「約10~14タイトル」（33%）が最も高く、「約3~5タイトル」（27%）、「20タイトル以上」（23%）と続く。

Q2 - 1: 電子ジャーナルをここ1~2年、どの程度利用されていますか。

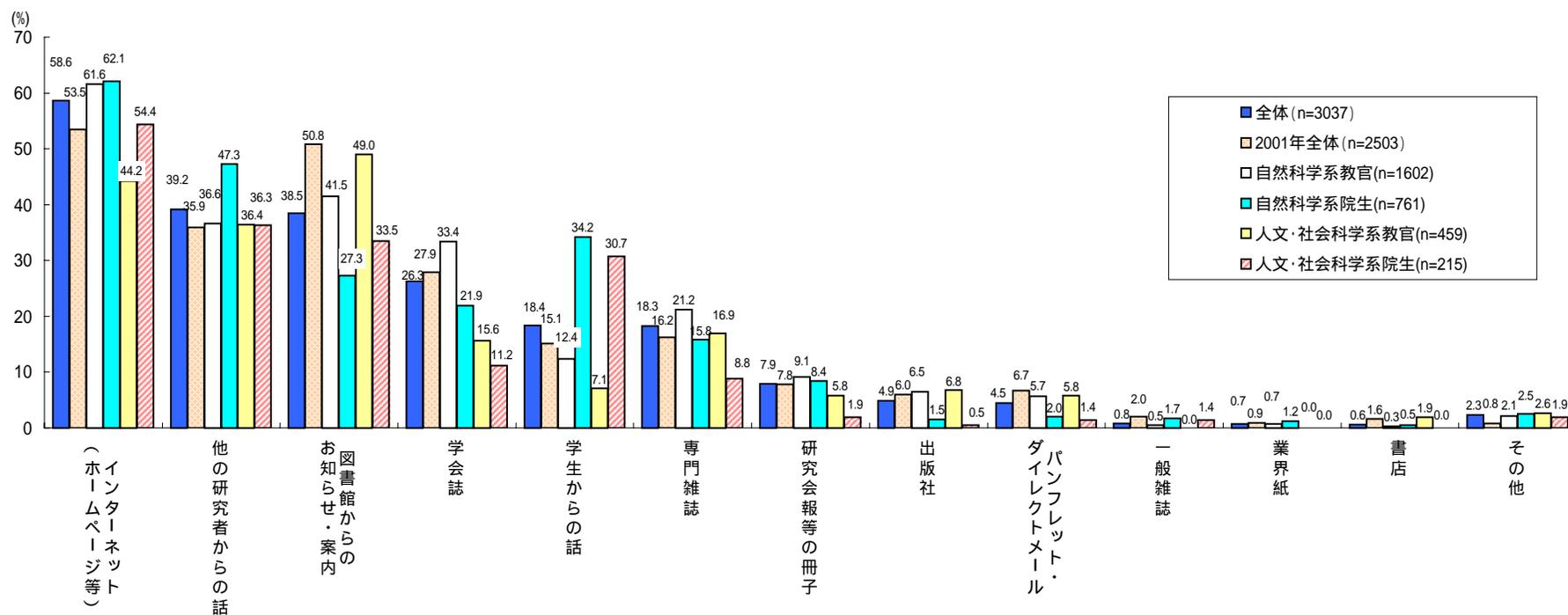
Q2 - 2: 日頃利用されている電子ジャーナルのタイトル数(雑誌数)はおよそいくつですか。



1 - 2 . 電子ジャーナルに関する情報源

電子ジャーナルに関して日頃どこから情報を得ているのかを、自然科学/人文・社会科学/教官/院生別で比較したのが以下のグラフ。
 全体では「インターネット（ホームページ等）」（59%）が最も高く、「他の研究者からの話」（39%）、「図書館からのお知らせ・案内」（39%）が続く。
 属性別にみると、教官では「図書館からのお知らせ・案内」が院生を大きく上回っているのが特徴。

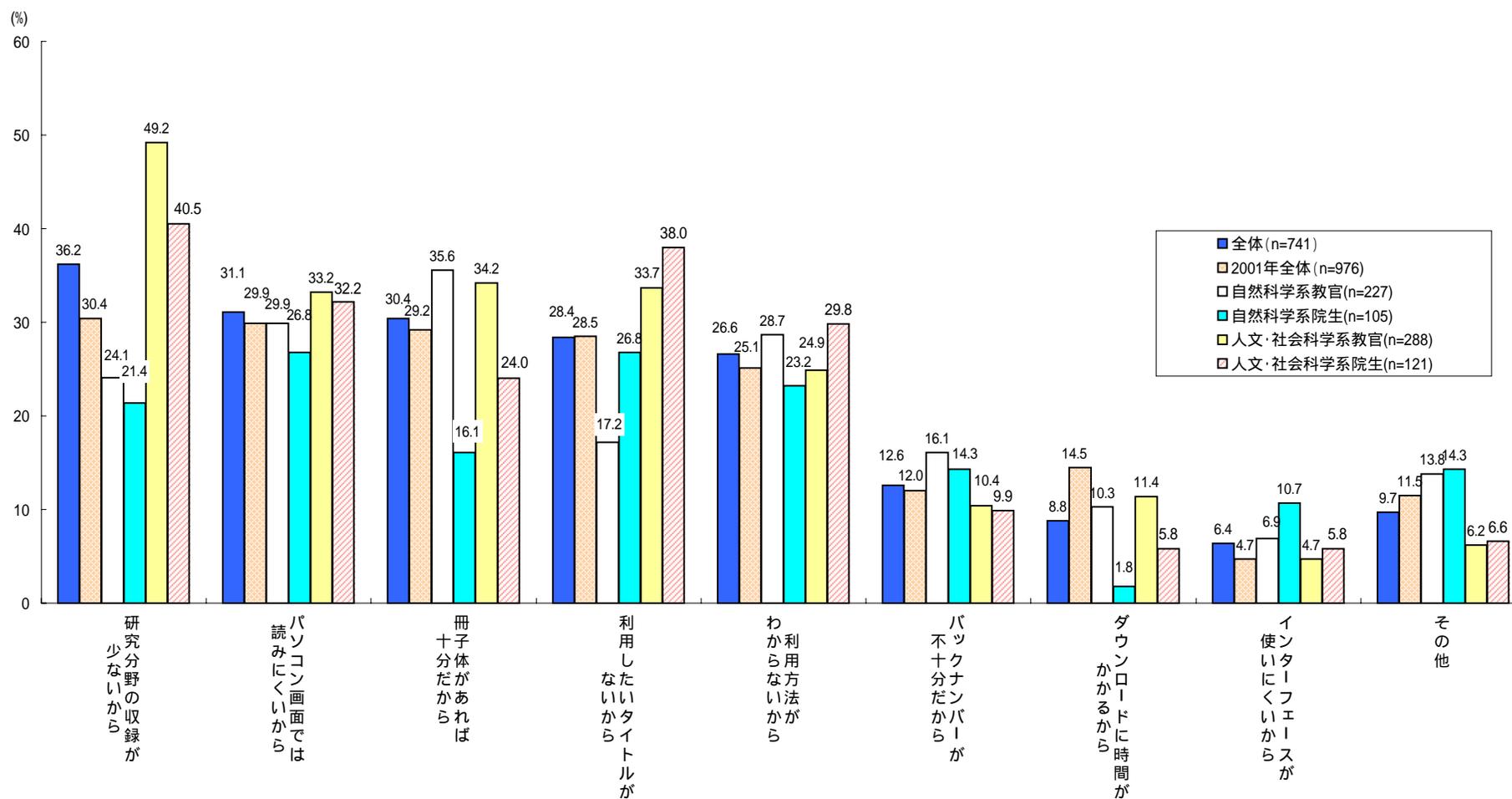
Q3: あなたは電子ジャーナルに関して、日頃どこから情報を得ていますか。



1 - 3 . 電子ジャーナルを利用しない理由

電子ジャーナルを利用していないと答えた人にその理由をたずねた。人文・社会科学系では「研究分野の収録が少ないから」が教官・院生ともとても多く、さらに教官では「冊子体があれば十分だから」(34%)も高い。自然科学系教官では「冊子体があれば十分だから」(36%)が最も高く、次いで「パソコン画面では読みにくいから」(30%)となっている。

Q2 - 3: なぜここ1~2年、電子ジャーナルを利用されていないのでしょうか。

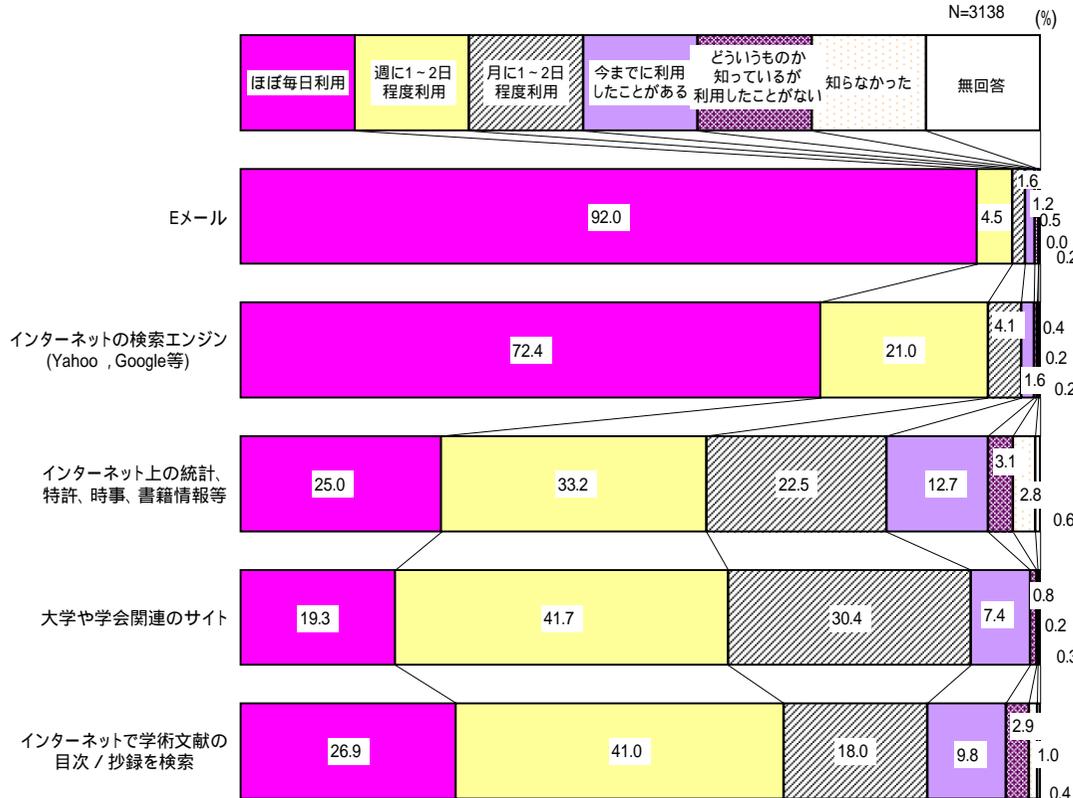


< 参考 > 現状における学術研究上のツール利用度 (1)

電子ジャーナルの他、Webや電子媒体ツールの現在の利用頻度をみたのが左下の図。Eメールでは「ほぼ毎日利用している」が全体の92%を占めている。「週に1日以上」利用するもの(「ほぼ毎日利用」+「週に1~2日程度利用」)を見てみると、Eメールに次いで「インターネットの検索エンジン」(93%)が高く、「インターネットで学術文献の目次/抄録を検索」(68%)、「大学や学会関連のサイト」(61%)、「インターネット上の統計、特許、時事、書籍情報等」(58%)の順。

右下の表はそれを属性別に見たもの。

Q1. 学術研究上、以下のツールをここ1~2年あなたはどの程度利用していますか、



Q1. 学術研究上、以下のツールをここ1~2年あなたはどの程度利用していますか、

		ほぼ毎日利用している (%)	週に1~2日程度利用 (%)	月に1~2日程度利用 (%)	今までに利用したことがある (%)	どういうものか知っているが利用したことがない (%)	知らなかった (%)
Eメール	自然科学系教官 (n=1615)	97.3	1.6	0.3	0.3	0.3	0.0
	自然科学系院生 (n=785)	82.3	9.5	4.5	3.1	0.5	0.0
	人文・社会科学系教官 (n=477)	95.6	3.4	0.0	0.0	0.6	0.0
	人文・社会科学系院生 (n=261)	82.4	9.6	3.4	3.1	1.1	0.0
	2001年全体 (N=2745)	90.4	5.0	1.6	1.7	1.0	0.0
インターネットの検索エンジン (Yahoo, Google等)	自然科学系教官 (n=1615)	66.9	26.3	4.5	1.5	0.5	0.2
	自然科学系院生 (n=785)	85.2	11.0	2.9	1.0	0.0	0.0
	人文・社会科学系教官 (n=477)	68.8	20.9	5.0	3.1	0.9	0.6
	人文・社会科学系院生 (n=261)	74.7	18.8	3.8	1.9	0.4	0.0
	2001年全体 (N=2745)	54.2	28.8	10.6	4.0	1.5	0.5
インターネット上の統計、特許、時事、書籍情報等	自然科学系教官 (n=1615)	20.8	31.5	26.2	14.1	3.4	3.4
	自然科学系院生 (n=785)	27.4	32.9	20.8	12.4	2.6	3.1
	人文・社会科学系教官 (n=477)	30.6	37.2	16.3	10.0	3.8	1.6
	人文・社会科学系院生 (n=261)	33.3	37.2	16.9	10.3	1.5	0.8
	2001年全体 (N=2745)	16.6	29.4	26.6	17.3	7.4	2.3
大学や学会関連のサイト	自然科学系教官 (n=1615)	20.2	45.4	29.4	4.4	0.3	0.2
	自然科学系院生 (n=785)	18.4	38.4	31.7	10.0	0.7	0.2
	人文・社会科学系教官 (n=477)	19.1	35.3	30.0	12.5	2.5	0.3
	人文・社会科学系院生 (n=261)	17.2	40.2	33.0	8.8	0.4	0.0
	2001年全体 (N=2745)	13.2	33.3	33.8	16.2	2.5	0.4
インターネットで学術文献の目次/抄録を検索	自然科学系教官 (n=1615)	29.6	44.9	16.0	7.3	1.6	0.5
	自然科学系院生 (n=785)	30.3	39.9	18.9	8.1	1.2	1.4
	人文・社会科学系教官 (n=477)	15.0	29.7	22.2	20.9	9.4	1.6
	人文・社会科学系院生 (n=261)	21.8	41.0	20.7	10.7	3.8	1.5
	2001年全体 (N=2745)	19.4	35.7	22.7	13.7	6.2	1.8

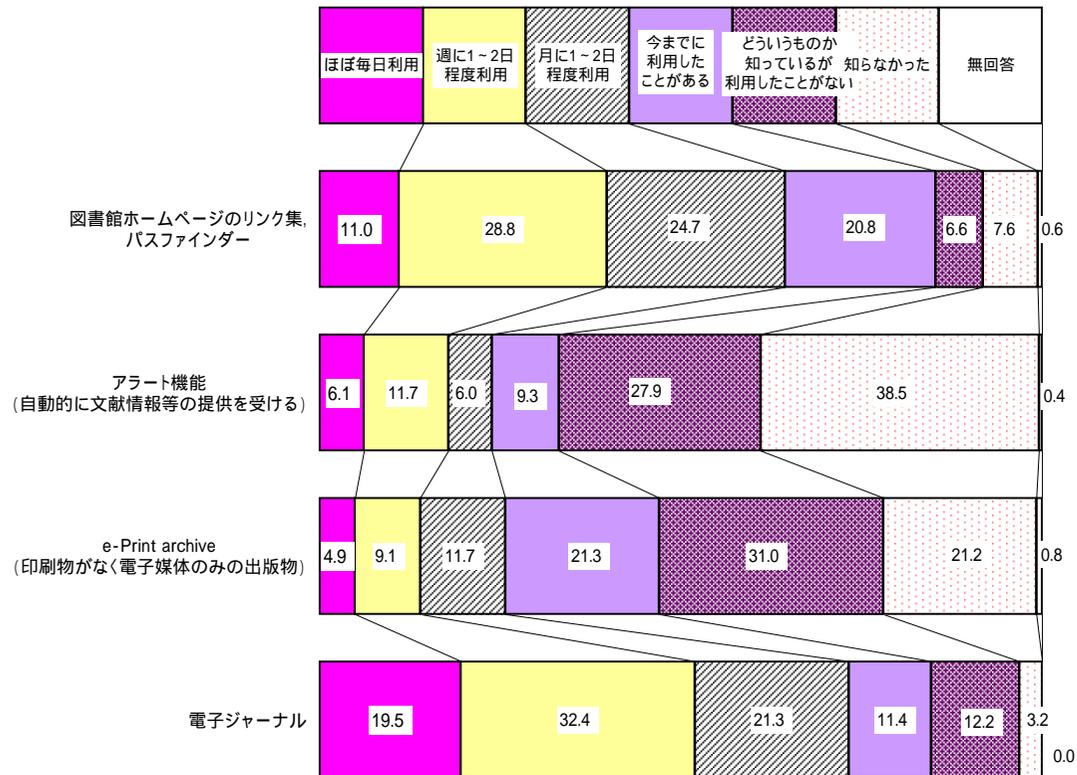
< 参考 > 現状における学術研究上のツール利用度 (2)

(前頁の続き)

Q1. 学術研究上、以下のツールをここ1～2年あなたはどの程度利用していますか、
Q2 - 1. 電子ジャーナルを、あなたはここ1～2年どの程度利用されていますか、

Q1. 学術研究上、以下のツールをここ1～2年あなたはどの程度利用していますか、
Q2 - 1. 電子ジャーナルを、あなたはここ1～2年どの程度利用されていますか、

N=3138 (%)



(%)

			ほぼ毎日利用している	週に1～2日程度利用	月に1～2日程度	今までに利用したことがある	どういものか知っているが知らなかった	利用したことがない	知らなかった
図書館ホームページのリンク集、パスファインダー	自然科学系教官	(n=1615)	10.5	29.2	25.8	19.9	6.5	7.8	
	自然科学系院生	(n=785)	11.0	29.8	24.3	21.5	4.8	8.1	
	人文・社会科学系教官	(n=477)	10.0	23.4	22.2	24.1	9.7	8.4	
	人文・社会科学系院生	(n=261)	15.7	32.6	23.4	18.4	6.9	3.1	
アラート機能 (自動的に文献情報等の提供を受ける)	自然科学系教官	(n=1615)	9.0	15.0	7.1	11.0	28.9	28.8	
	自然科学系院生	(n=785)	1.4	9.5	5.0	6.0	27.0	50.4	
	人文・社会科学系教官	(n=477)	6.3	7.5	5.0	9.4	29.7	41.2	
	人文・社会科学系院生	(n=261)	1.5	5.7	3.8	8.4	21.5	58.6	
e-Print archive (印刷物がなく電子媒体のみの出版物)	自然科学系教官	(n=1615)	6.9	11.0	14.5	23.6	29.7	13.9	
	自然科学系院生	(n=785)	3.6	8.6	9.8	15.3	25.8	35.8	
	人文・社会科学系教官	(n=477)	1.6	4.4	6.9	25.9	42.5	17.2	
	人文・社会科学系院生	(n=261)	1.9	7.3	8.4	17.2	34.1	30.3	
電子ジャーナル	自然科学系教官	(n=1615)	24.7	38.4	22.0	7.9	6.1	0.8	
	自然科学系院生	(n=785)	23.4	37.0	23.2	8.4	5.0	3.1	
	人文・社会科学系教官	(n=477)	4.4	14.1	17.5	24.7	35.6	3.8	
	人文・社会科学系院生	(n=261)	3.1	14.2	18.8	17.6	28.7	17.6	
2001年全体			(N=2745)	12.6	23.9	19.1	17.0	18.6	8.8

2. 電子ジャーナルの利用意向

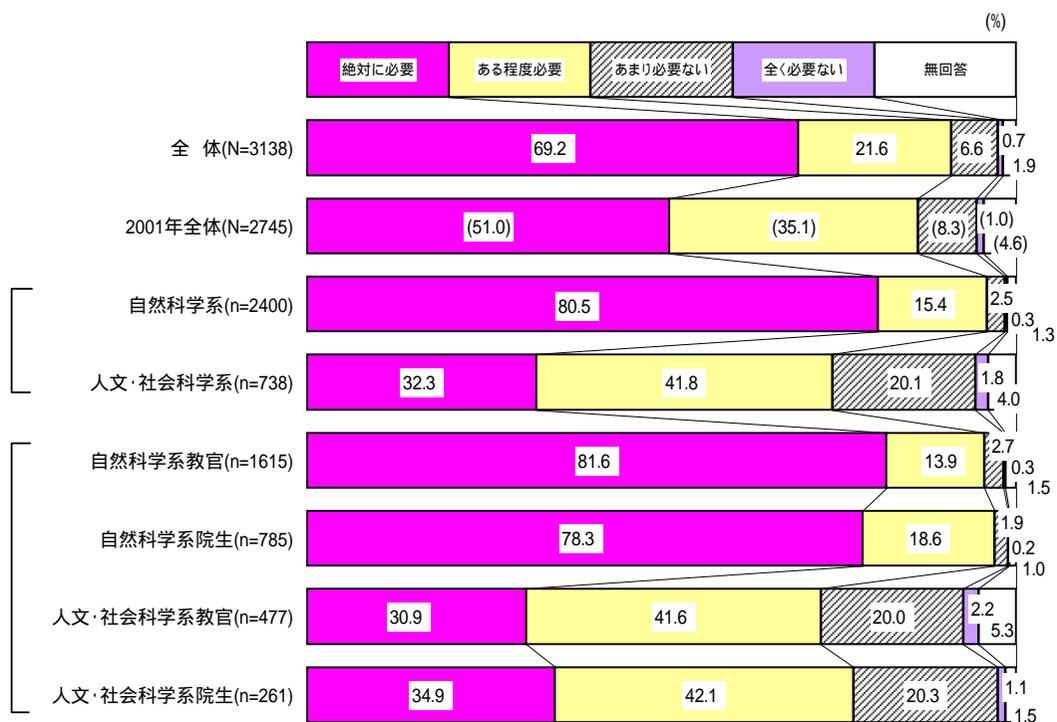
2 - 1 . 電子ジャーナルの必要度

今後の研究活動のための電子ジャーナルの必要度をたずねた。

全体では「絶対に必要」が69%、「ある程度必要」と合わせると9割を占める。

また自然科学系では「絶対に必要」が81%と高い割合を占めているが、人文・社会科学系では「絶対に必要」は32%と低い。

Q6: 今後の研究活動のために、電子ジャーナルはどの程度必要ですか。

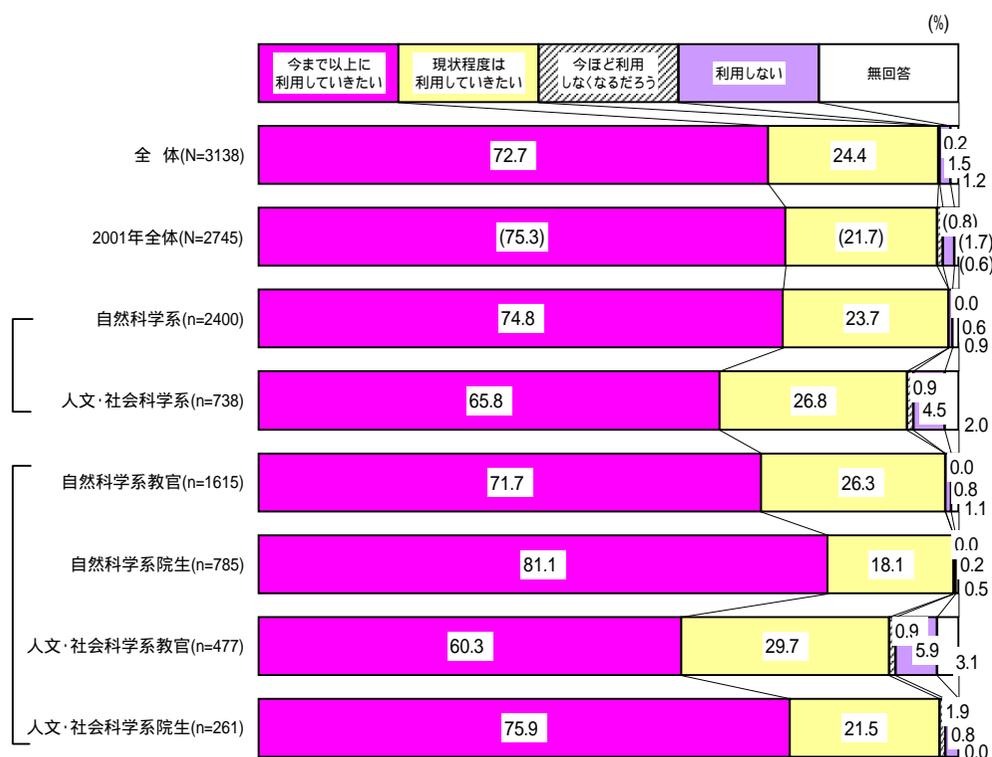


2 - 2 . 電子ジャーナルの利用意向

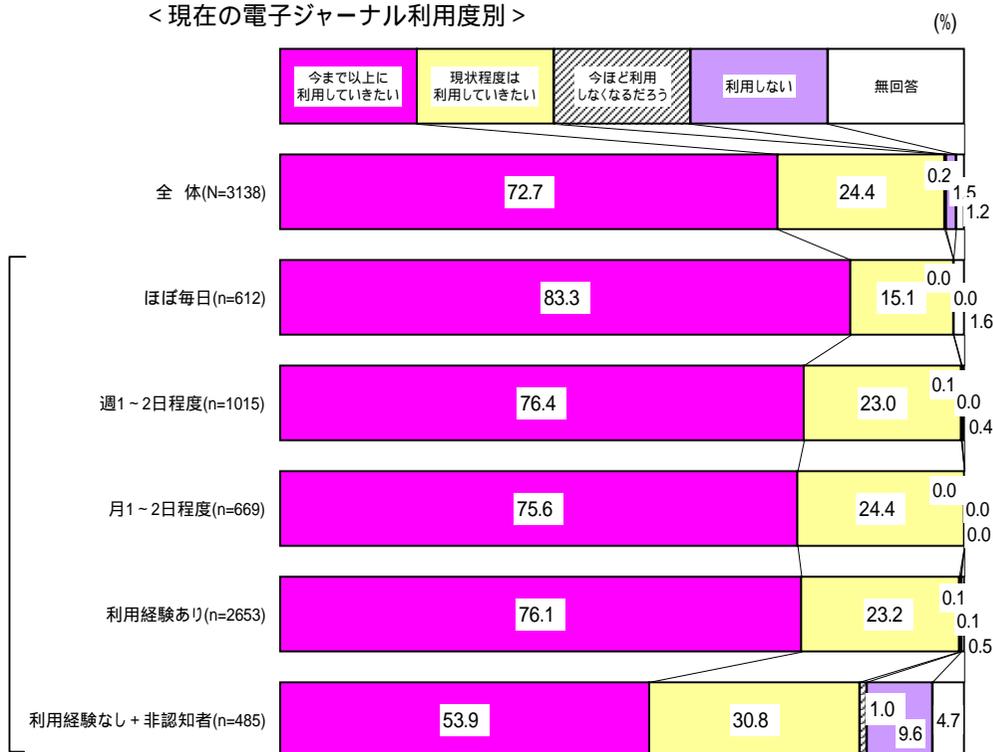
研究のための今後の電子ジャーナルの利用意向をまとめたのが左下のグラフ。全体では「今まで以上に利用していきたい」(73%)が最も高い。分野別・教官/院生別に見ても、最も低い人文・社会科学系教官でも「今まで以上に利用していきたい」と回答した人が6割を超える。

現在の電子ジャーナルの利用頻度別に利用意向をまとめたのが右下のグラフ。「ほぼ毎日利用」～「利用経験あり」と答えた人では「今まで以上に利用していきたい」とする割合が75%以上。「利用経験なし・非認知者」と答えた人でも50%以上の人が「今まで以上に利用していきたい」と回答している。

Q8-f): 今後(も)あなたは、研究のために電子ジャーナルを利用したいと思いますか。



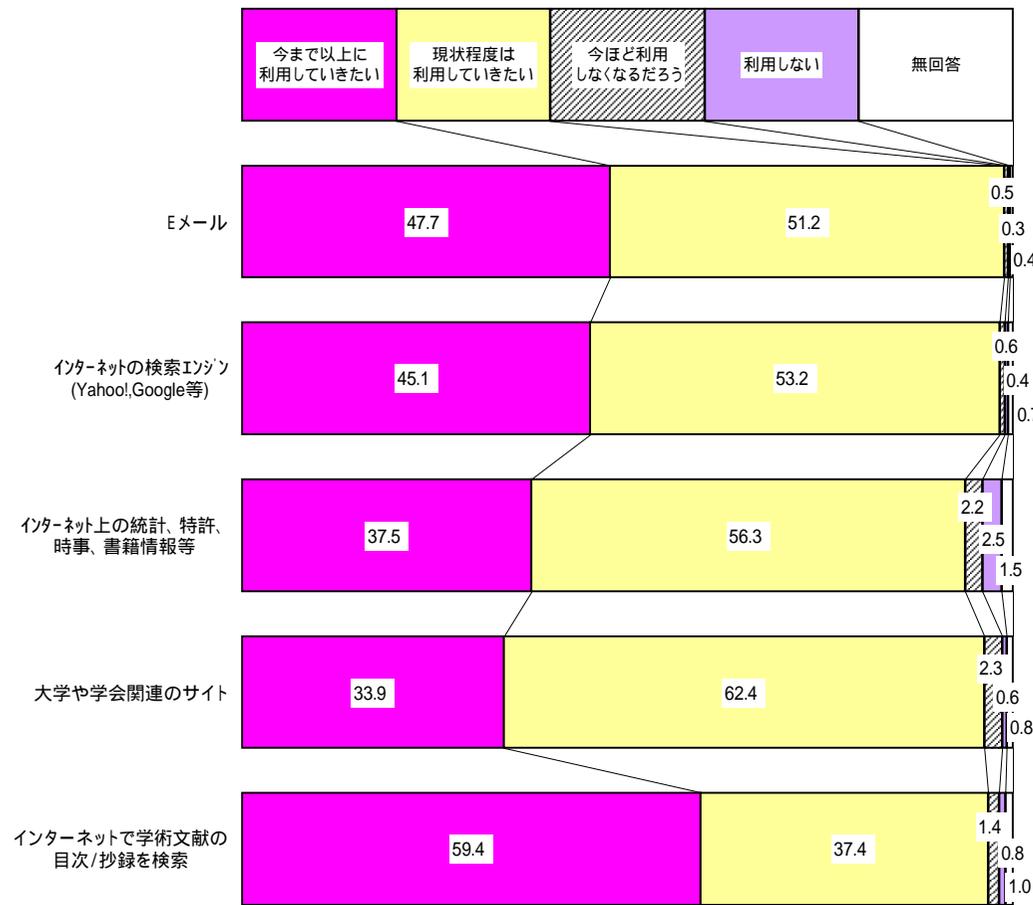
< 現在の電子ジャーナル利用度別 >



< 参考 > 今後における学術研究上のツールの利用意向(1)

電子ジャーナルの他、Webや電子媒体ツールの今後の利用意向をみたのが左下のグラフ。
 「インターネットで学術文献の目次/抄録を検索」は約60%が「今まで以上に利用していきたい」と回答しているのに対し、「電子ジャーナル」を除く他のツールの「今まで以上に利用していきたい」と回答している人は50%以下にとどまる。右表はこれらをさらに属性別にみたもの。

Q8: 今後(も)あなたは、研究のために以下のものを利用したいと思いますか。 N=3138 (%)

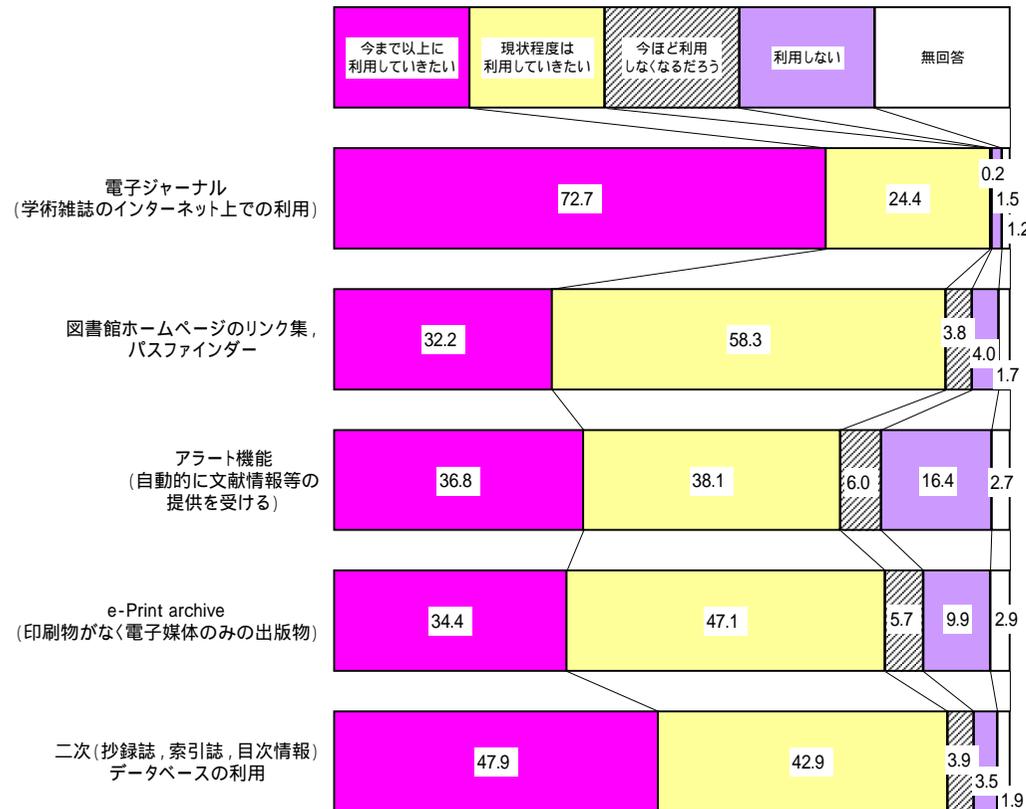


			今まで以上に利用していきたい (%)	現状程度は利用していきたい (%)	今ほど利用しなくなるだろう (%)	利用しない (%)
Eメール	自然科学系教官	(n = 1615)	45.2	53.2	0.8	0.3
	自然科学系院生	(n = 785)	51.6	47.7	0.2	0.0
	人文・社会科学系教官	(n = 477)	45.0	54.1	0.0	0.6
	人文・社会科学系院生	(n = 261)	55.9	44.1	0.0	0.0
	2001年全体	(N = 2745)	52.2	47.1	0.2	0.5
インターネットの検索エンジン (Yahoo!, Google等)	自然科学系教官	(n = 1615)	40.2	58.2	0.5	0.3
	自然科学系院生	(n = 785)	52.3	46.1	1.0	0.2
	人文・社会科学系教官	(n = 477)	44.7	53.4	0.3	0.9
	人文・社会科学系院生	(n = 261)	54.8	44.1	0.4	0.4
	2001年全体	(N = 2745)	45.7	51.6	0.9	0.7
インターネット上の統計、特許、時事、書籍情報等	自然科学系教官	(n = 1615)	31.3	62.2	2.3	2.4
	自然科学系院生	(n = 785)	38.4	54.2	3.3	3.1
	人文・社会科学系教官	(n = 477)	44.4	50.3	0.6	2.2
	人文・社会科学系院生	(n = 261)	60.2	37.2	1.1	1.5
	2001年全体	(N = 2745)	41.9	52.7	2.0	2.7
大学や学会関連のサイト	自然科学系教官	(n = 1615)	30.2	65.4	2.7	0.8
	自然科学系院生	(n = 785)	36.8	60.1	2.4	0.2
	人文・社会科学系教官	(n = 477)	32.5	63.7	1.3	0.9
	人文・社会科学系院生	(n = 261)	50.6	47.9	0.8	0.4
	2001年全体	(N = 2745)	40.4	57.1	1.0	1.1
インターネットで学術文献の目次/抄録を検索	自然科学系教官	(n = 1615)	56.4	40.7	1.8	0.6
	自然科学系院生	(n = 785)	63.7	34.1	0.7	0.7
	人文・社会科学系教官	(n = 477)	55.3	37.8	1.6	1.9
	人文・社会科学系院生	(n = 261)	72.4	26.4	0.8	0.4
	2001年全体	(N = 2745)	67.3	30.8	0.7	1.0

< 参考 > 今後における学術研究上のツールの利用意向 (2)

(前頁の続き)

Q8: 今後(も)あなたは、研究のために以下のものを利用したいと思いますか。 N=3138 (%)



		今まで以上に利用していきたい (%)	現状程度は利用していきたい (%)	今ほど利用しなくなるだろう (%)	利用しない (%)
電子ジャーナル	自然科学系教官 (n = 1615)	71.7	26.3	0.0	0.8
	自然科学系院生 (n = 785)	81.1	18.1	0.0	0.2
	人文・社会科学系教官 (n = 477)	60.3	29.7	0.9	5.9
	人文・社会科学系院生 (n = 261)	75.9	21.5	0.8	1.9
	2001年全体 (N = 2745)	75.3	21.7	0.8	1.7
図書館ホームページのリンク集, パスファインダー	自然科学系教官 (n = 1615)	28.1	61.2	4.4	4.2
	自然科学系院生 (n = 785)	33.9	58.9	4.1	2.6
	人文・社会科学系教官 (n = 477)	35.6	52.5	1.6	6.9
	人文・社会科学系院生 (n = 261)	46.0	49.0	3.1	1.9
アラート機能 (自動的に文献情報等の提供を受ける)	自然科学系教官 (n = 1615)	34.4	40.9	6.1	15.8
	自然科学系院生 (n = 785)	39.9	35.6	6.2	17.2
	人文・社会科学系教官 (n = 477)	32.8	36.6	5.9	18.4
	人文・社会科学系院生 (n = 261)	50.2	31.4	4.2	13.8
e-Print archive (印刷物がなく電子媒体のみの出版物)	自然科学系教官 (n = 1615)	31.3	52.7	5.7	6.9
	自然科学系院生 (n = 785)	37.7	43.9	6.4	11.0
	人文・社会科学系教官 (n = 477)	30.6	42.5	4.1	16.9
	人文・社会科学系院生 (n = 261)	50.2	30.7	7.3	11.9
二次(抄録誌, 索引誌, 目次情報) データベースの利用	自然科学系教官 (n = 1615)	42.5	48.3	4.2	3.1
	自然科学系院生 (n = 785)	55.1	37.2	3.6	3.3
	人文・社会科学系教官 (n = 477)	46.6	39.7	3.4	5.6
	人文・社会科学系院生 (n = 261)	61.7	32.6	3.4	2.3

3. 電子ジャーナルに対する意識・考え方

3 - 1 . 電子ジャーナルに対する意識・考え方

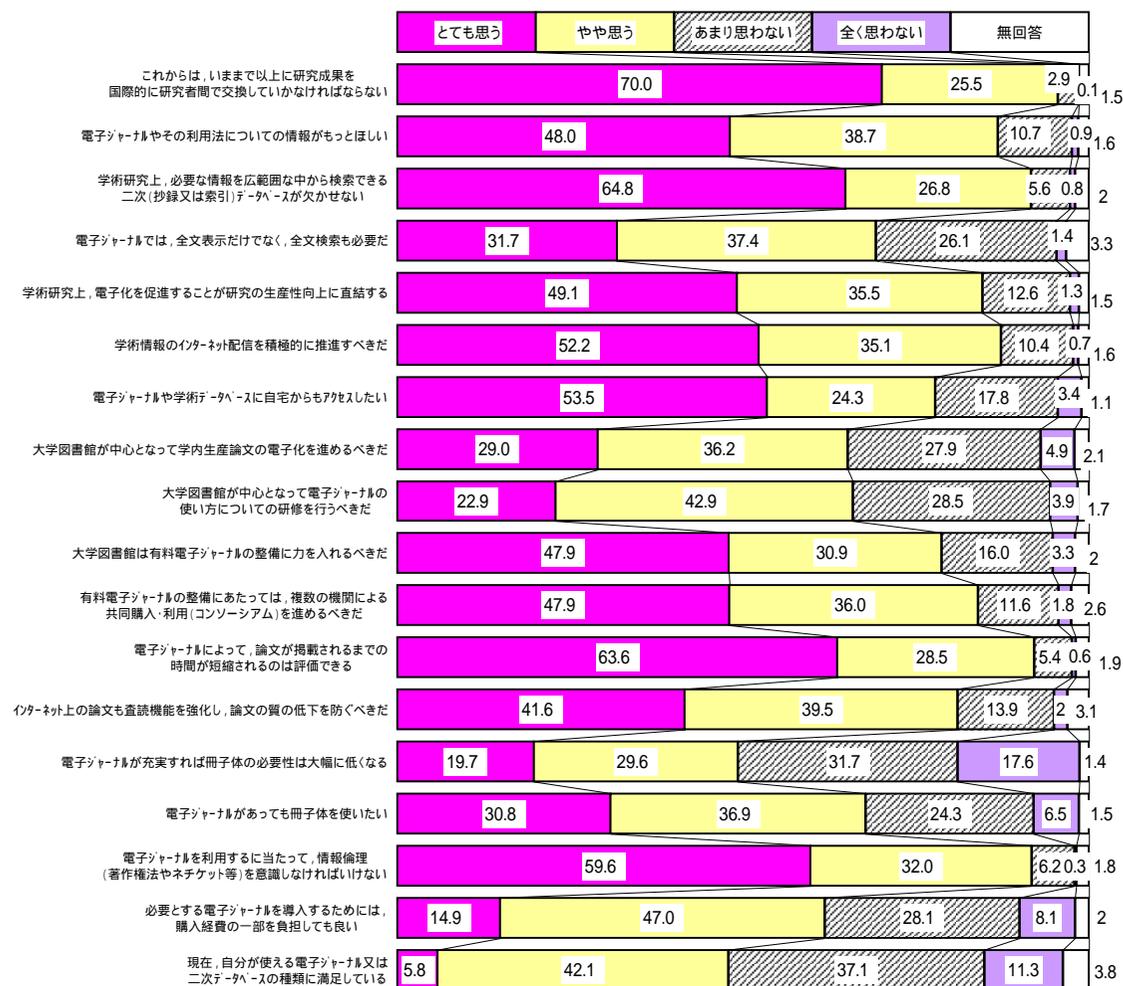
電子ジャーナルに関連するさまざまな考え方について、どのように思うかをたずねた。

「とても思う」と回答した割合が最も高いのは、「これからは、いままで以上に研究成果を国際的に研究者間で交換していかなければならない」で70%。

次いで、「電子ジャーナルによって、論文が掲載されるまでの時間が短縮されるのは評価できる」、「学術研究上、必要な情報を広範囲の中から検索できる二次（抄録又は索引）データベースが欠かせない」で「とても思う」が60%以上と高い。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

N=3138 (%)



2001年度調査スコア表 (N=2745)

	とても思う (%)	やや思う (%)	あまり思わない (%)	全く思わない (%)
今後は今まで以上に研究成果を国際的に研究者間で交換していくべきだ	77.2	19.6	2.1	0.1
電子ジャーナルやその利用法についての情報がもっとほしい	57.6	33.9	7.0	0.5
必要な情報を広範囲から検索できるデータベースが欠かせない	82.8	14.5	1.6	0.2
電子ジャーナルでは、全文表示だけでなく、全文検索も必要だ	40.1	37.9	18.2	1.3
電子化を促進することが研究の生産性向上に直結する	47.2	37.1	12.7	1.8
学術情報のインターネット配信を積極的に推進すべきだ	55.4	36.3	6.7	0.5
電子ジャーナルや学術データベースに自宅からもアクセスしたい	42.4	25.4	24.5	6.4
大学図書館が中心となって学内生産論文の電子化を進めるべきだ	32.0	35.3	26.6	4.2
大学図書館が中心となり電子ジャーナルの使い方の研修をすべきだ	26.4	42.9	25.4	3.3
大学図書館は有料電子ジャーナルの整備に力を入れるべきだ	45.0	35.4	15.7	2.4
有料電子ジャーナルの整備には、複数機関による共同購入・利用を進めるべきだ	45.5	40.1	11.0	1.2
電子ジャーナルにより、論文掲載までの時間が短縮されるのは評価できる	59.1	33.1	5.8	0.3
インターネット上の論文も査読機能を強化し、論文の質の低下を防ぐべきだ	49.2	35.3	12.1	1.0
電子ジャーナルが充実すれば冊子体の必要性は大幅に低くなる	17.5	25.2	34.9	21.3
電子ジャーナルがあっても冊子体を使いたい	35.1	44.4	14.6	5.0

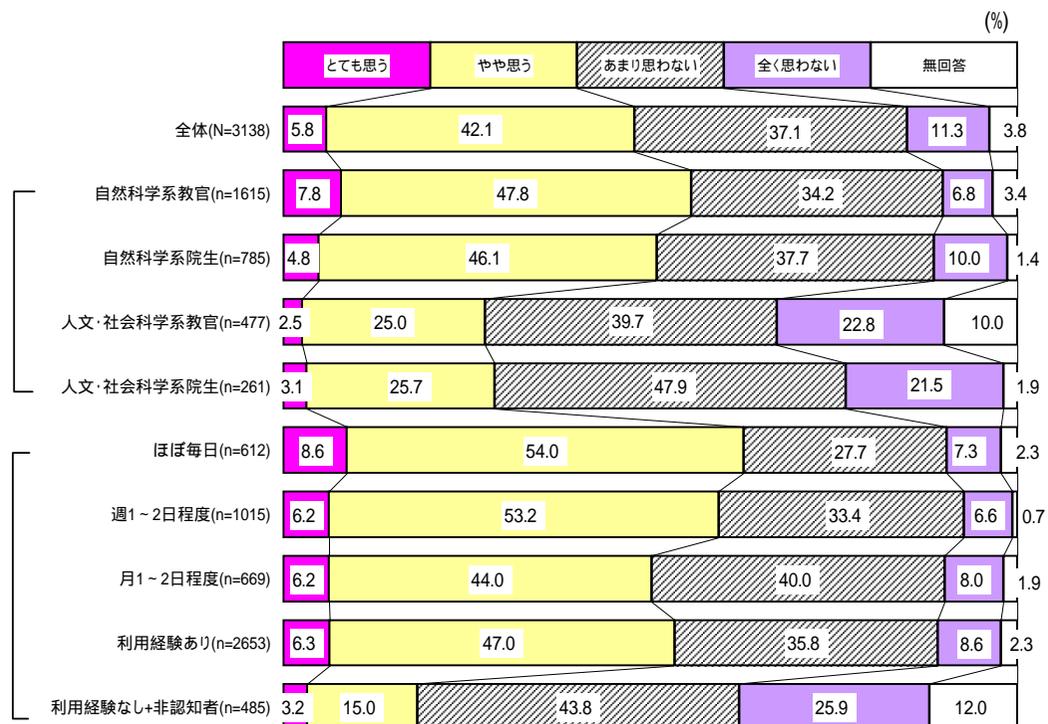
3 - 2 . 利用できる電子ジャーナル・二次データベースの満足度

現在、自分が使える電子ジャーナル又は二次データベースの種類に満足しているかをたずねた。全体では満足している（「とても思う」＋「やや思う」）と答えた人は48%。満足していない（「あまり思わない」＋「全く思わない」）と答えた人とほぼ同じ割合。

分野別では、自然科学系での満足度が、人文・社会科学系のそれを大きく上回る。

Q7：以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

1) 現在、自分が使える電子ジャーナル又は二次データベースの種類に満足している



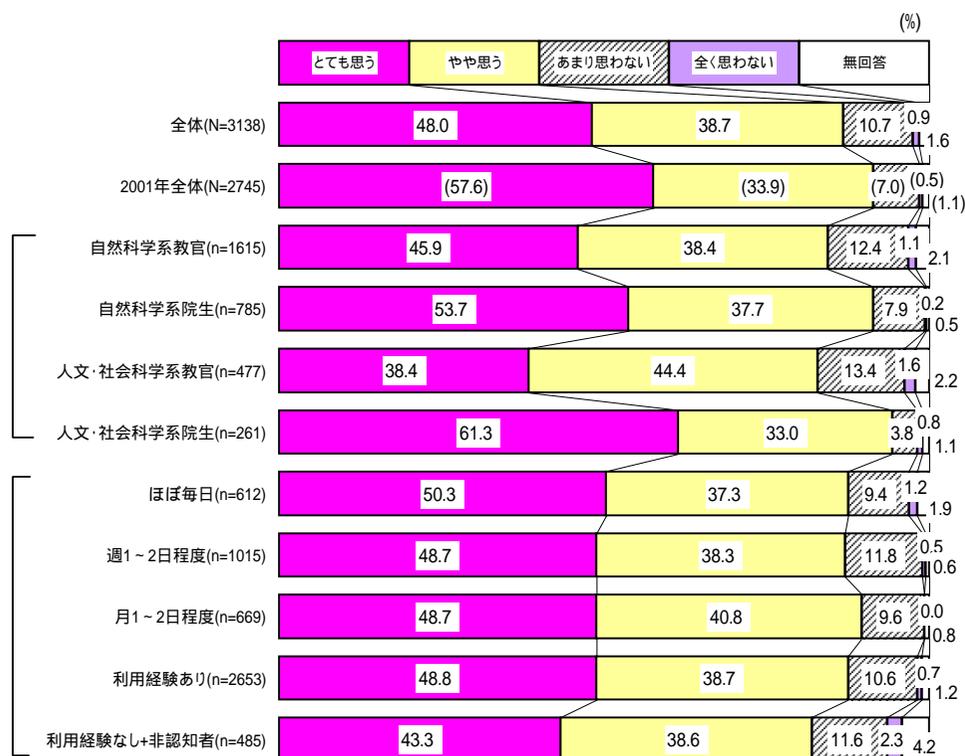
3 - 3 . 電子ジャーナルに関する情報・利用法の提供

電子ジャーナルやその利用法の情報が欲しいと希望（「とても思う」＋「やや思う」）する人が全体の87%。特にその傾向は院生で強く、自然科学系、人文・社会科学系ともに9割を超える。

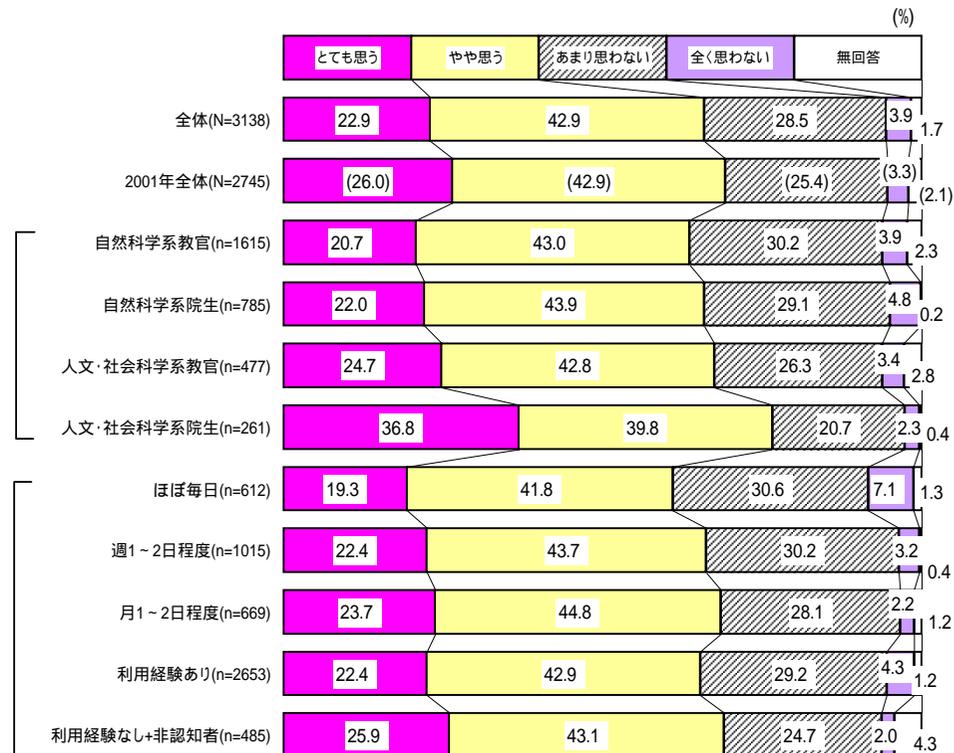
大学図書館による電子ジャーナルの使い方の研修については、全体の66%が行なうべき（「とても思う」＋「やや思う」）と回答。人文・社会科学系院生では特に高く77%。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

b) 電子ジャーナルやその利用法についての情報をもっとほしい



i) 大学図書館が中心となって電子ジャーナルの使い方の研修を行うべきだ



3 - 4 . 文献検索のニーズについて

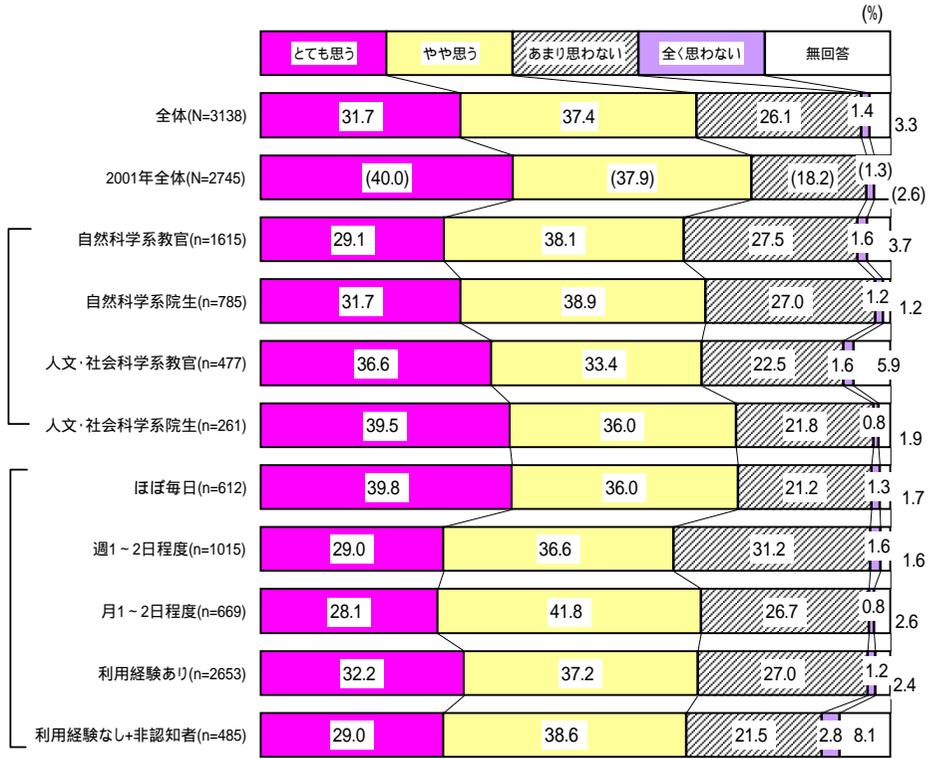
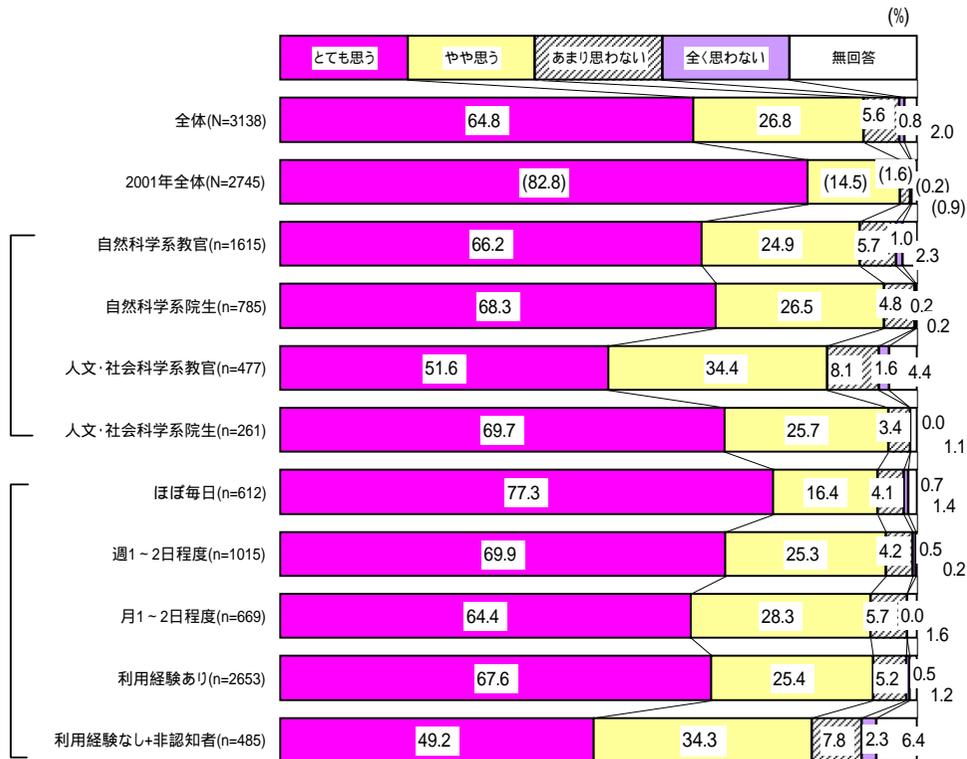
広範囲から検索できるデータベースへのニーズに関しては、「とても思う」と回答した人が全体では約65%。2001年度調査時の83%を下回っている。データベースが欠かせないと思う合計（「とても思う」+「やや思う」）では、9割以上になっている。

電子ジャーナルの全文検索へのニーズについては、全体では約70%が必要（「とても思う」+「やや思う」）としている。自然科学系に比べ、人文・社会科学系でそのスコアがやや高い。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

c) 学術研究上、必要な情報を広範囲の中から検索できる二次(抄録又は索引)データベースが欠かせない

d) 電子ジャーナルでは、全文表示だけでなく、全文検索も必要だ



3 - 5 . 電子化の推進について

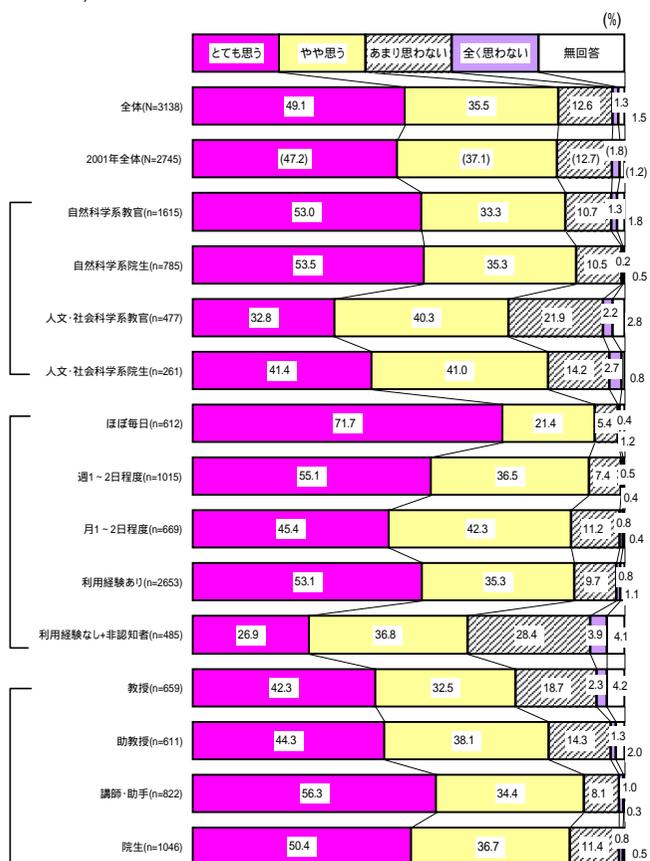
電子化の促進が研究の生産性向上に直結するかの問いについては、直結すると思う人（「とても思う」＋「やや思う」）は全体の8割以上。教授層や人文・社会科学系で「とても思う」とする割合が低い。

学術情報のインターネット配信に関しては、特に院生が「とても思う」割合が高く、また電子ジャーナルの利用頻度別では「ほぼ毎日」利用している人は「とても思う」と回答した人が7割。

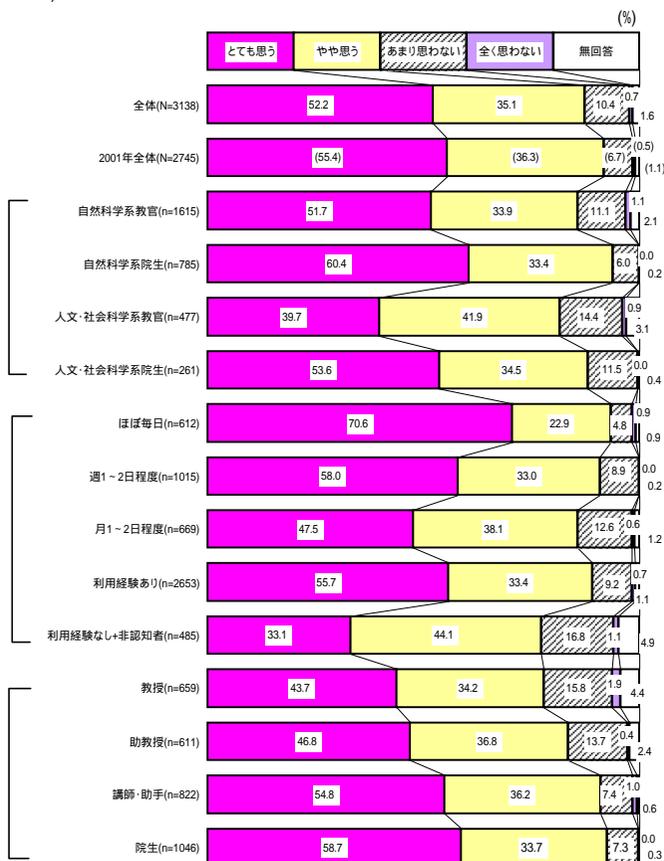
大学図書館が中心になって進める学内生産論文の電子化については、そう思う人（「とても思う」＋「やや思う」）が65%。院生の方が、そう思う割合が多い。

Q7：以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

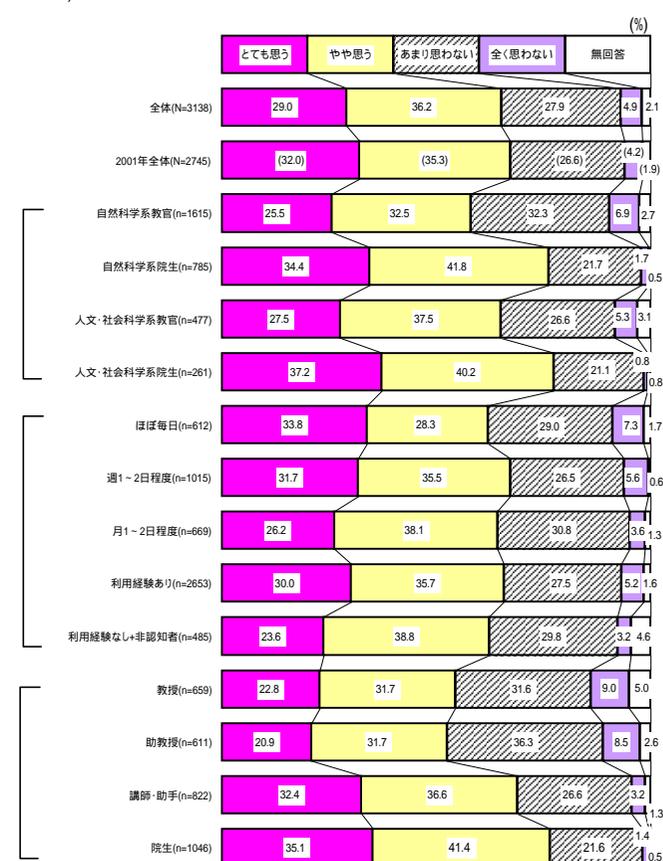
e) 学術研究上電子化を促進することが研究の生産性向上に直結する



f) 学術情報のインターネット配信を積極的に推進すべきだ



h) 大学図書館が中心となって学内生産論文の電子化を進めるべきだ



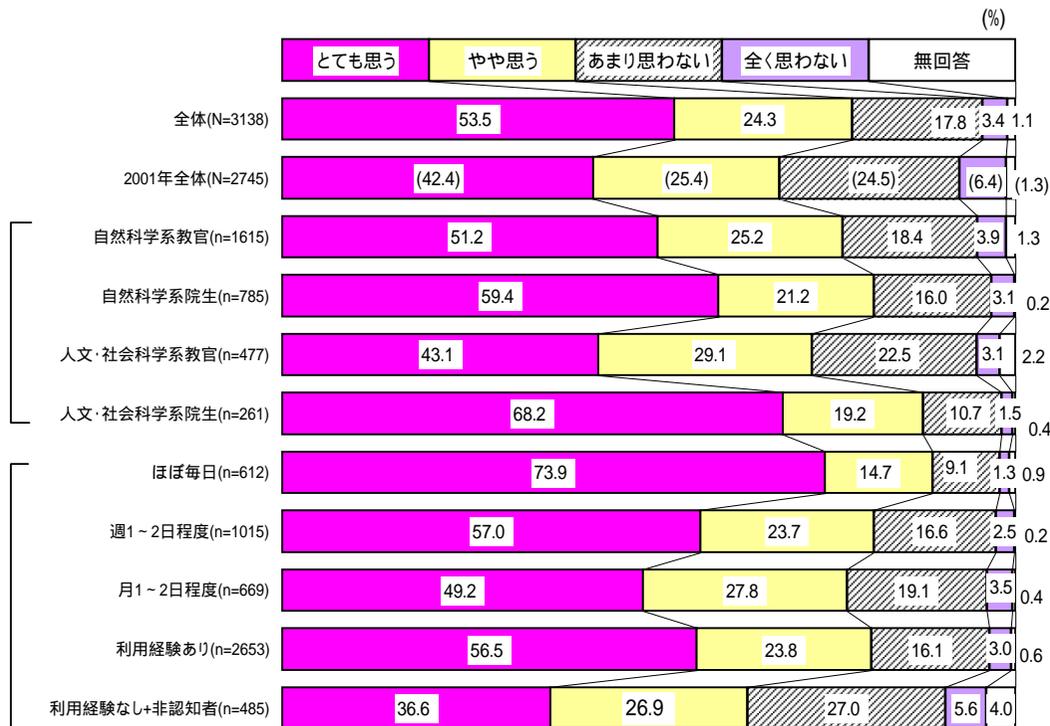
3 - 6 . リモートアクセスについて

電子ジャーナルや学術データベースへの自宅からのアクセスについては、全体の5割以上が「とても思う」としている。特に人文・社会科学系院生では68%と非常に高い。

また電子ジャーナルの利用頻度が高い人ほど「とても思う」割合が高くなっている。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

g) 電子ジャーナルや学術データベースに自宅からもアクセスしたい



3-7. 有料電子ジャーナルの整備・経費負担について

大学図書館による有料電子ジャーナルの整備に関しては、全体の約8割が力を入れるべき（「とても思う」+「やや思う」）としているが、特に電子ジャーナルの利用頻度の高い層で「とても思う」の割合が高くなっている。

有料電子ジャーナルの整備にあたってのコンソーシアムの推進に関しては、全体の48%が「とても思う」としており、特に自然科学系教官では高い。また、週一以上電子ジャーナルを利用する層では「とても思う」が特に高い。

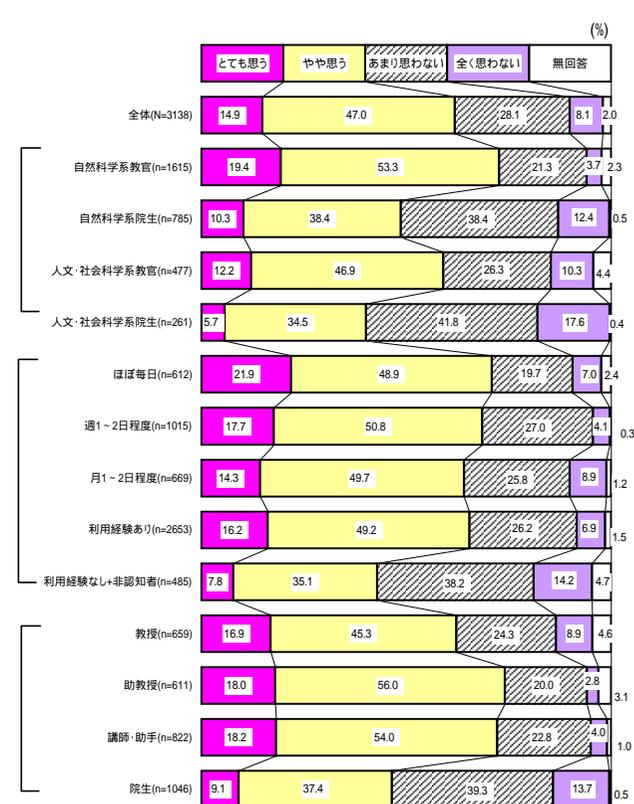
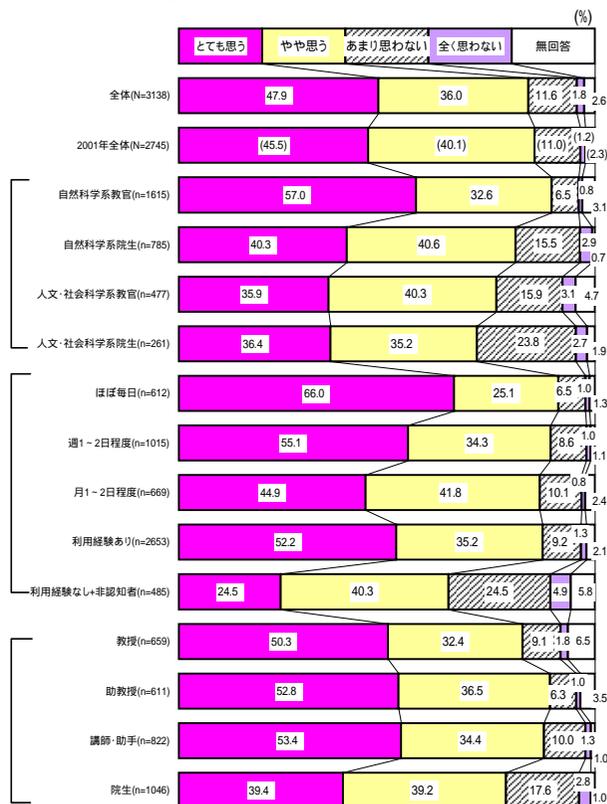
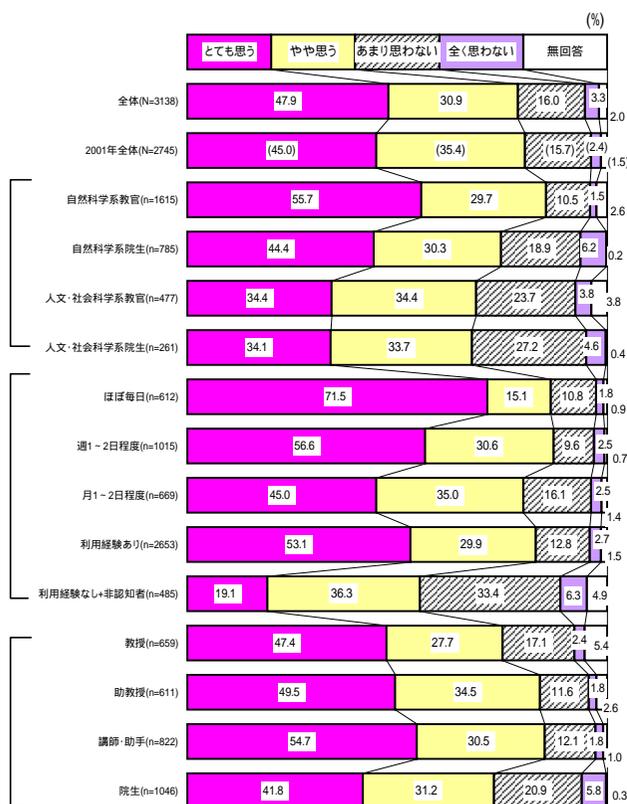
必要とする電子ジャーナルの導入の経費負担に関しては、「とても思う」と回答した人は全体の15%と低い。

Q7：以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

j) 大学図書館は有料電子ジャーナルの整備に力を入れるべきだ

k) 有料電子ジャーナルの整備にあたっては、複数の機関による共同購入・利用（コンソーシアム）を進めるべきだ

q) 必要とする電子ジャーナルを導入するためには、購入経費の一部を負担しても良い



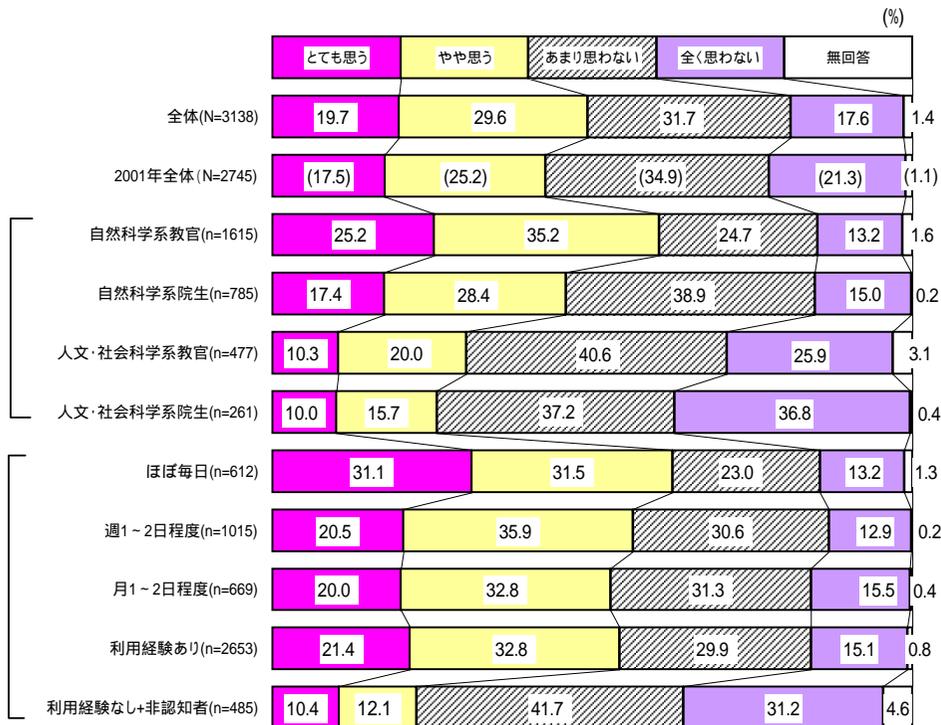
3 - 8 . 冊子体の必要性

電子ジャーナルの充実に伴う冊子体の必要性に関しては、「必要性が低くなると思わない」（「あまり思わない」+「まったく思わない」）と回答した人が全体の約5割。電子ジャーナルとともに冊子体の必要性を感じている人が多い。

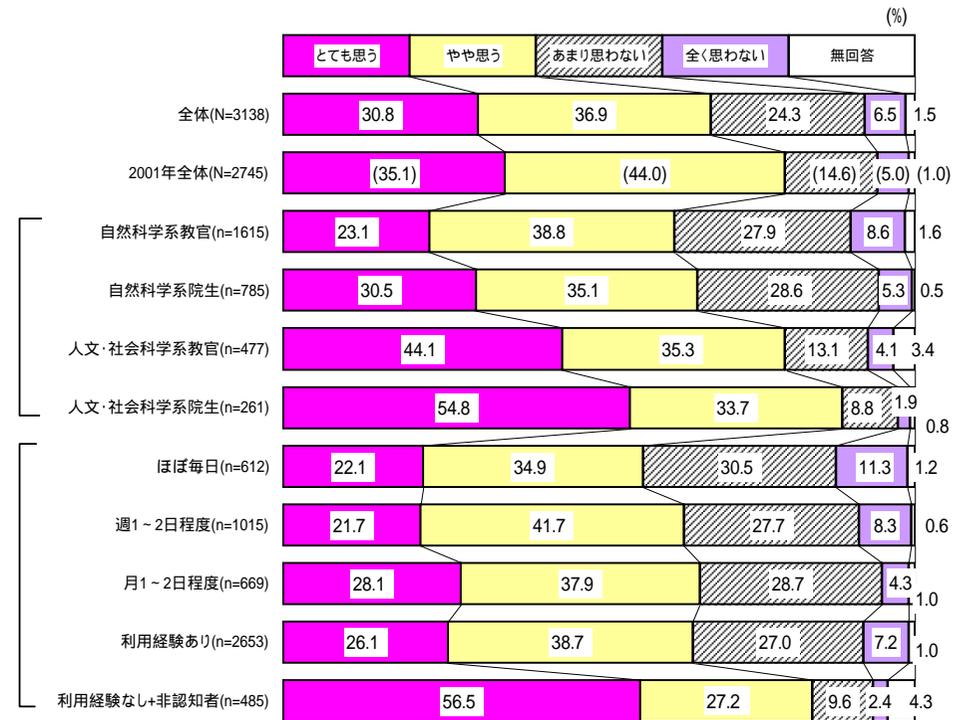
電子ジャーナルがあっても冊子体を使いたいかどうかに関しては、自然科学系より人文・社会科学系、教官より院生のほうが「とても思う」とする割合が高い。冊子体の必要性の大幅な低下に関しては、この反対の傾向が見られる。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

n) 電子ジャーナルが充実すれば冊子体の必要性は大幅に低くなる



o) 電子ジャーナルがあっても冊子体を使いたい



3 - 9 . 論文掲載までのスピードアップ / 査読機能について

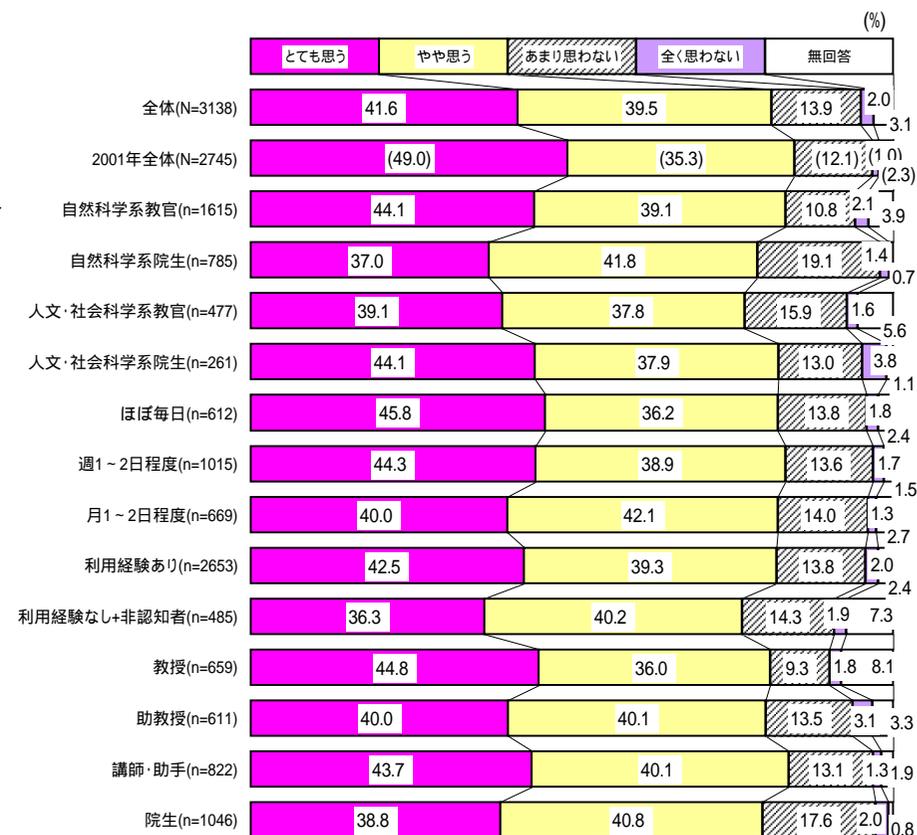
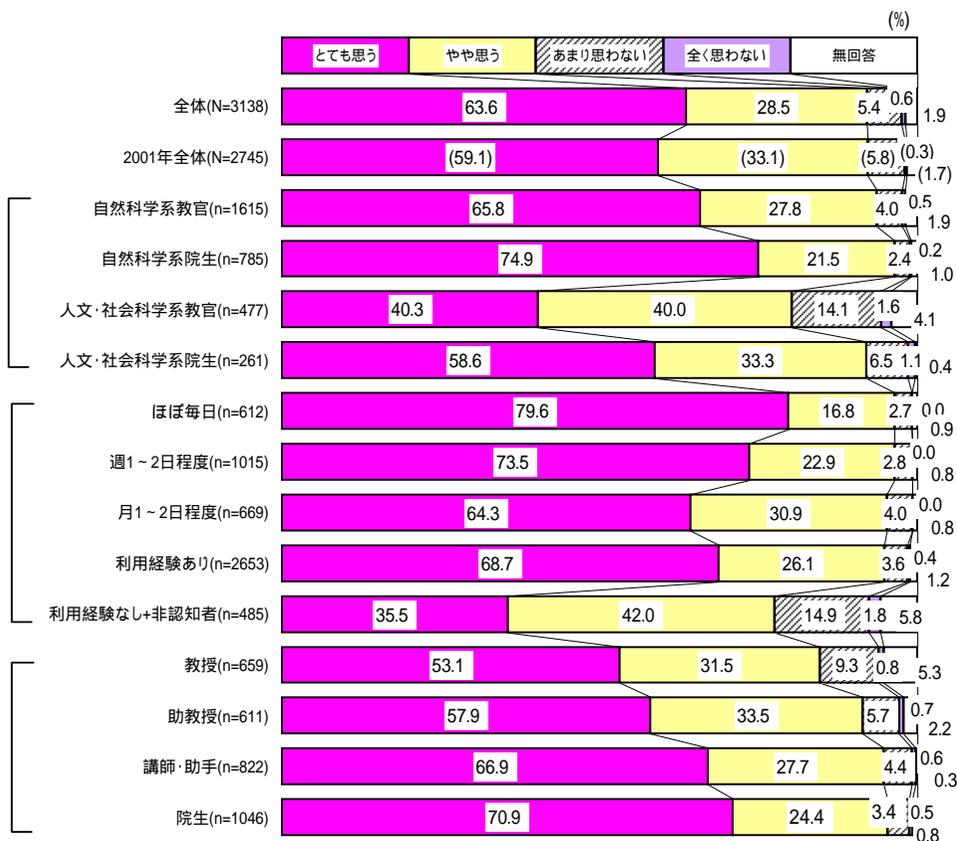
電子ジャーナルによる論文掲載までの時間の短縮に対する評価については、約64%が「とても思う」としており、人文・社会科学系より自然科学系、教員より院生で「とても思う」が高い。また、電子ジャーナルを「ほぼ毎日」利用する層では80%。

インターネット上の論文の査読機能の強化に関しては、42%が「とても思う」となっているが、属性別でも大きなスコアの差はない。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

l) 電子ジャーナルによって、論文が掲載されるまでの時間が短縮されるのは評価できる

m) インターネット上の論文も査読機能を強化し、論文の質の低下を防ぐべきだ

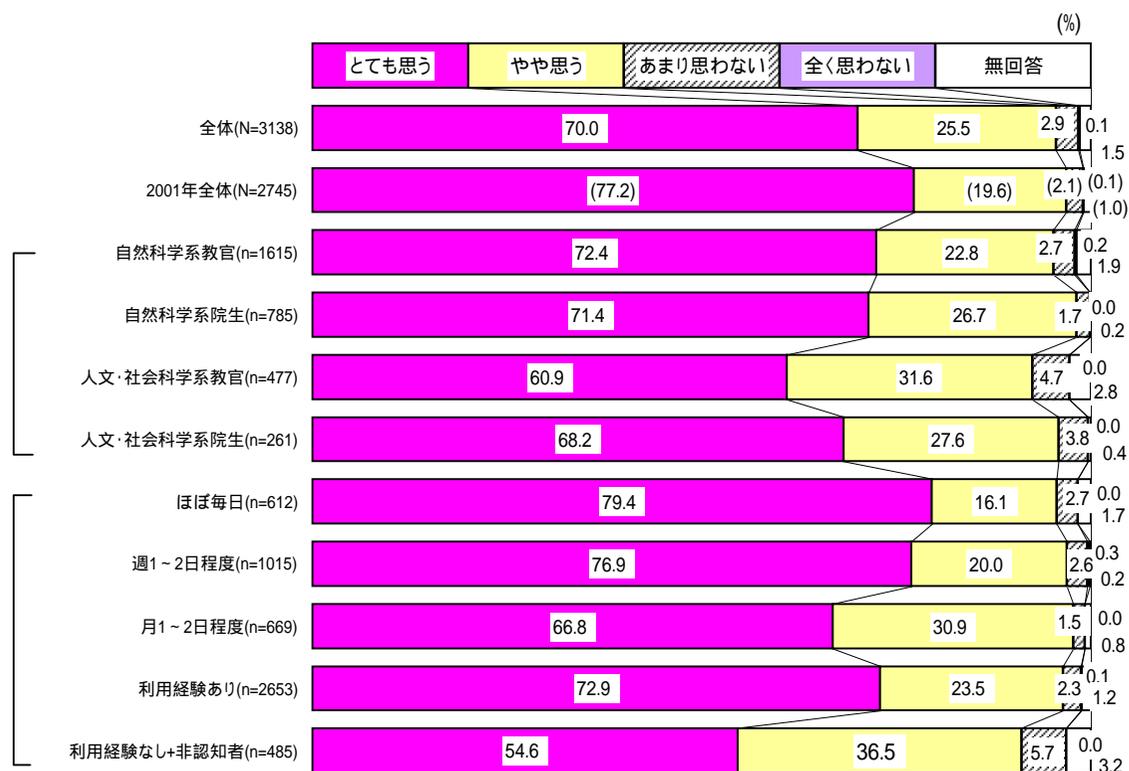


3 - 10 . 研究成果の国際的な交換

いままで以上に研究成果を国際的に研究者間で交換していかなければならないという問いに関して、全体の7割が「とても思う」と回答。属性別でも電子ジャーナルの「利用経験なし+非認知者」で若干低いが、50%以上が「とても思う」と回答している。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

a) これからはいままで以上に研究成果を国際的に研究者間で交換していかなければならない

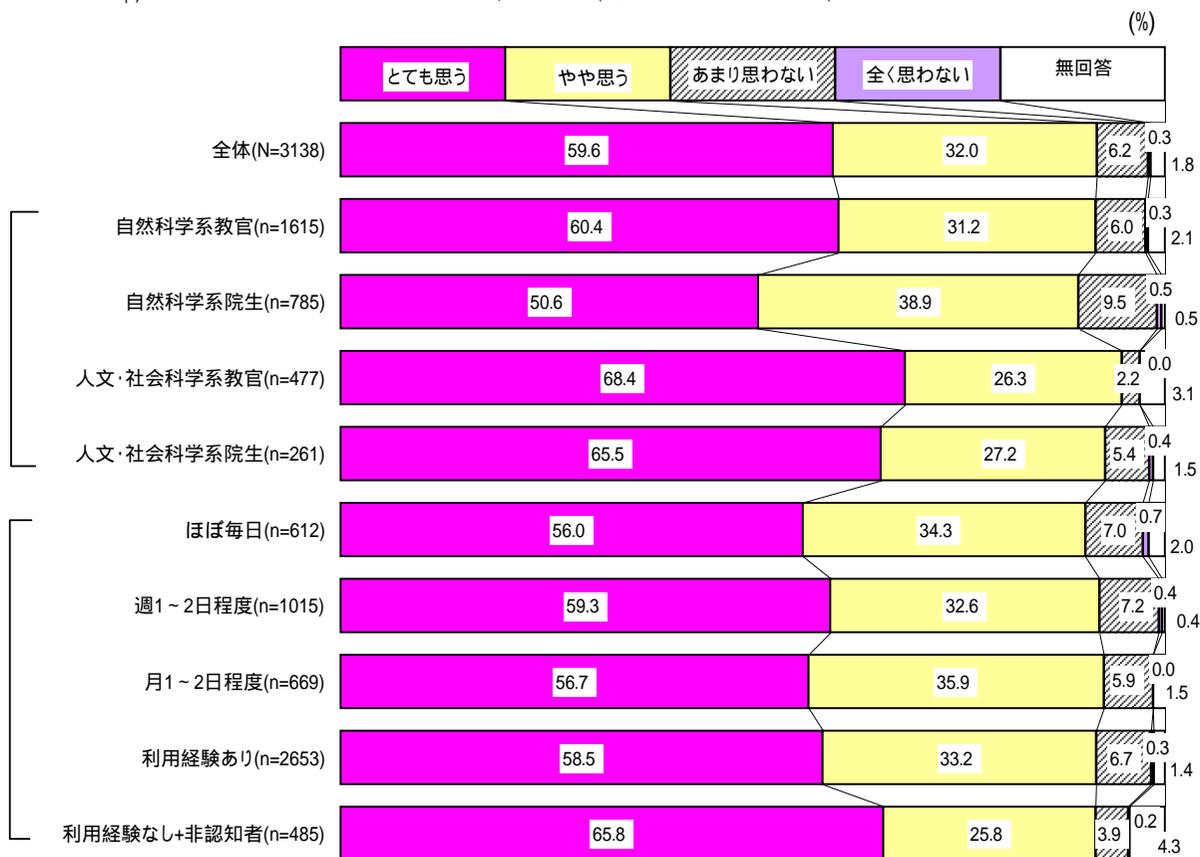


3 - 11 . 情報倫理

電子ジャーナルを利用する際の情報倫理の意識に関して、「とても思う」と回答した人が全体の60%。
また「とても思う」+「やや思う」を合計すると、属性別すべてで約9割を占める。

Q7: 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。

p) 電子ジャーナルを利用するに当たって、情報倫理(著作権法やネチケット等)を意識しなければいけない



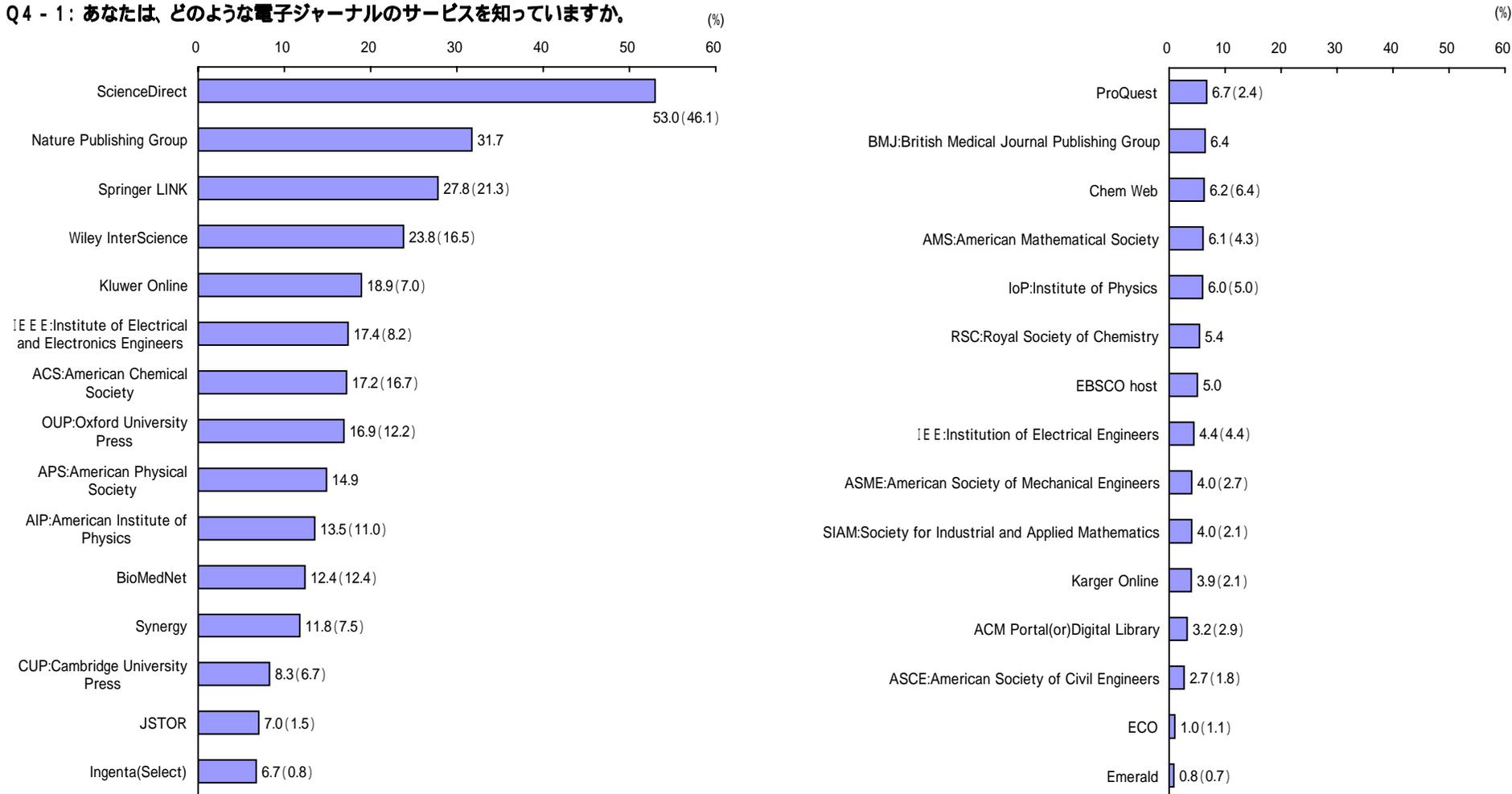
4. 主要な電子ジャーナルの 認知・利用・評価

4 - 1 . 主要な電子ジャーナルの認知度 (1)

どのような電子ジャーナルのサービスを知っているかを高い順にみたのが下のグラフ。
 「ScienceDirect」が53%で、特に認知度が高い。次いで「Nature Publishing Group」(32%)、「Springer Link」(28%)となっている。

Q4 - 1: あなたは、どのような電子ジャーナルのサービスを知っていますか。

N=3138 カッコ内数値は2001年全体(N=2745)

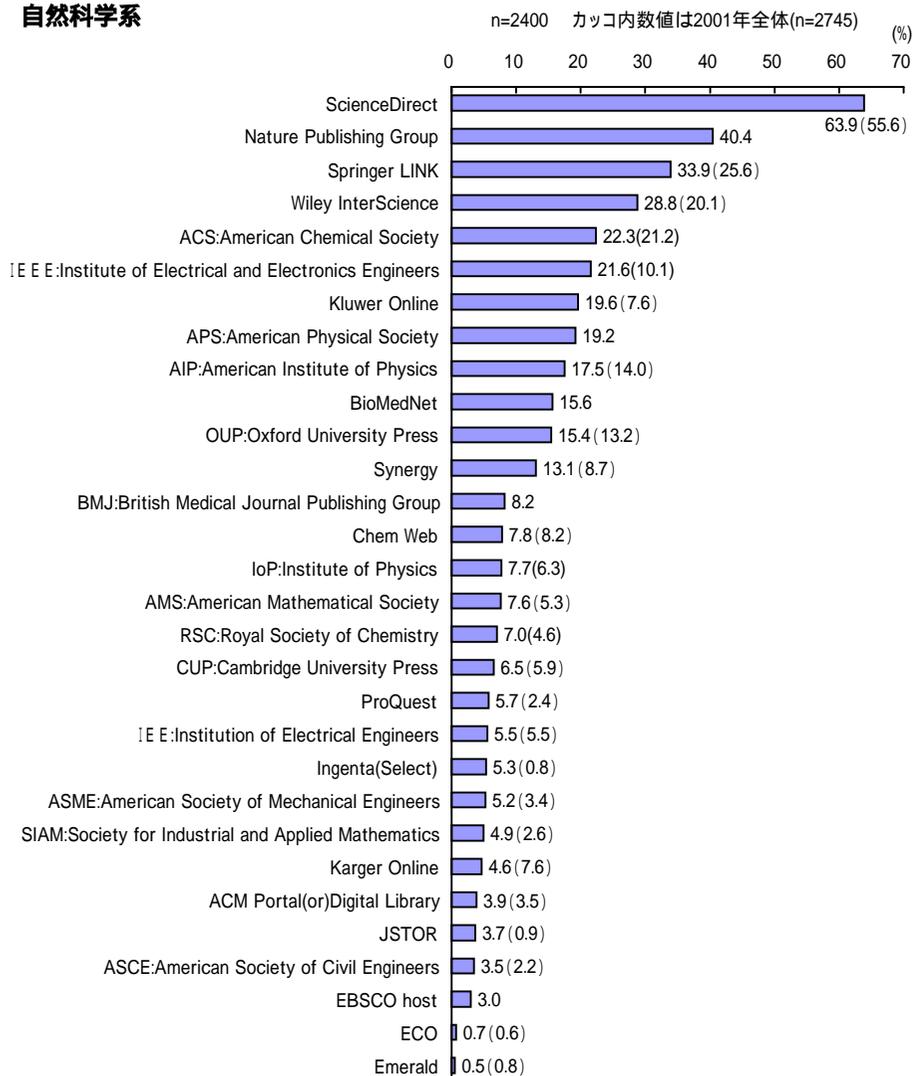


4 - 1 . 主要な電子ジャーナルの認知度 (2)

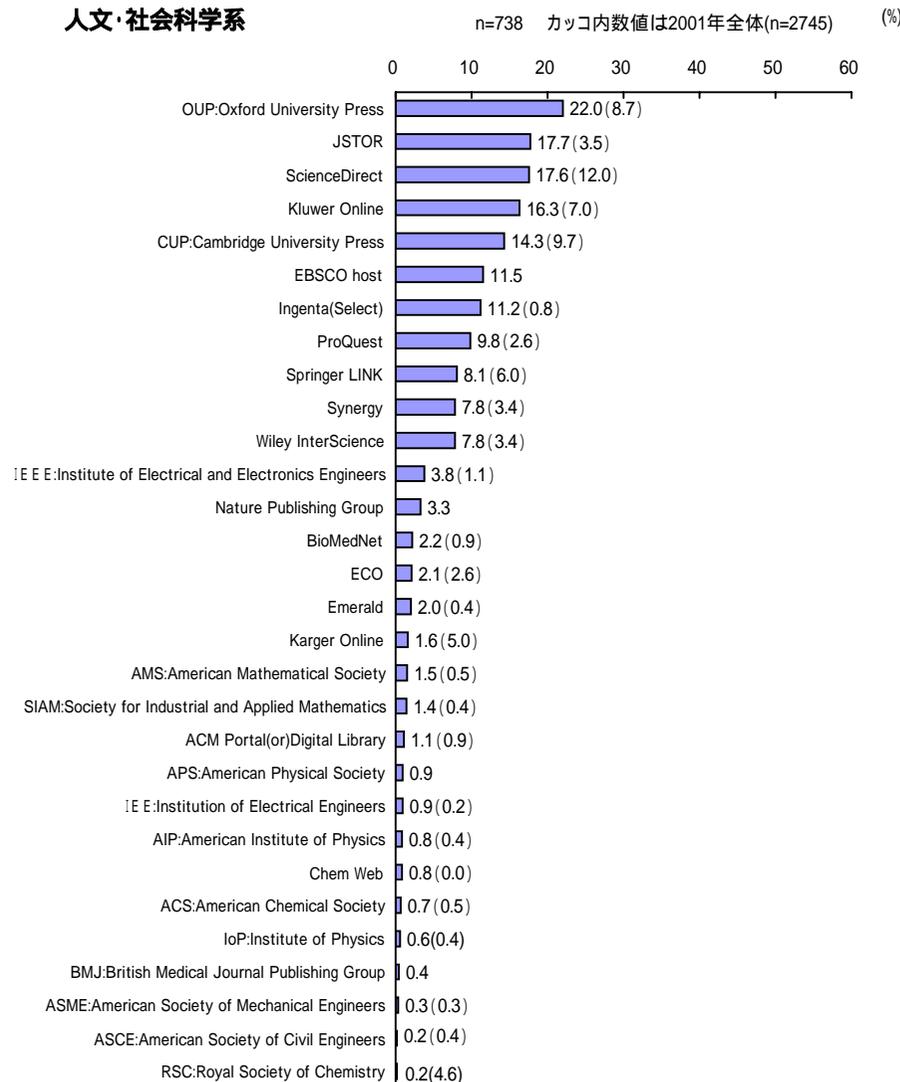
電子ジャーナルの認知度を自然科学系 / 人文・社会科学系別にまとめたのが以下のグラフ。
自然科学系で一番高いのは「ScienceDirect」(64%)、次いで「Nature Publishing Group」(40%)、「Springer LINK」(34%)の順。
人文・社会科学系では「OUP:Oxford University Press」(22%)と最も高く、「JSTOR」(18%)、「ScienceDirect」(18%)と続く。

Q4 - 1: あなたは、どのような電子ジャーナルのサービスを知っていますか。

自然科学系



人文・社会科学系

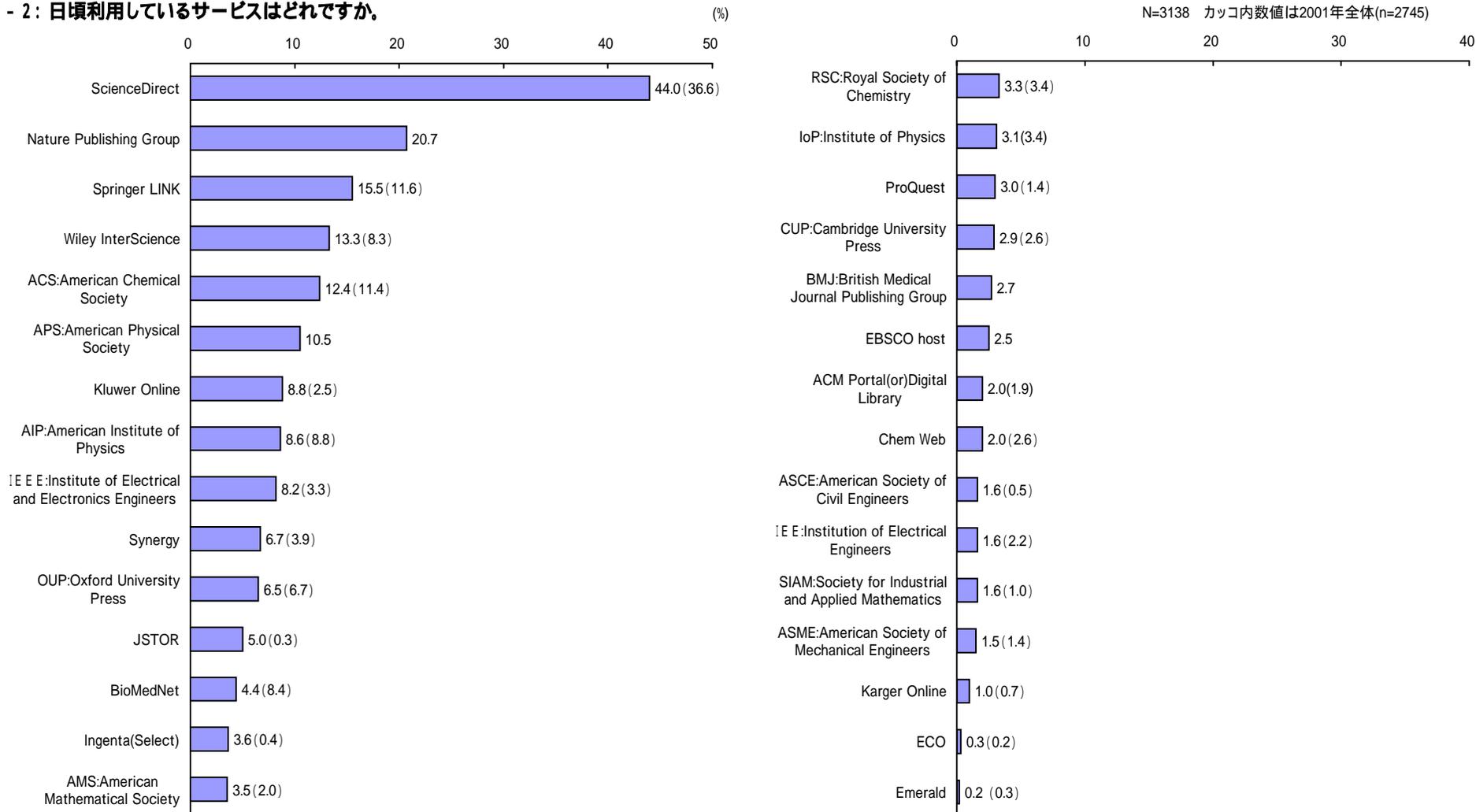


4 - 2 . 主要な電子ジャーナルの利用度 (1)

日頃利用しているサービスのランキングをみたのが下のグラフ。

第1位は「ScienceDirect」(44%)で特に高く、第2位は「Nature Publishing Group」(21%)、第3位は「Springer LINK」(16%)。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスはどれですか。



4 - 2 . 主要な電子ジャーナルの利用度(2) - 1

日頃利用しているサービスを、自然科学/人文・社会科学系/教官/院生別のランキングにまとめたのが以下の表。
自然科学系では、いずれの層でも「ScienceDirect」が第1位、「Nature Publishing Group」が第2位になっている。また人文・社会科学系では、いずれの層でも「JSTOR」と「ScienceDirect」が上位2位にランキングされている。
また、「Kluwer Online」「OUP: Oxford University Press」「Synergy」は、すべての10位以内にランキングされている。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスはどれですか。

カッコ内数値は2001年全体

< 自然科学系 >		n=2400 (n=2146)		< 自然科学系教官 >		n=1615 (n=1414)		< 自然科学系院生 >		n=785 (n=732)	
1. ScienceDirect	53.3 (44.4)	1. ScienceDirect	53.6 (48.4)	1. ScienceDirect	52.5 (36.6)						
2. Nature Publishing Group	26.5	2. Nature Publishing Group	27.1	2. Nature Publishing Group	25.1						
3. Springer LINK	19.4 (14.2)	3. Springer LINK	21.0 (16.6)	3. ACS: American Chemical Society	19.6 (11.4)						
4. WileyInterScience	16.4 (10.4)	4. WileyInterScience	17.8 (14.4)	4. Springer LINK	16.0 (11.6)						
5. ACS: American Chemical Society	16.2 (14.6)	5. APS: American Physical Society	14.9	5. WileyInterScience	13.6 (8.3)						
6. APS: American Physical Society	13.7	6. ACS: American Chemical Society	14.5 (15.6)	6. IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers	12.4 (6.3)						
7. AIP: American Institute of Physics	11.2 (11.2)	7. AIP: American Institute of Physics	13.7 (12.4)	7. APS: American Physical Society	11.2 (12.7)						
8. IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers	10.5 (4.1)	8. IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers	9.5 (3.0)	8. Kluwer Online	8.4 (0.4)						
9. Kluwer Online	8.7 (2.6)	9. Kluwer Online	8.9 (3.7)	9. AIP: American Institute of Physics	6.0						
10. Synergy	7.3 (4.7)	10. Synergy	8.1 (5.2)	10. Synergy	5.7						

< 人文・社会科学系 >		n=738 (n=599)		< 人文・社会科学系教官 >		n=477 (n=416)		< 人文・社会科学系院生 >		n=261 (n=183)	
1. JSTOR	15.2 (1.0)	1. JSTOR	17.2 (0.5)	1. ScienceDirect	13.4 (5.5)						
2. ScienceDirect	13.8 (8.5)	2. ScienceDirect	14.1 (9.8)	2. JSTOR	11.5 (2.2)						
3. OUP: Oxford University Press	10.7 (4.6)	3. OUP: Oxford University Press	11.9 (5.7)	3. Ingenta(Select)	8.8 (0.0)						
4. Kluwer Online	9.0 (2.1)	4. Kluwer Online	10.3 (2.1)	4. EBSCOhost	8.4						
5. Ingenta(Select)	8.4	5. Ingenta(Select)	8.1 (0.5)	4. OUP: Oxford University Press	8.4 (2.2)						
6. EBSCOhost	7.8	6. EBSCOhost	7.5	6. Kluwer Online	6.5 (2.2)						
7. CUP: Cambridge University Press	6.2 (4.6)	7. CUP: Cambridge University Press	6.9 (5.2)	7. CUP: Cambridge University Press	5.0 (3.3)						
8. ProQuest	5.1 (1.8)	8. Synergy	5.6 (1.5)	8. ProQuest	4.6 (1.1)						
9. Synergy	4.6 (1.4)	9. ProQuest	5.3 (2.1)	9. WileyInterScience	3.8 (0.5)						
10. WileyInterScience	3.2 (0.9)	10. Springer LINK	3.1 (3.1)	10. Synergy	2.7 (1.1)						

4 - 2 . 主要な電子ジャーナルの利用度 (2) - 2

日頃利用しているサービスを、研究分野別のランキングにまとめたのが以下の表。
 「理学」「農学」「工学」「医歯薬学」で「ScienceDirect」が第1位になっている。
 「人文科学系」では、「OUP: Oxford University Press」、「社会科学系」では「JSTOR」がそれぞれトップ。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスはどれですか。

カッコ内数値は2001年全体

< 人文科学系 >		n=368 (n=289)
1. OUP: Oxford University Press	9.2	(5.5)
2. Kluwer Online	6.8	(2.2)
3. CUP: Cambridge University Press	6.4	(5.5)
4. EBSCO host	4.9	
5. JSTOR	4.3	(0.0)
6. ScienceDirect	3.7	(0.7)
7. Ingenta(Select)	3.5	(0.0)
8. ProQuest	2.6	(0.7)
9. Synergy	2.3	(0.0)
10. ECO	0.8	(0.7)

< 理学 >		n=715 (n=547)
1. ScienceDirect	59.6	(48.0)
2. Nature Publishing Group	30.7	
3. Springer LINK	25.1	(17.7)
4. APS: American Physical Society	23.9	
5. ACS: American Chemical Society	19.7	(22.7)
6. AIP: American Institute of Physics	17.0	(17.8)
7. Wiley InterScience	15.6	(14.4)
8. AMS: American Mathematical Society	12.8	
9. Kluwer Online	10.2	
10. BioMedNet	7.2	(13.1)

< 農学 >		n=221 (n=250)
1. ScienceDirect	57.8	(45.4)
2. Nature Publishing Group	31.9	
3. Springer LINK	30.0	(17.6)
4. Kluwer Online	21.4	(7.0)
5. Synergy	20.1	(11.1)
6. OUP: Oxford University Press	11.3	(6.8)
7. Wiley InterScience	9.6	(1.4)
8. ACS: American Chemical Society	9.3	(15.1)
9. BioMedNet	8.4	(19.3)
10. Ingenta(Select)	4.9	(1.3)

< 社会科学系 >		n=370 (n=310)
1. JSTOR	26.0	(2.0)
2. ScienceDirect	24.0	(15.7)
3. Ingenta(Select)	13.2	(0.7)
4. OUP: Oxford University Press	12.1	(3.7)
5. Kluwer Online	11.2	(2.0)
6. EBSCO host	10.8	
7. ProQuest	7.5	(2.7)
8. Synergy	6.9	(2.7)
9. CUP: Cambridge University Press	6.1	(3.7)
10. Wiley InterScience	5.9	(1.7)

< 工学 >		n=766 (n=834)
1. ScienceDirect	55.6	(44.6)
2. IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers	22.3	(8.9)
3. ACS: American Chemical Society	20.4	(14.0)
4. Wiley InterScience	19.5	(10.7)
5. AIP: American Institute of Physics	17.5	(14.8)
6. APS: American Physical Society	16.8	
7. Nature Publishing Group	14.0	
8. Springer LINK	11.7	(8.6)
9. Kluwer Online	7.7	(2.5)
10. RSC: Royal Society of Chemistry	6.1	(5.0)

< 医歯薬学 >		n=582 (n=435)
1. ScienceDirect	43.7	(41.7)
2. Nature Publishing Group	35.7	
3. Springer LINK	18.8	(18.5)
4. Wiley InterScience	18.5	(9.6)
5. BMJ: British Medical Journal Publishing Group	13.3	
6. Synergy	12.7	(4.8)
7. ACS: American Chemical Society	9.6	(7.2)
8. OUP: Oxford University Press	9.4	(12.7)
9. BioMedNet	9.0	(17.7)
10. ProQuest	5.4	(4.8)

4 - 3 . 主要な電子ジャーナルの評価(1)

利用度が上位の8つの電子ジャーナルについて、利用者によるサービスの印象・イメージ(評価)をみたのが下表。表は「全体として使いやすい」のスコアが高い順となっている。

「全体として使いやすい」が高い上位3ジャーナル「ScienceDirect」「ACS: American Chemical Society」「APS: American Physical Society」は、全般的にその他の評価項目でも他のジャーナルに比べ評価が高い。

その他、「Nature Publishing Group」が「コンテンツの質が高い」「学界で評価されている」「論文掲載のタイミングが早い」「アラート機能を備えている」などで評価が高い。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

		コンテンツの質が高い	データ量が豊富	検索機能が優れている	リンクの機能が充実している	画面が見やすい(フォントサイズ・カラー等)	画面のページ展開がしやすい	論文中の画像情報の質が高い	自分が使いやすいように設定できる	学界で評価されている	論文掲載のタイミングが早い	全体として使いやすい	アラート機能を備えている
ScienceDirect	(n=1380)	40.2	63.0	24.9	13.7	17.2	9.0	9.4	3.2	21.4	19.0	33.2	9.1
ACS: American Chemical Society	(n=389)	59.0	53.2	27.0	9.8	21.2	12.2	11.8	3.0	42.2	27.7	30.4	5.2
APS: American Physical Society	(n=328)	61.5	48.4	33.6	15.7	12.9	12.2	14.1	2.2	53.9	21.0	28.6	0.8
Springer LINK	(n=486)	40.5	37.6	10.3	5.5	10.0	4.7	8.9	2.0	16.8	9.4	25.2	6.0
Kluwer Online	(n=275)	35.7	25.8	8.8	5.4	7.7	3.9	6.2	1.2	18.0	9.1	21.9	5.0
Wiley InterScience	(n=417)	42.8	30.4	8.4	7.6	12.4	4.7	7.8	2.2	24.4	11.8	19.1	2.9
AIP: American Institute of Physics	(n=270)	57.1	38.0	19.8	11.1	9.8	8.6	7.6	1.4	42.1	16.3	18.8	1.0
Nature Publishing Group	(n=650)	64.7	25.7	9.4	6.6	12.6	5.9	11.0	0.0	46.8	21.3	16.6	14.4

*網掛けは上位3位を示す。

4 - 3 . 主要な電子ジャーナルの評価(2)

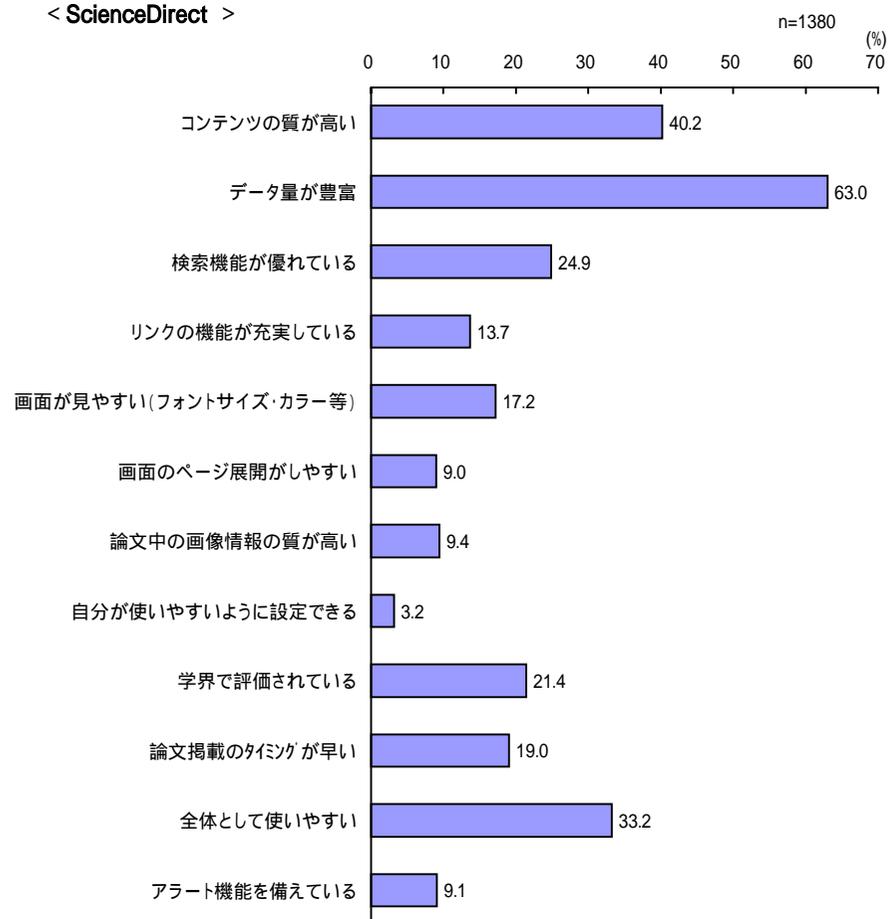
「ScienceDirect」「Nature Publishing Group」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「ScienceDirect」では、「データ量が豊富」がトップで63%。次いで「コンテンツの質が高い」(40%)、「全体として使いやすい」(33%)。

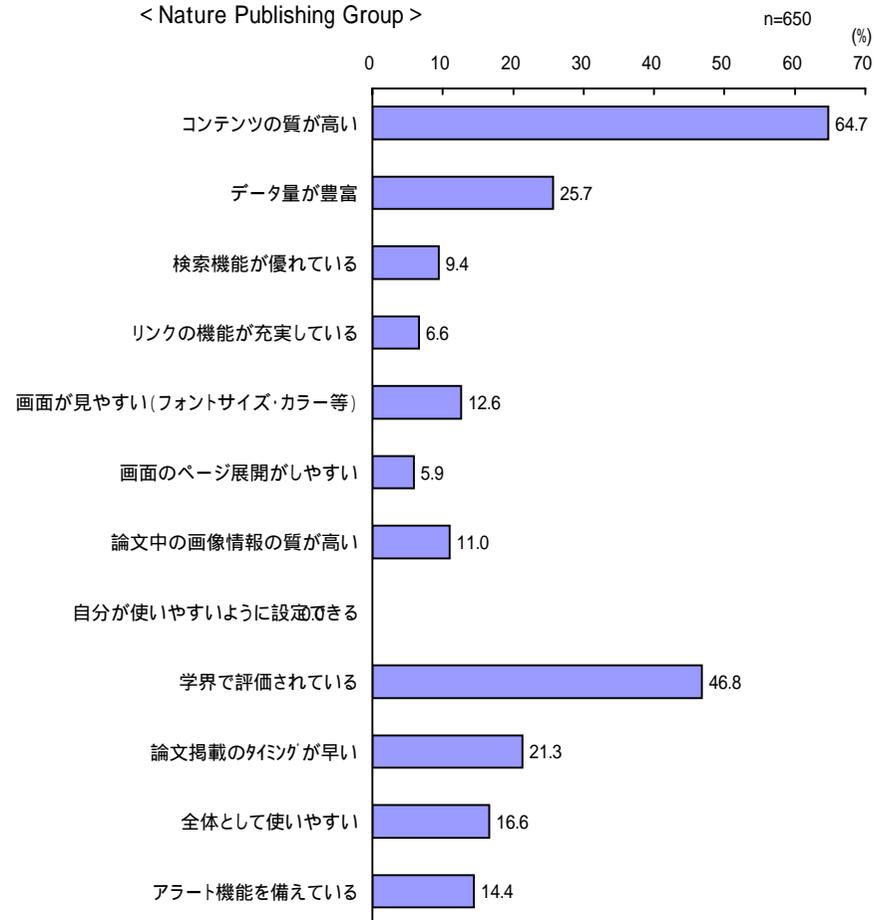
「Nature Publishing Group」では、「コンテンツの質が高い」(65%)が特に評価が高く、「学界で評価されている」(47%)が続く。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

< ScienceDirect >



< Nature Publishing Group >



4 - 3 . 主要な電子ジャーナルの評価(3)

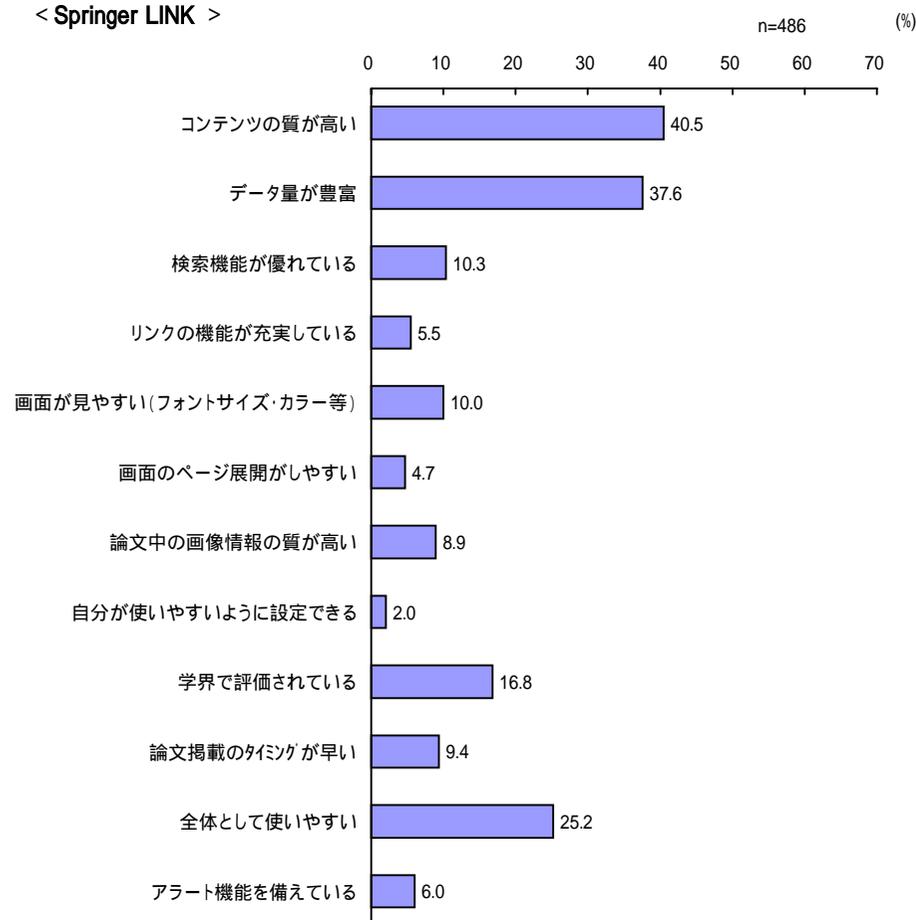
「Springer LINK」「Wiley InterScience」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「Springer LINK」では、「コンテンツの質が高い」(41%)、「データ量が豊富」(38%)の評価が高い。

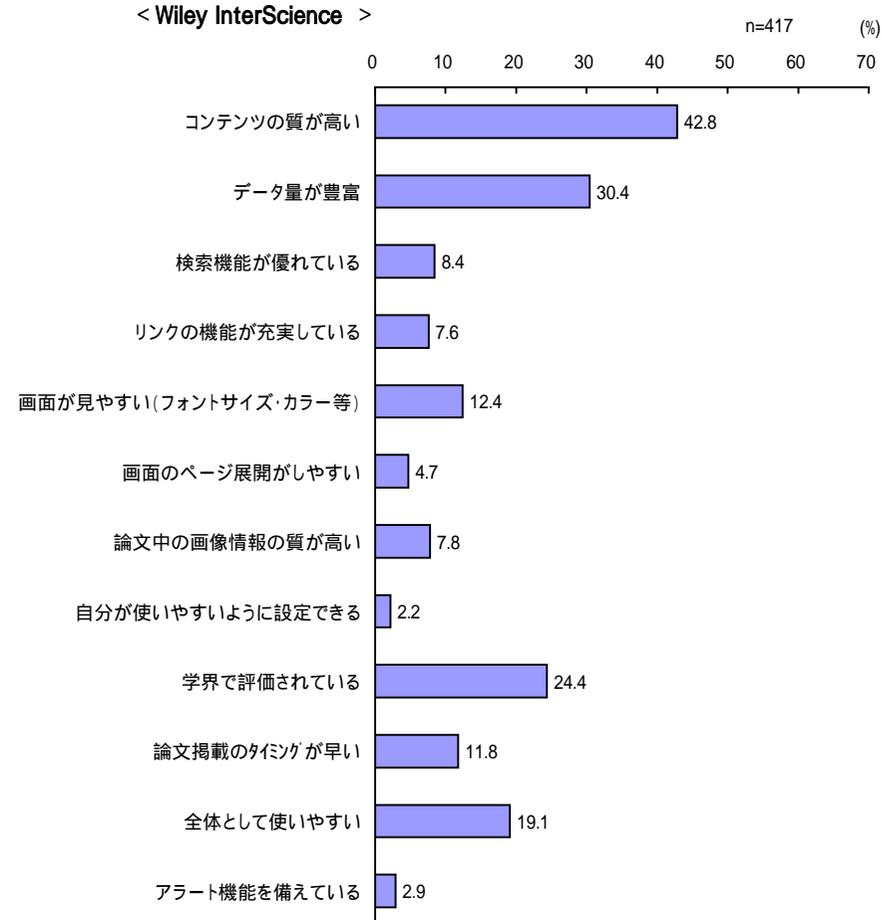
「Wiley InterScience」では、「コンテンツの質が高い」(43%)、「データ量が豊富」(30%)の評価が高い。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

< Springer LINK >



< Wiley InterScience >



4 - 3 . 主要な電子ジャーナルの評価(4)

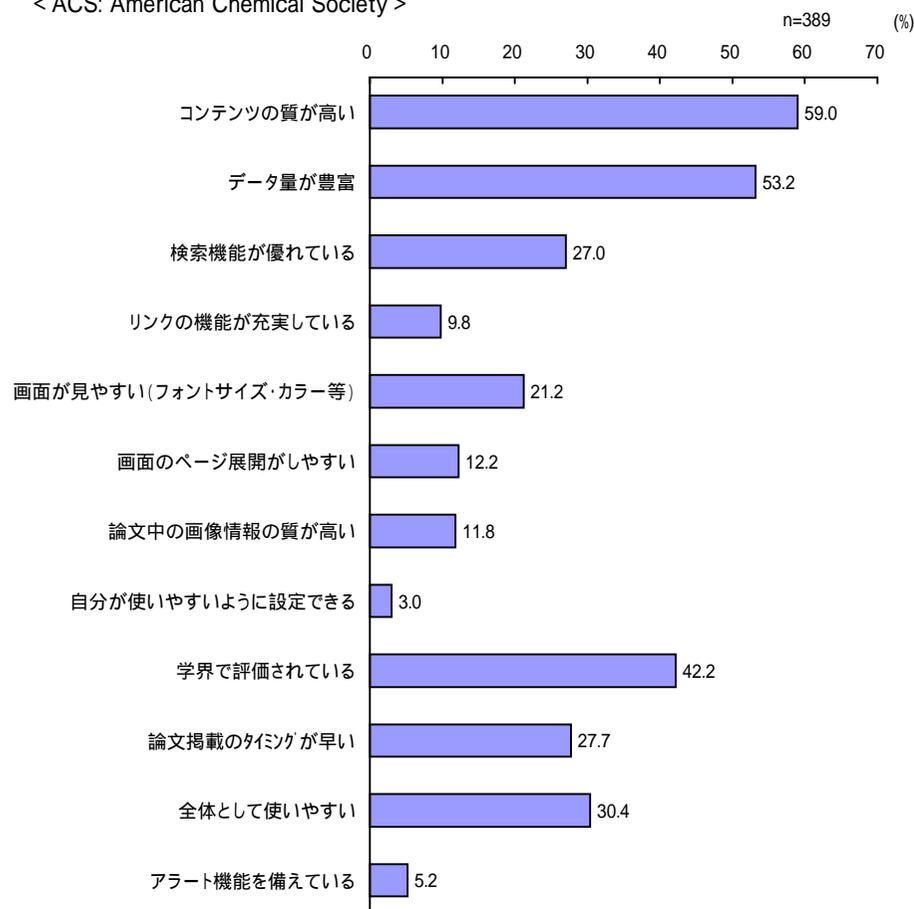
「ACS: American Chemical Society」「APS: American Physical Society」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「ACS: American Chemical Society」では、「コンテンツの質が高い」(59%)、「データ量が豊富」(53%)が5割を超える。

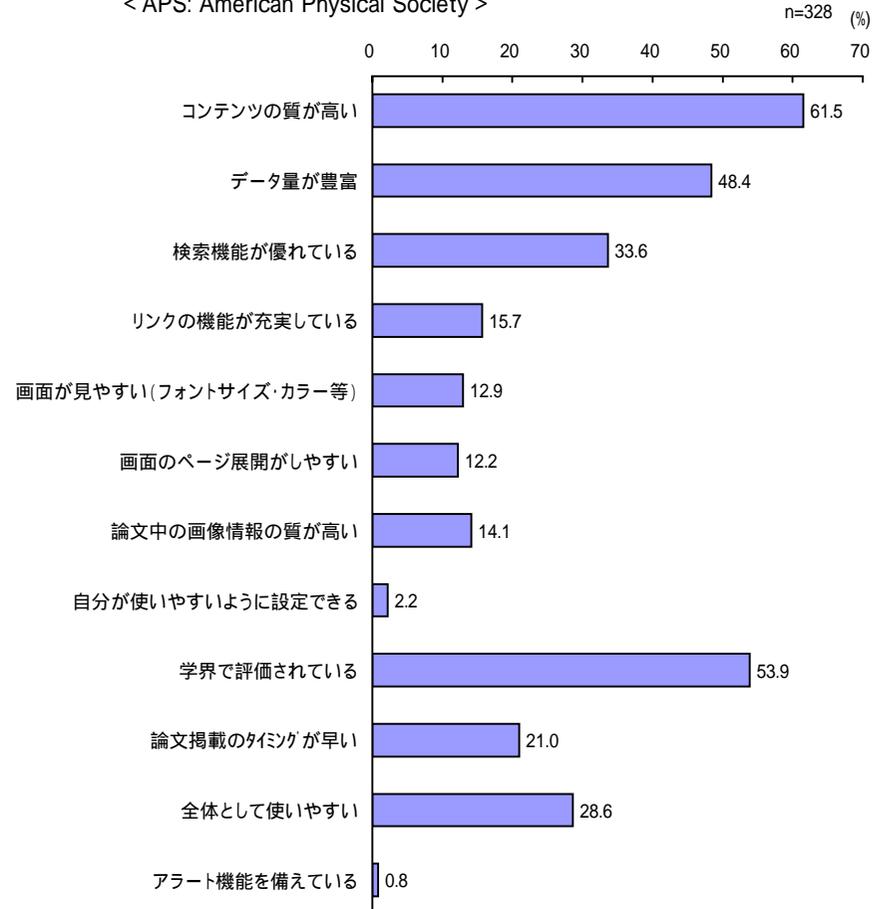
「APS: American Physical Society」では、「コンテンツの質が高い」(62%)、「学界で評価されている」(54%)、「データ量が豊富」(48%)の評価が高い。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

< ACS: American Chemical Society >



< APS: American Physical Society >



4 - 3 . 主要な電子ジャーナルの評価(5)

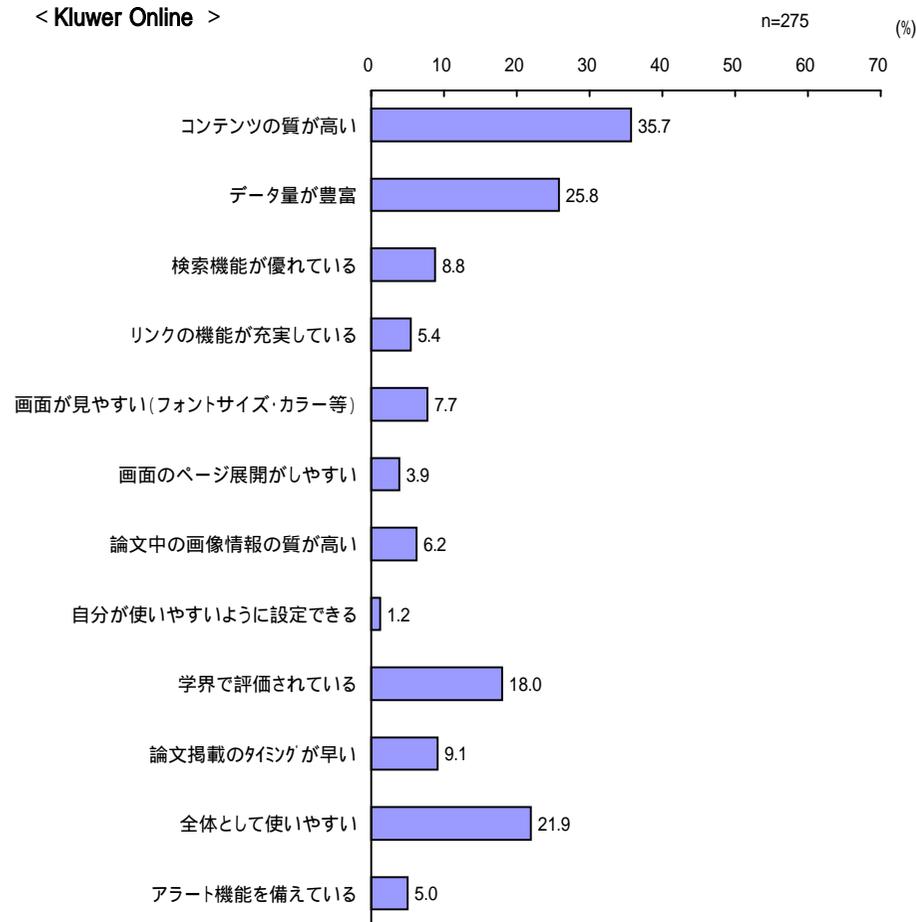
「Kluwer Online」「AIP: American Institute of Physics」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「Kluwer Online」では、「コンテンツの質が高い」(36%)、「データ量が豊富」(26%)、「全体として使いやすい」(22%)が高い。

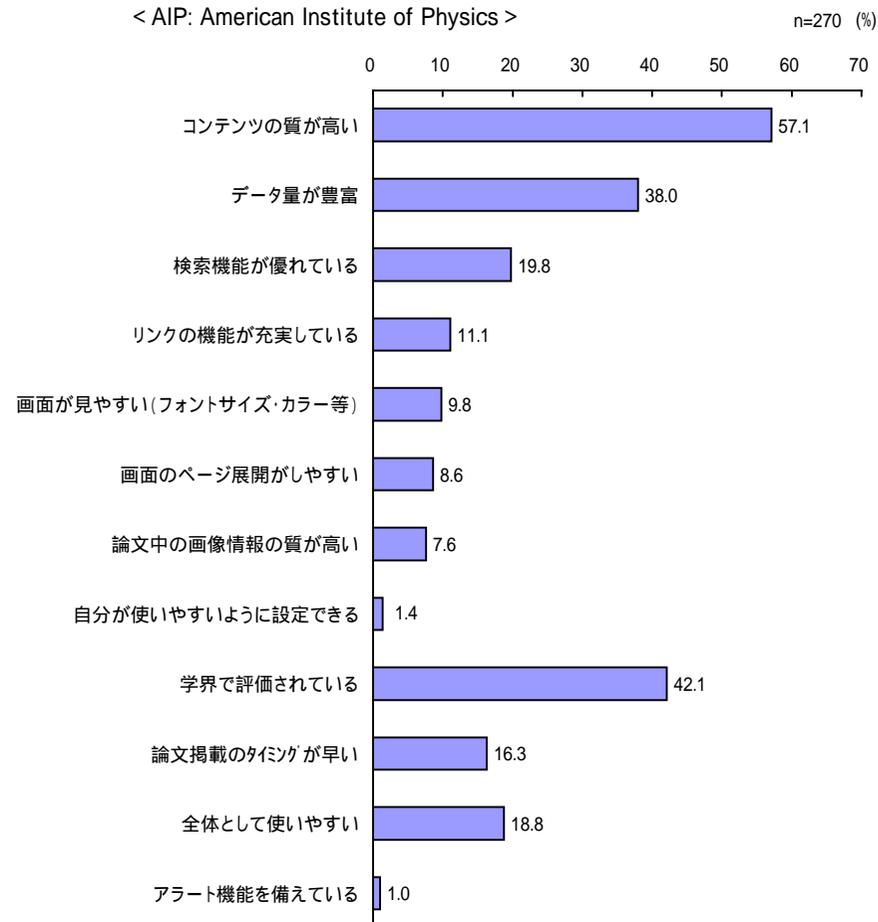
「AIP: American Institute of Physics」では、「コンテンツの質が高い」(57%)、「学界で評価されている」(42%)、「データ量が豊富」(38%)で評価が高い。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

< Kluwer Online >



< AIP: American Institute of Physics >



< 参考 > 主要な電子ジャーナルの評価

利用度が上位9位以降の下記の電子ジャーナルの印象・イメージ(評価)については、下表のとおり。

Q4 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

(%)

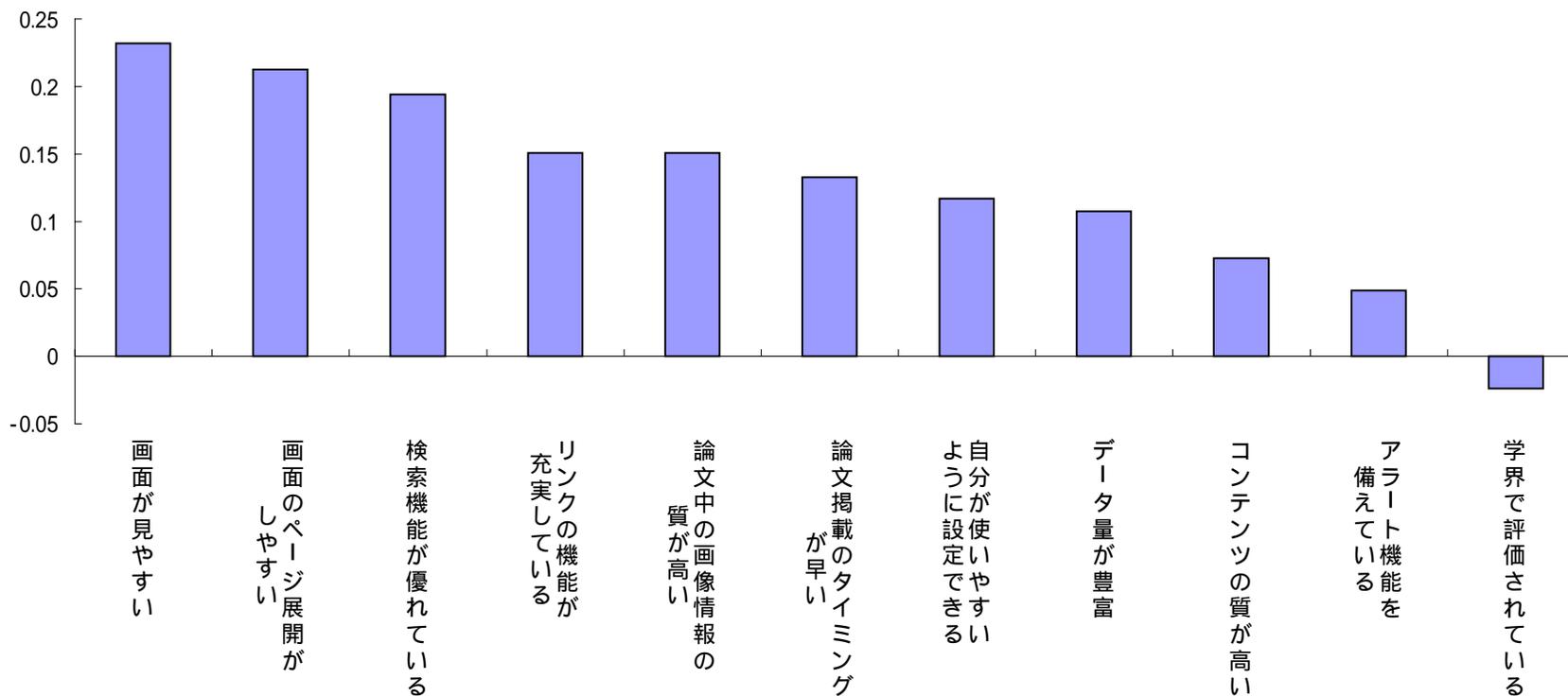
	コンテンツの質が高い	データ量が豊富	検索機能が優れている	リンクの機能が充実している	画面が見やすい(フォントサイズ・カラー等)	画面のページ展開がしやすい	論文中の画像情報の質が高い	自分が使いやすいように設定できる	学界で評価されている	論文掲載のタイミングが早い	全体として使いやすい	アラート機能を備えている
ACM Portal(or)Digital Library (n=62)	39.0	54.4	20.4	6.0	0.0	3.0	3.0	0.0	36.6	13.2	15.0	3.0
AMS: American Mathematical Society (n=110)	52.0	44.3	24.0	19.9	11.8	2.4	4.1	2.4	35.8	24.6	21.6	3.4
ASCE: American Society of Civil Engineers (n=49)	39.4	25.0	3.8	0.0	3.8	0.0	19.7	3.8	44.7	10.6	19.7	0.0
ASME: American Society of Mechanical Engineers (n=47)	47.3	36.6	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	63.4	22.4	9.6	0.0
BioMedNet (n=139)	24.4	41.6	23.0	11.6	13.7	7.5	5.9	1.9	2.6	10.7	26.4	9.1
BMJ: British Medical Journal Publishing Group (n=86)	38.9	32.0	9.5	3.0	14.3	0.0	5.2	0.0	24.2	9.5	29.0	3.0
Chem Web (n=64)	14.0	40.4	14.0	4.1	8.2	0.0	0.0	0.0	11.1	4.1	12.9	7.0
CUP: Cambridge University Press (n=91)	40.7	17.4	10.7	6.7	12.2	6.7	12.2	0.0	33.5	7.8	24.5	2.9
EBSCO host (n=79)	31.0	50.9	31.6	16.8	22.8	7.0	6.8	6.3	9.3	3.2	38.4	1.9
ECO (n=8)	49.3	44.4	0.0	0.0	12.7	0.0	0.0	0.0	12.7	0.0	31.7	0.0
Emerald (n=7)	40.6	20.3	25.5	0.0	20.3	0.0	0.0	0.0	20.3	0.0	0.0	0.0
IEE: Institution of Electrical Engineers (n=50)	60.6	39.7	16.5	5.2	9.0	9.0	14.2	0.0	33.6	9.0	12.7	0.0
IEEE: Institution of Electrical Electronics Engineers (n=257)	50.9	55.3	14.5	10.0	2.8	2.0	7.6	0.0	45.4	9.3	19.3	0.7
Ingenta (Select) (n=113)	39.2	49.7	16.8	5.9	10.9	3.1	7.9	3.0	12.3	16.6	22.6	4.5
IoP: Institute of Physics (n=97)	31.9	25.4	14.6	4.6	9.2	4.6	0.0	2.7	18.8	9.2	13.9	6.2
JSTOR (n=157)	52.9	59.5	22.5	2.9	19.5	5.2	11.1	2.9	19.8	2.5	33.0	0.0
Karger Online (n=33)	7.9	14.0	0.0	15.9	3.0	0.0	3.0	0.0	26.9	3.0	24.6	7.9
OUP: Oxford University Press (n=203)	45.2	30.2	6.6	2.7	19.7	8.2	11.6	2.3	24.3	17.7	28.4	2.7
ProQuest (n=95)	32.1	55.4	17.7	7.1	11.2	8.4	2.6	13.5	7.5	5.8	28.6	0.0
RSC: Royal Society of Chemistry (n=102)	49.6	39.0	19.7	7.7	11.3	10.2	9.5	0.0	55.1	27.3	16.4	5.1
SIAM: Society for Industrial and Applied Mathematics (n=50)	44.1	37.4	14.2	14.2	14.2	0.0	7.2	9.0	32.2	14.2	12.7	0.0
Synergy (n=209)	39.1	37.0	11.2	7.5	17.2	7.1	10.9	3.7	23.0	14.6	26.5	4.6

4 - 4 . 使いやすさにつながる機能

各利用電子ジャーナルの評価のうち、「全体として使いやすい」とその他の11項目の相関係数をみたのが下記の通り。これによって、使いやすさが具体的にどういうことと関係が深いかがわかる。

画面の見やすさ、画面のページ展開、検索機能、が使いやすさに寄与していることがわかる。

Q4-2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。



4 - 5 . 必要な文献入手の方法 (1)

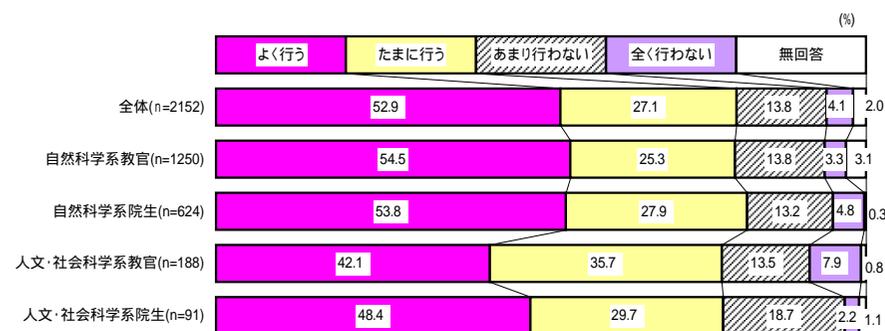
電子ジャーナルの中から必要とする文献を探し入手する方法をたずねたところ、「専門分野の電子ジャーナルをブラウジングして」では「よく行う」と回答した人は全体で53%。これに対して「専門分野以外の電子ジャーナルをブラウジングして」では「よく行う」と回答した人はわずか5%。

また、「検索機能を使って入手する」では「よく行う」と回答した人は全体で43%。自然科学系院生では、5割以上を占める。

「二次(抄録・索引誌等)データベースの検索集合から入手する」では「よく行う」と回答した人は36%。人文・社会科学系より自然科学系の方が割合が高い。

Q4 - 3: どのような方法で、電子ジャーナルの中から必要とする文献を探し入手しますか。

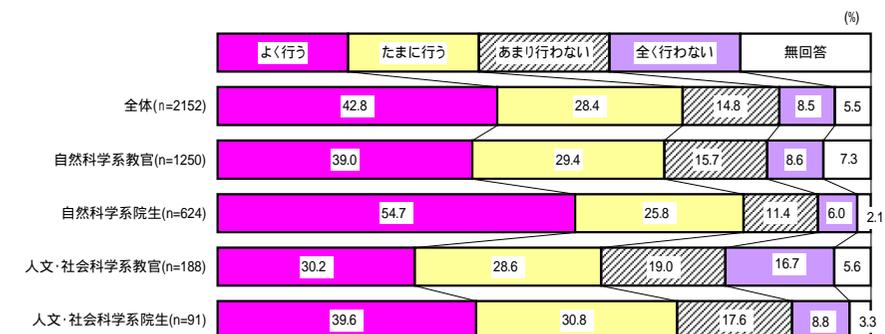
a) 自分の専門分野の電子ジャーナルをブラウジングして、読みたい文献を入手する



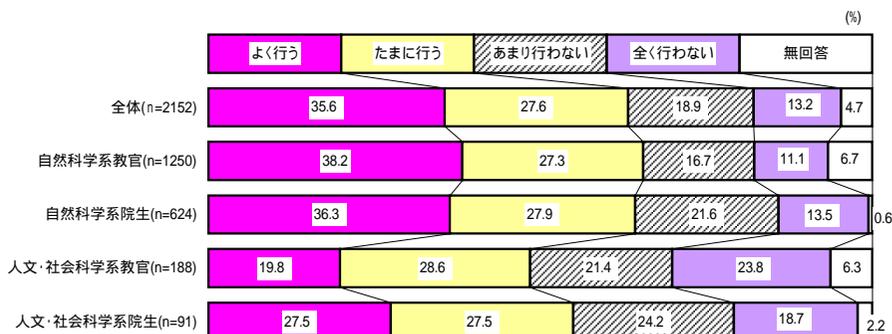
b) 自分の専門分野以外の電子ジャーナルをブラウジングして、読みたい文献を入手する



c) 電子ジャーナルの検索機能を使って得た検索集合の中から読みたい文献を入手する



d) 二次(抄録・索引誌等)データベースの検索集合から読みたい文献を探し、リンク機能を使って入手する



4 - 5 . 必要な文献入手の方法 (2)

電子ジャーナルの中から必要とする文献を探し入手する方法をたずねたところ、「アラート機能を使って入手した特定電子ジャーナルの最新目次情報の中から文献を入手する」では「よく行う」は10%。また「アラート機能を使って予め登録した文献情報検索式でヒットした検索集合から入手する」でも「よく行う」と回答した人は4%。この結果からアラート機能がまだ定着していないことが読み取れる。

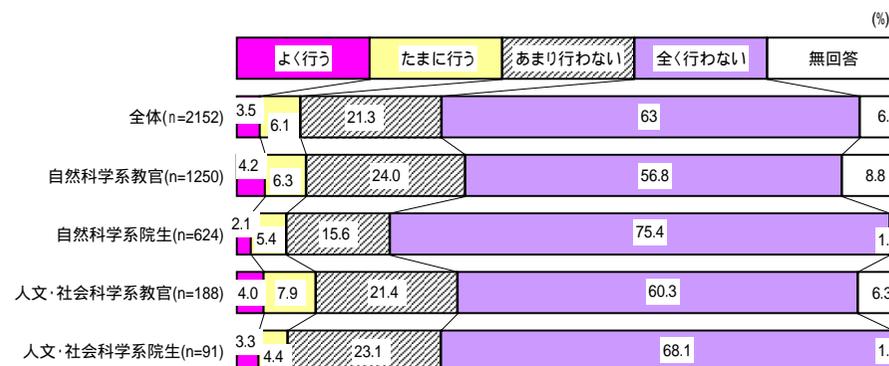
「リンクが張ってある参考・引用文献から入手する」では「よく行う」と回答した人は23%。「よく行う」+「たまに行く」を合わせると約6割を占める。

Q4 - 3: どのような方法で、電子ジャーナルの中から必要とする文献を探し入手しますが、

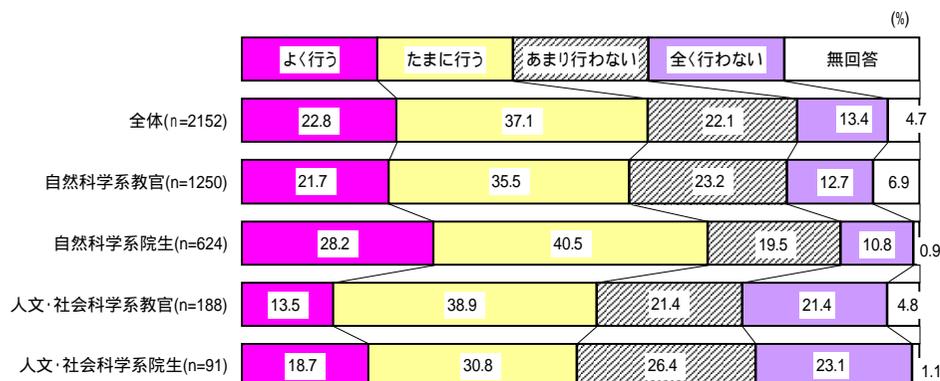
e) アラート機能を使って入手した特定電子ジャーナルの最新目次情報の中から読みたい文献を入手する



i) アラート機能を使って予め登録した文献情報検索式でヒットした検索集合から読みたい文献を入手する



g) リンクが張ってある参考文献や引用文献の中から読みたい文献を入手する

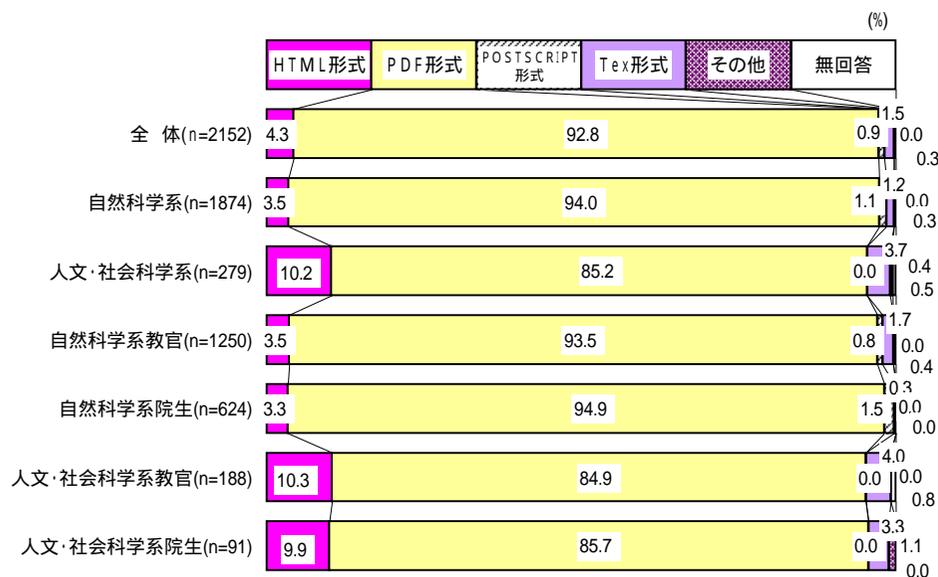


4 - 6 . 利用するデータ形式とその理由

電子ジャーナルで論文を読む際のデータ形式をたずねたところ、全体では93%が「PDF形式」を使用している。

最もよく読むデータ形式を使用する理由としては、「PDF形式」では「印刷するとききれいだから」（60%）が最も高く、「HTML形式」では「ダウンロードに時間がかからないから」（41%）が高い。

Q4 - 4: 電子ジャーナルで論文を読む際に、
どのデータ形式の論文を読むことが最も多いですか



Q4 - 5: なぜそのデータ形式の論文を読むことが多いのですか

	きれいだから印刷すると	読みやすいから画面表示すると	リンク機能が便利だから	ダウンロードに時間がかからないから	数式や記号などが扱いやすいから	読みたい論文がたまたまその形式だから
全体 (n=2152)	56.9	24.4	2.2	18.1	7.2	45.1
HTML形式 (n=93)	9.5	24.0	17.2	40.7	3.1	31.7
PDF形式 (n=1998)	59.7	24.7	1.6	17.0	6.7	45.9
POSTSCRIPT形式 (n=20)	77.4	22.6	0.0	18.9	9.5	45.3
TeX形式 (n=33)	25.9	18.0	0.0	24.3	50.2	41.2

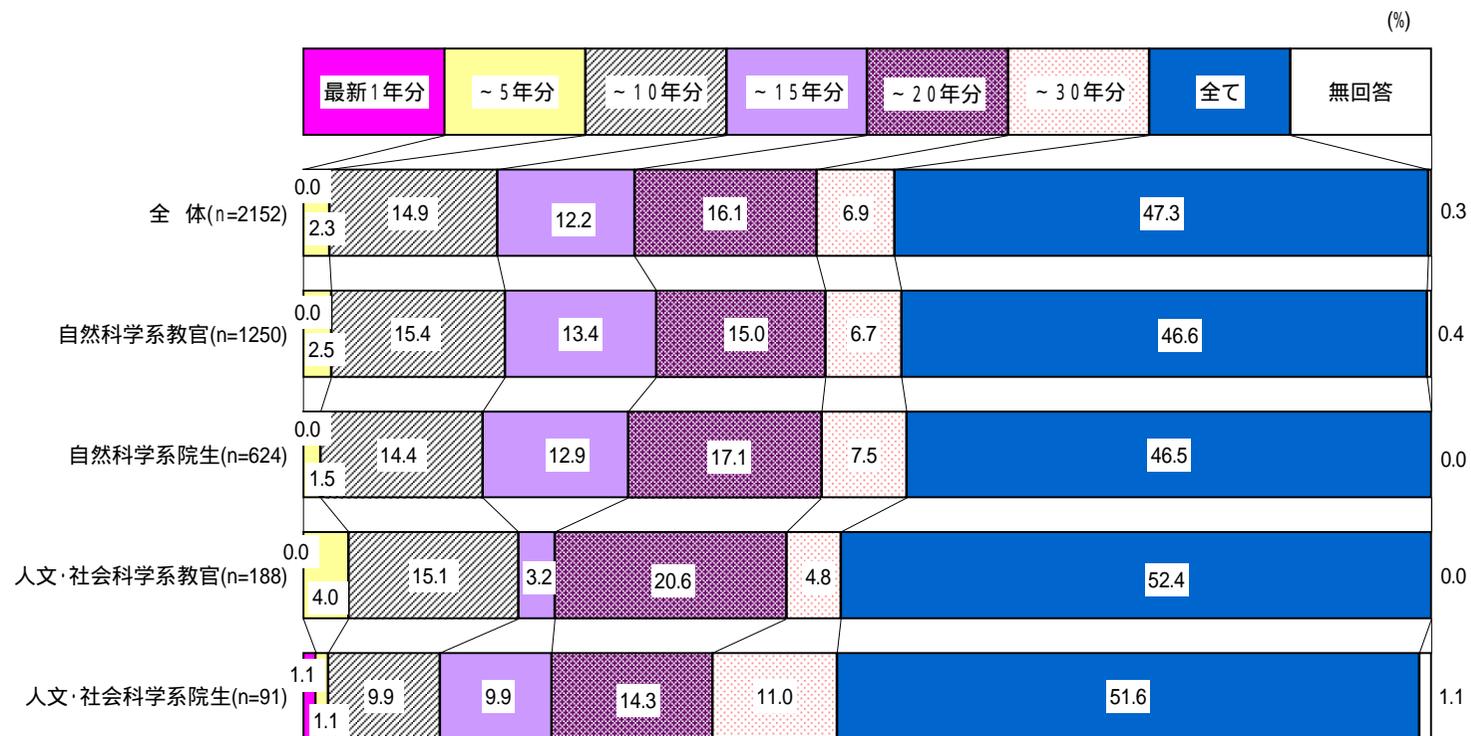
4 - 7 . 必要なバックファイル年数

電子ジャーナルのバックアップファイルが何年分あれば満足かをたずねた。

全体では「全て」（47％）が最も高く、「～20年分」（16％）、「～5年分」（15％）と続く。

分野別にみても、自然科学系／人文・社会科学系どちらとも「全て」と回答する人が50％前後に上る。

Q4 - 6 : 電子ジャーナルのバックアップファイルが何年分あれば満足しますか



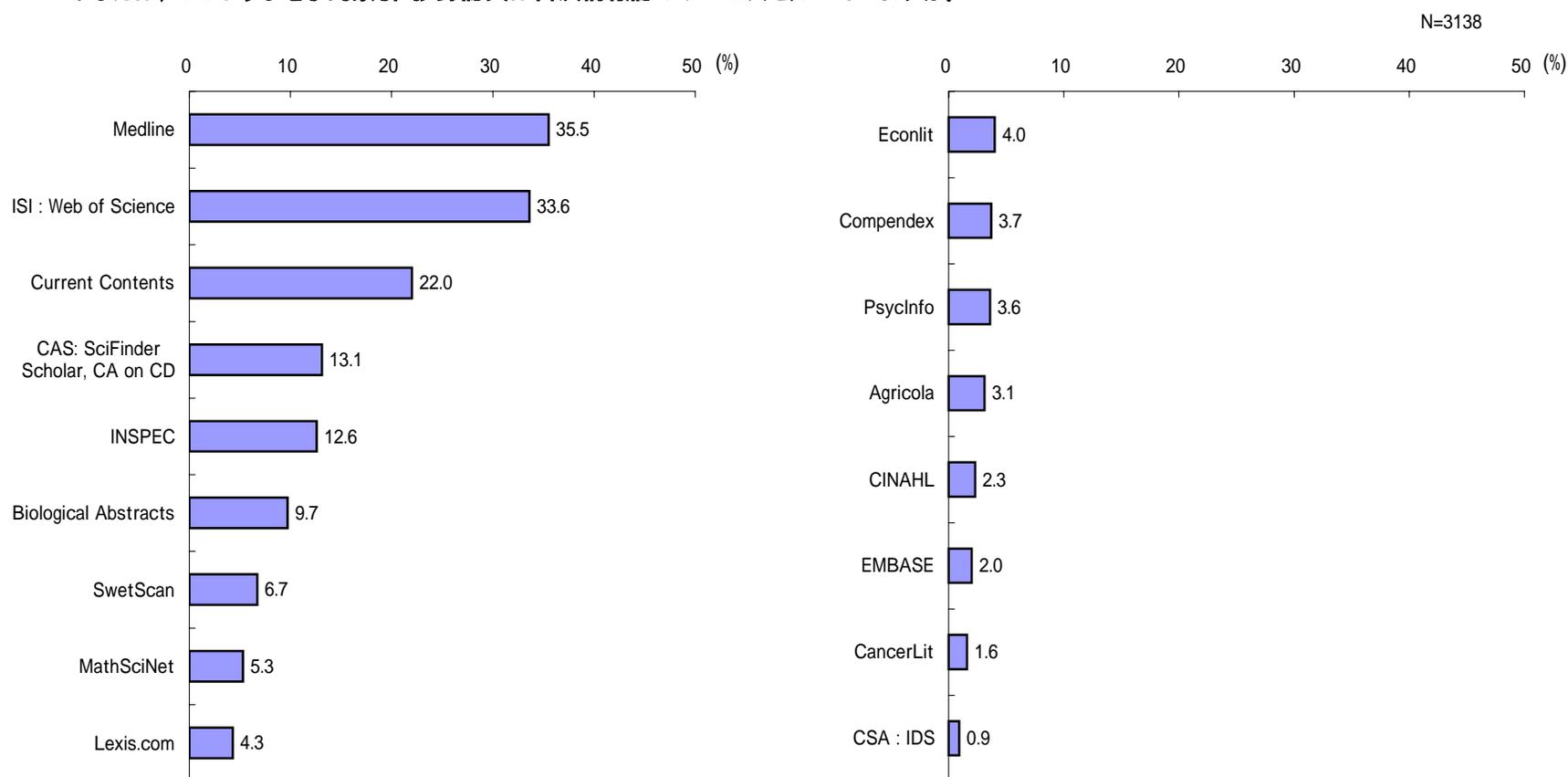
**5 . 主要な電子的索引・抄録誌
/ 目次情報誌の認知・利用・評価**

5 - 1 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の認知度 (1)

日頃利用している電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスをたずねた。

「Medline」(36%) が最も高く、次いで「ISI: Web of Science」(34%)、「Current Contents」(22%) と続く。

Q5 - 1 . あなたは、どのような電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスを知っていますか。



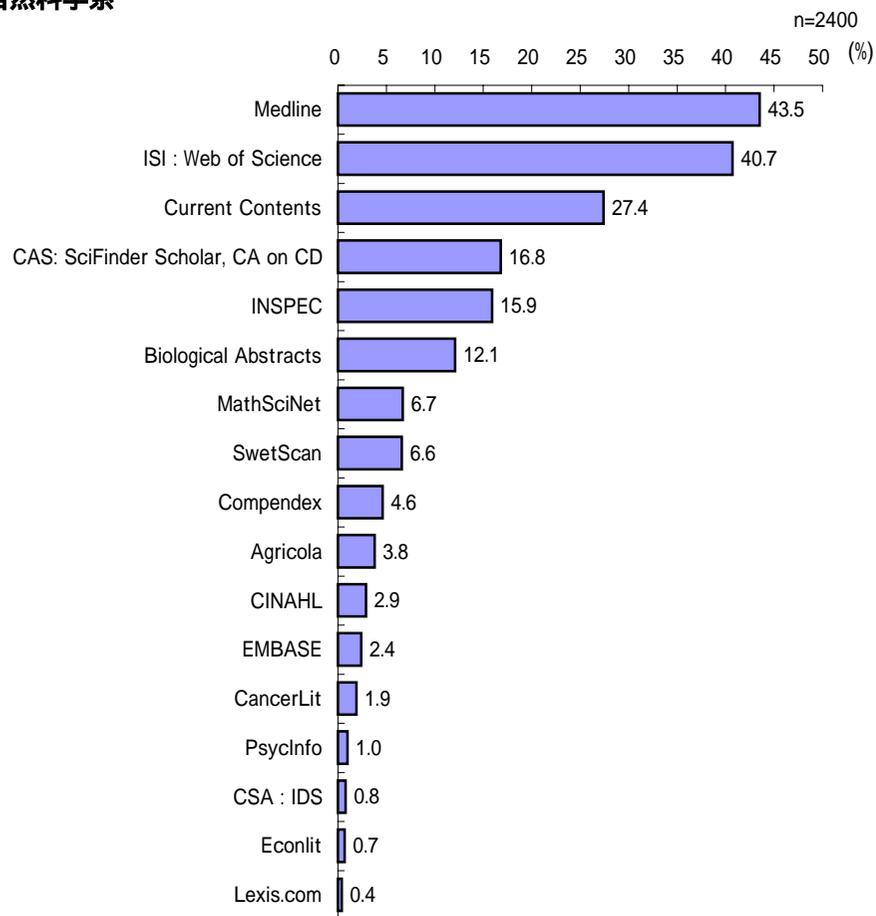
5 - 1 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の認知度 (2)

知っている電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスを分野別に示したのが以下のグラフ。

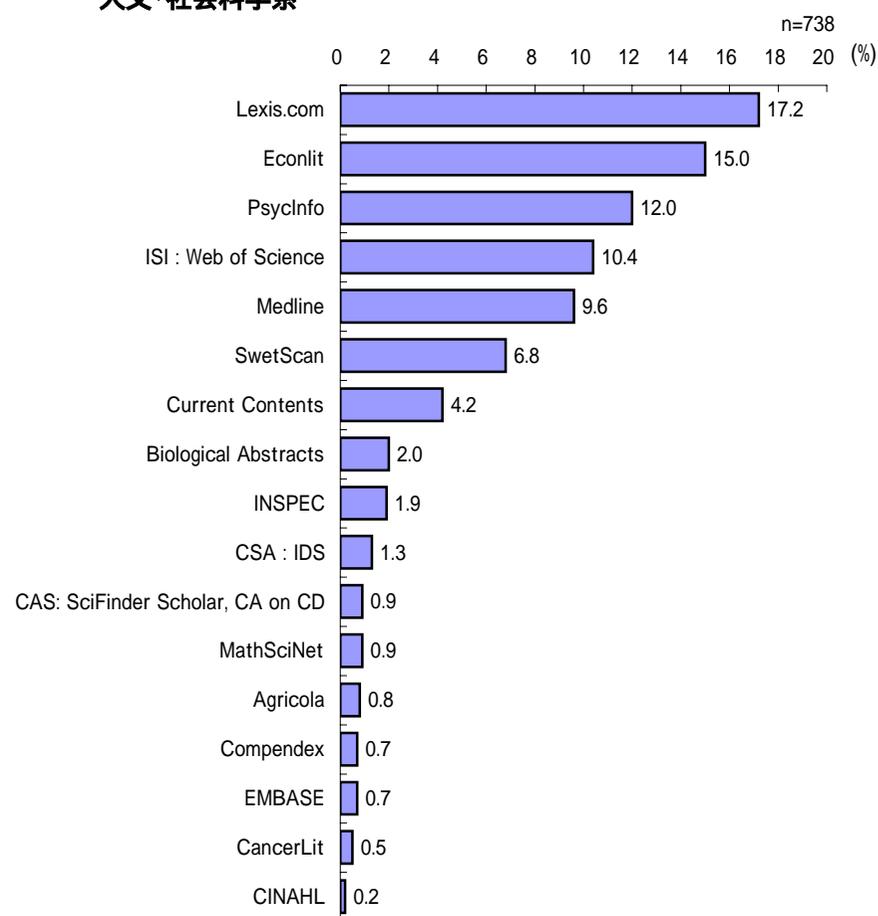
自然科学系では、「Medline」(44%)が最も高く、「ISI : Web of Science」(41%)、「Current Contents」(27%)と続く。
 人文・社会科学系では、「Lexis.com」(17%)、「Econlit」(15%)、「PsycInfo」(12%)の順。

Q5 - 1 . あなたは、どのような電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスを知っていますか。

自然科学系



人文・社会科学系

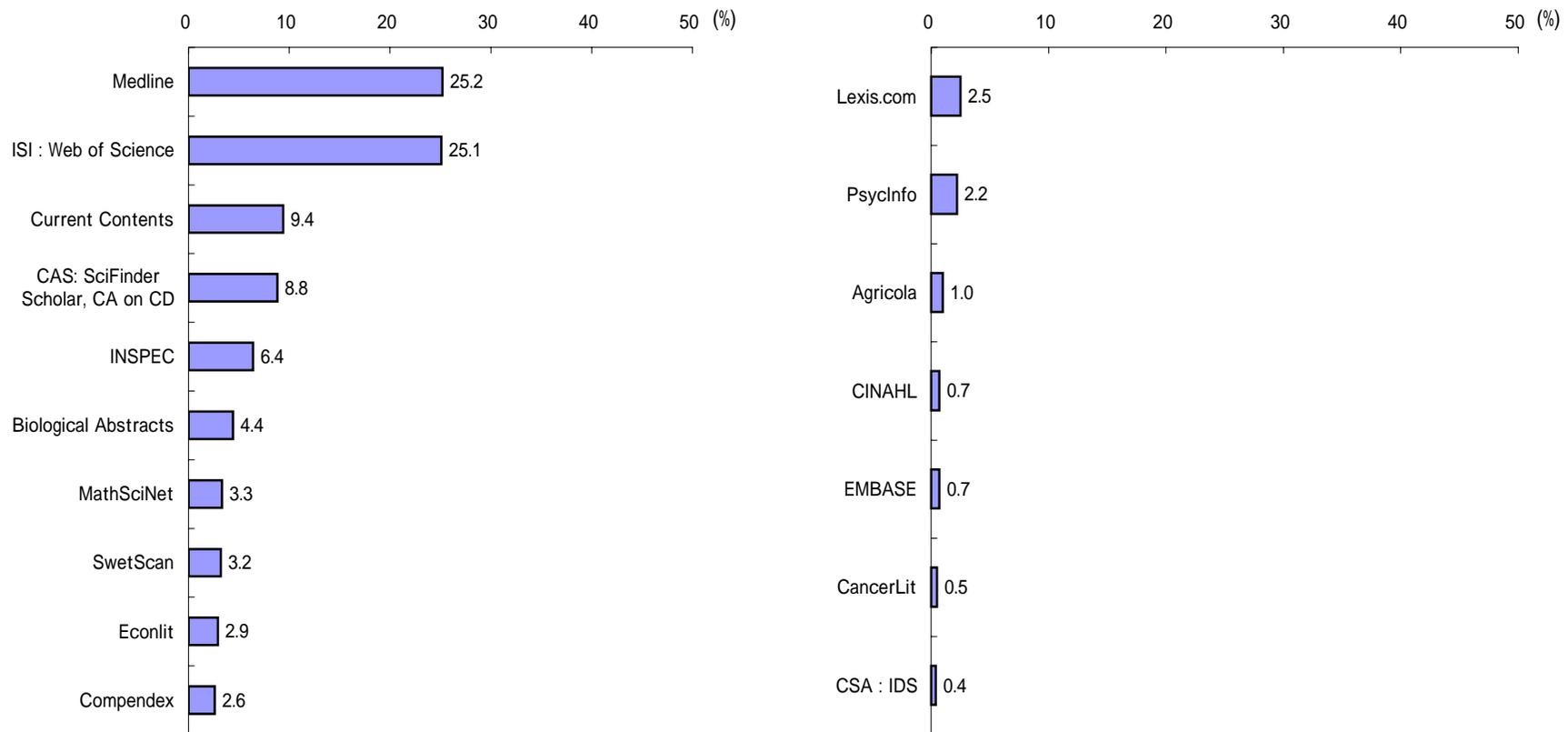


5 - 2 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用度 (1)

日頃利用している電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスをたずねた。
「Medline」と「ISI: Web of Science」(共に25%)で最も高く、「Current Contents」(9%)以下は10%未満に留まる。

Q5 - 2 . あなたは、電子的索引・抄録誌又は目次情報誌で日頃あなたが利用しているサービスはどれですか。

N=3138



5 - 2 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用度 (2) - 1

日頃利用しているサービスを、自然科学 / 人文・社会科学系 / 教官 / 院生別のランキングにまとめたのが以下の表。
 自然科学系では、「Medline」「ISI : Web of Science」が上位にランキング。
 人文・社会科学系では、「Lexis.com」「Econlit」「PsycInfo」が上位3位を占めている。

Q5 - 2 : 日頃利用しているサービスはどれですか。

< 自然科学系 >		n=2400
1. Medline	31.8	
2. ISI : Web of Science	30.9	
3. Current Contents	11.7	
4. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	11.4	
5. INSPEC	8.3	
6. Biological Abstracts	5.7	
7. MathSciNet	4.2	
8. Compendex	3.3	
9. SwetScan	3.2	
10. Agricola	1.2	

< 自然科学系教官 >		n=1615
1. ISI : Web of Science	33.4	
1. Medline	33.4	
3. Current Contents	15.0	
4. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	10.2	
5. INSPEC	10.0	
6. Biological Abstracts	6.0	
7. MathSciNet	4.2	
8. Compendex	3.1	
9. SwetScan	2.4	
10. Agricola	1.6	

< 自然科学系院生 >		n=785
1. Medline	28.4	
2. ISI : Web of Science	25.5	
3. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	13.8	
4. Biological Abstracts	5.0	
4. Current Contents	5.0	
6. INSPEC	4.8	
6. SwetScan	4.8	
8. MathSciNet	4.3	
9. Compendex	3.8	
10. PsycInfo	1.0	

< 人文・社会科学系 >		n=738
1. Lexis.com	10.5	
2. Econlit	10.4	
3. PsycInfo	8.2	
4. ISI : Web of Science	6.2	
5. Medline	3.8	
6. SwetScan	3.4	
7. Current Contents	1.8	
8. CSA:IDS	0.5	
9. BiologicalAbstracts	0.4	
10. Agricola/SciFinderScholar,CAonCD	0.3	

< 人文・社会科学系教官 >		n=477
1. Econlit	11.9	
2. Lexis.com	10.9	
3. PsycInfo	7.5	
4. ISI : Web of Science	5.6	
5. Medline	3.4	
6. Current Contents	2.2	
7. SwetScan	1.9	
8. BiologicalAbstracts	0.6	
9. SciFinderScholar,CAonCD/Compendex CSA:IDS/INSPEC	0.3	

< 人文・社会科学系院生 >		n=261
1. Lexis.com	9.6	
1. PsycInfo	9.6	
3. Econlit	7.7	
4. ISI : Web of Science	7.3	
5. SwetScan	6.1	
6. Medline	4.6	
7. Current Contents	1.1	
8. Agricola	0.8	
8. CSA : IDS	0.8	
10. CancerLit/SciFinderScholar,CAonCD/MathSciNet	0.4	

5 - 2 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の利用度 (2) - 2

日頃利用しているサービスを、研究分野別のランキングにまとめたのが以下の表。
 「農学」「医歯薬学」では、「Medline」が第一位。次いで「ISI : Web of Science」。
 「理学」「工学」では、「ISI : Web of Science」がトップ。
 社会科学系では「Econlit」「Lexis.com」が高い。

Q5 - 2: 日頃利用しているサービスはどれですか。

< 人文科学系 >		n=368
1. SwetScan	3.9	
2. PsycInfo	2.7	
3. Lexis.com	2.0	
4. Medline	1.9	
5. ISI : Web of Science	1.8	
6. Current Contents	1.2	
7. Biological Abstracts	0.8	
8. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	0.4	
9. Agricola	0.3	
9. MathSciNet	0.3	

< 理学 >		n=715
1. ISI : Web of Science	36.5	
2. Medline	17.8	
3. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	15.1	
4. INSPEC	12.4	
5. MathSciNet	11.7	
6. Current Contents	10.0	
7. Biological Abstracts	4.8	
8. Compendex	1.4	
9. SwetScan	1.0	
10. CSA : IDS	0.7	

< 農学 >		n=221
1. Medline	40.1	
2. ISI : Web of Science	37.3	
3. Current Contents	29.8	
4. Biological Abstracts	28.5	
5. Agricola	9.1	
6. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	8.1	
7. SwetScan	5.7	
8. Econlit	1.7	

< 社会科学系 >		n=370
1. Econlit	20.7	
2. Lexis.com	18.8	
3. PsycInfo	13.7	
4. ISI : Web of Science	10.6	
5. Medline	5.8	
6. SwetScan	2.8	
7. Current Contents	2.4	
8. CSA : IDS	0.9	
9. Compendex	0.4	
9. INSPEC	0.4	

< 工学 >		n=766
1. ISI : Web of Science	32.7	
2. CAS : SciFinder Scholar,CA on CD	14.3	
3. INSPEC	12.8	
4. Compendex	8.9	
5. Medline	7.7	
6. Current Contents	6.5	
7. SwetScan	6.2	
8. MathSciNet	1.5	
9. Biological Abstracts	1.1	
10. Econlit	0.9	

< 医歯薬学 >		n=582
1. Medline	77.2	
2. ISI : Web of Science	19.2	
3. CurrentContents	14.3	
4. SciFinderScholar,CAonCD	3.7	
5. BiologicalAbstracts	3.3	
5. EMBASE	3.3	
7. CINAHL	2.1	
8. CancerLit	2.0	
9. INSPEC	1.1	
10. Agricola	0.9	

5 - 3 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価(1)

6つの電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌について、利用者によるサービスの印象・イメージ(評価)をみたのが下表。表は「全体として使いやすい」のスコアが高い順となっている。

「全体として使いやすい」が高い上位2ジャーナル「Medline」「CAS : SciFinder Scholar, CA on CD」は、全般的にその他の評価項目でも他のジャーナルに比べ評価が高い。

「ISI : Web of Science」は、「検索機能が優れている」「コンテンツの質が高い」「学界で評価されている」などの項目で評価が高い。

Q5 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

		データ量が 豊富	検索機能が 優れている	コンテンツの 質が高い	学界で評価 されている	電子ジャーナルとのリンク 機能がある	文献書誌情報 の登録が 早い	アラート機能 を備えている	全体として 使いやすい
Medline	(n=791)	76.5	60.5	34.6	28.5	41.1	28.2	3.2	61.0
CAS : SciFinder Scholar, CA on CD	(n=276)	82.3	68.9	38.2	24.4	32.5	20.7	2.3	44.5
Biological Abstracts	(n=139)	64.2	29.8	13.4	7.5	5.9	1.9	0.0	37.1
ISI : Web of Science	(n=786)	72.3	59.2	26.5	22.9	22.5	13.9	2.8	37.1
Current Contents	(n=295)	54.9	22.9	21.0	13.1	12.5	27.6	5.1	33.6
INSPEC	(n=201)	78.1	42.8	18.4	16.2	11.9	9.7	0.0	29.9

*網掛けは上位3位を示す。

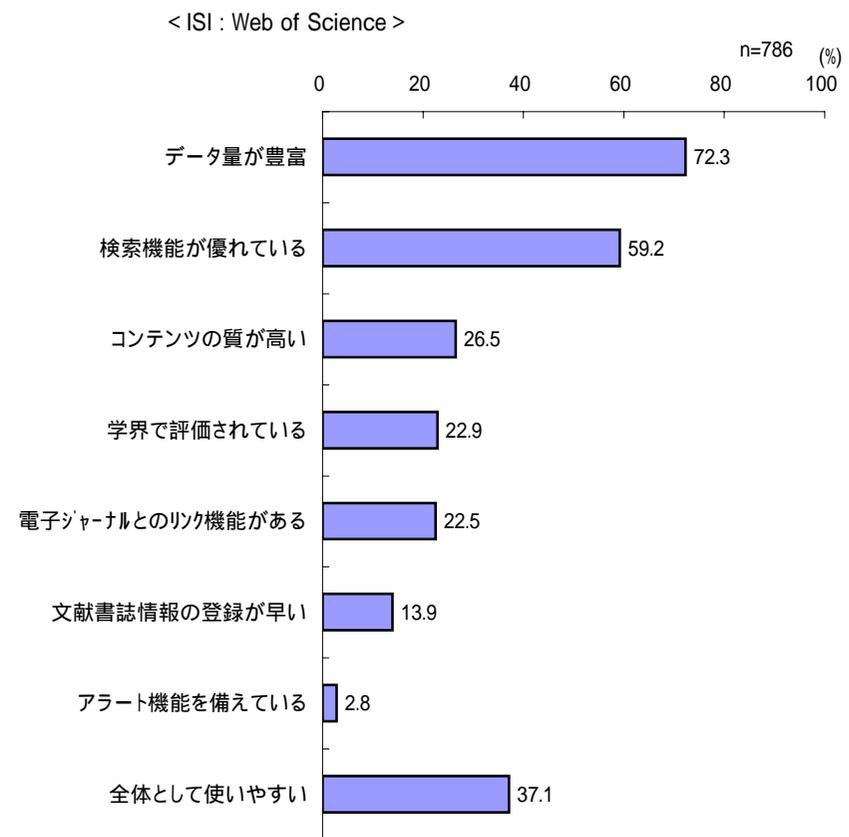
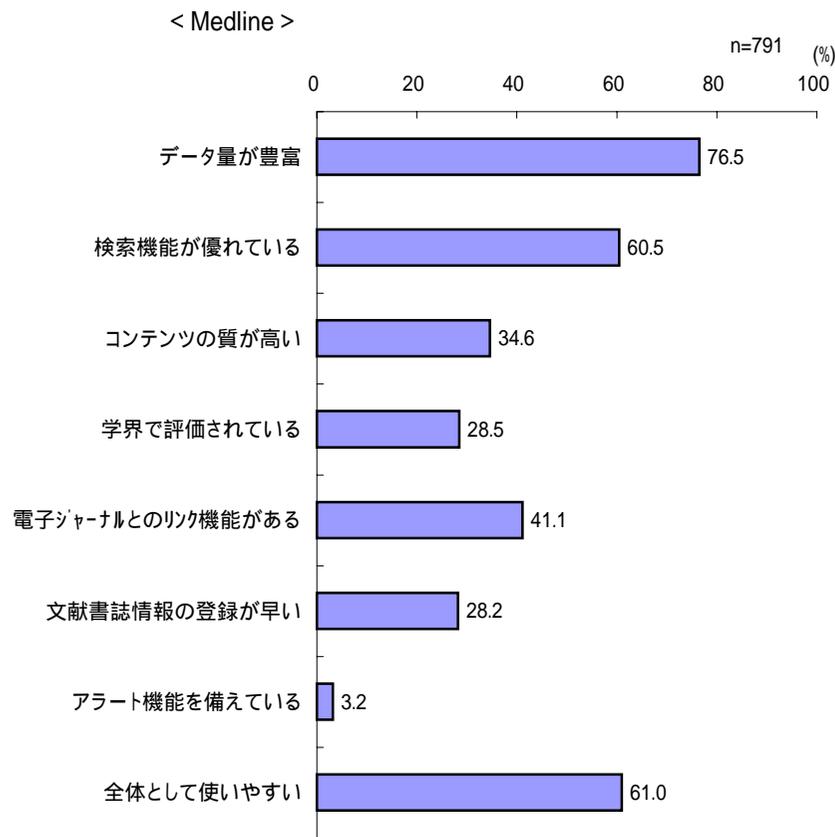
5 - 3 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価(2)

「Medline」「ISI : Web of Science」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「Medline」では、「データ量が豊富」(77%)が最も高く、「全体として使いやすい」(61%)、「検索機能が優れている」(61%)と続く。

「ISI : Web of Science」では、「データ量が豊富」(72%)、「検索機能が優れている」(59%)、「全体として使いやすい」(37%)の順。

Q5 - 2 : 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。



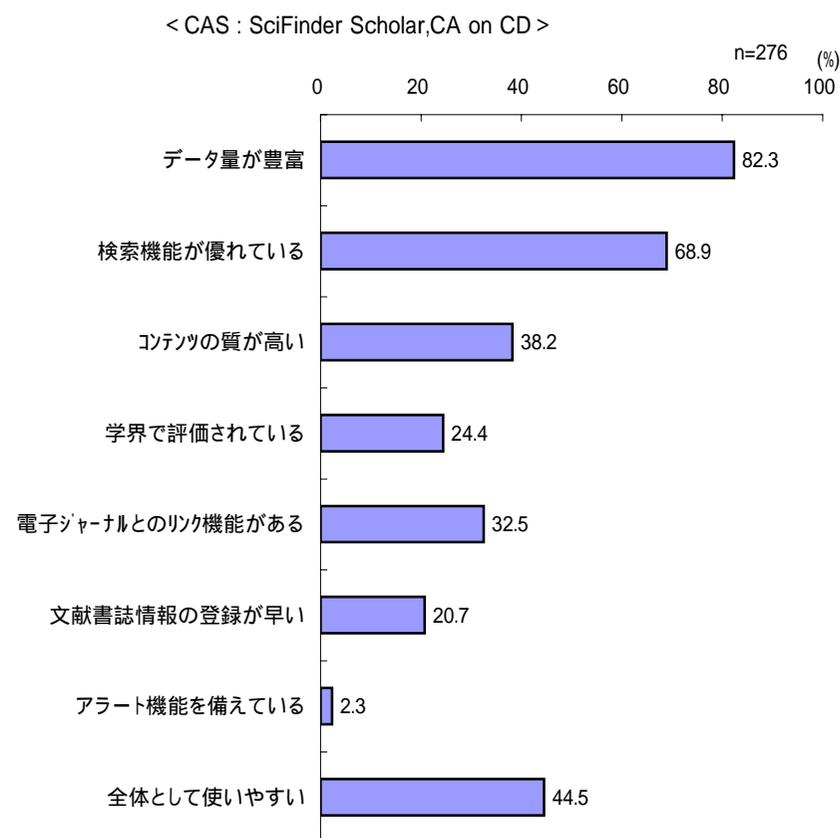
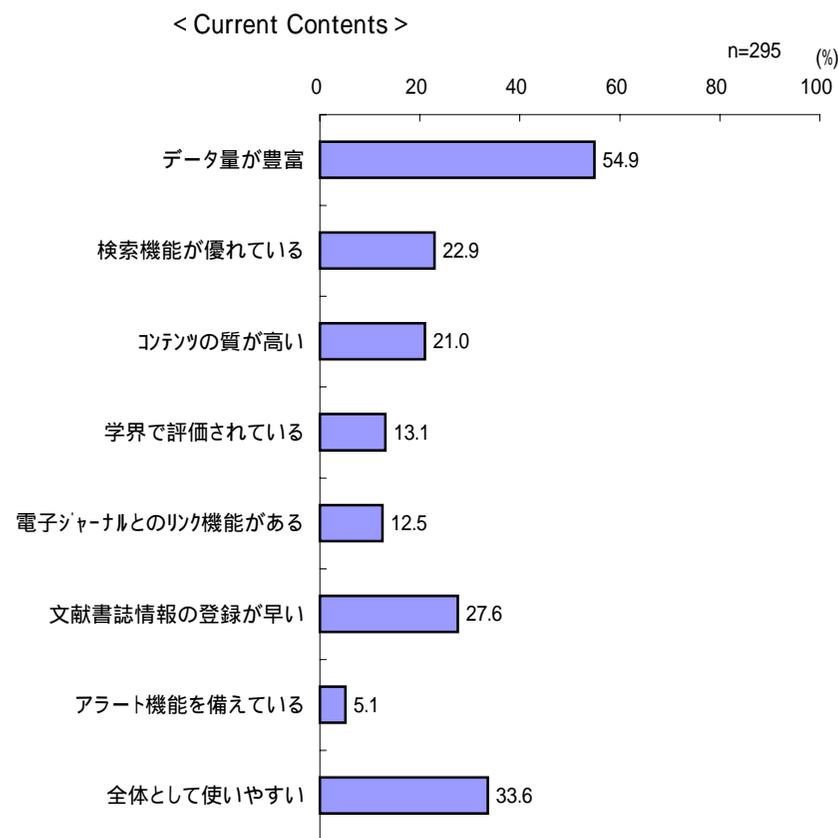
5 - 3 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価(3)

「Current Contents」「CAS : SciFinder Scholar,CA on CD」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「Current Contents」では、「データ量が豊富」(55%)、「全体として使いやすい」(34%)、「文献書誌情報の登録が早い」(28%)の順。

「CAS : SciFinder Scholar,CA on CD」では、「データ量が豊富」が8割を超え、「検索機能が優れている」も約7割を占めている。

Q5 - 2 : 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。



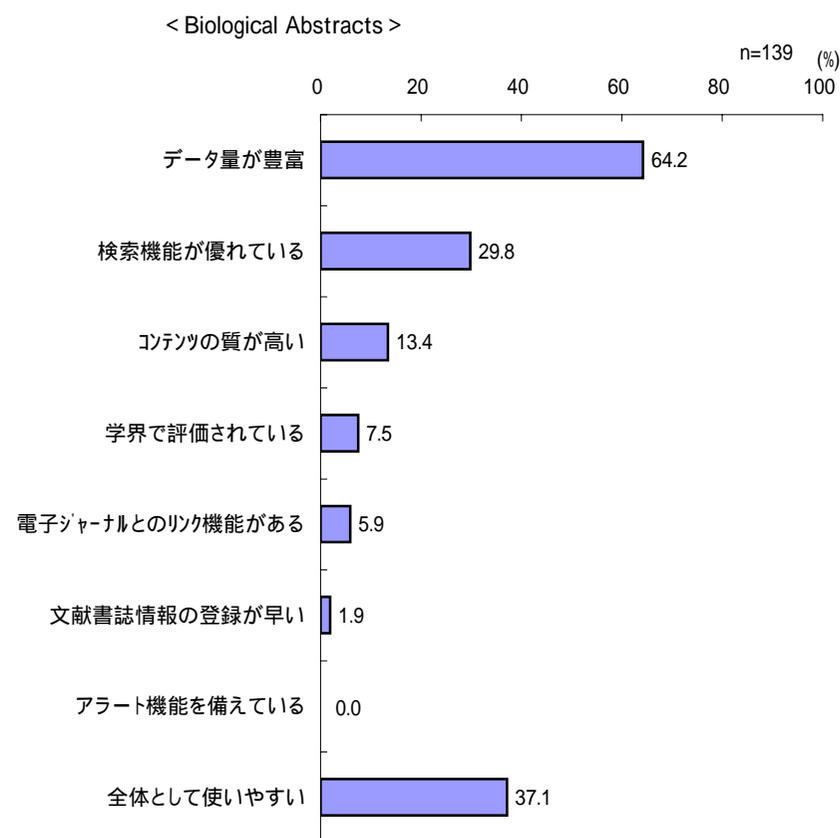
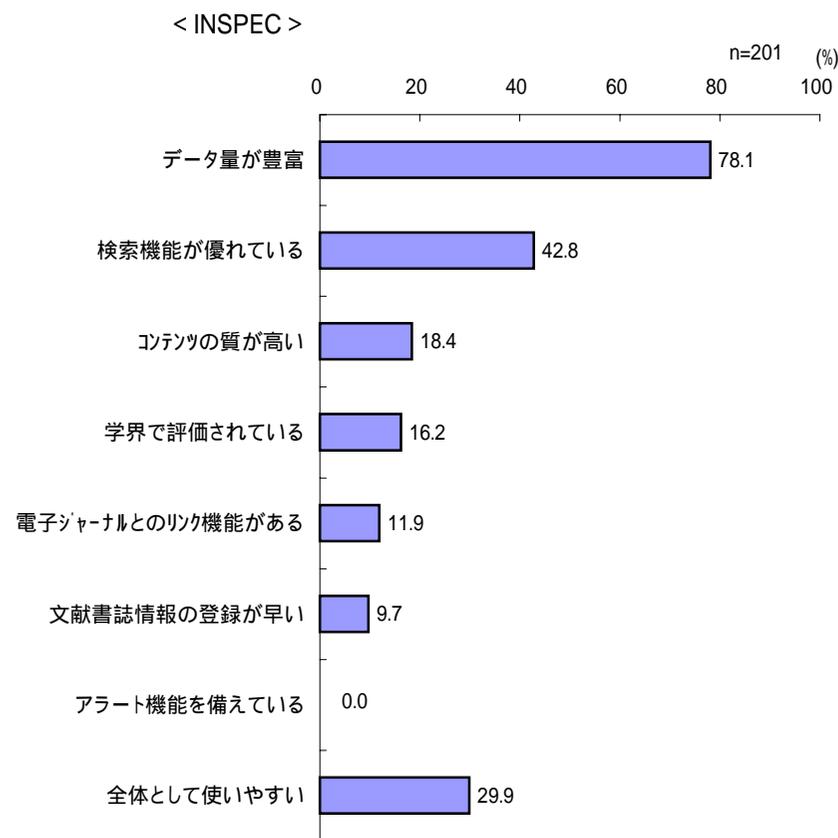
5 - 3 . 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価(4)

「INSPEC」「Biological Abstracts」の利用者の印象・イメージ(評価)をみたのが以下のグラフ。

「INSPEC」では、「データ量が豊富」(78%)と最も高い。次いで「検索機能が優れている」(43%)、「全体として使いやすい」(30%)。

「Biological Abstracts」では、「データ量が豊富」(64%)が最も高く、「全体として使いやすい」(37%)、「検索機能が優れている」(30%)と続く。

Q5 - 2:日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。



< 参考 > 主要な電子的索引・抄録誌 / 目次情報誌の評価

利用度が上位9位以降の下記の電子ジャーナルの印象・イメージ(評価)は、下表のとおり。

Q5 - 2: 日頃利用しているサービスの印象・イメージ(評価)はどれですか。

(%)

		データ量が 豊富	検索機能が 優れている	コンテンツの 質が高い	学界で評価 されている	電子ジャーナルとのリンク 機能がある	文献書誌情 報の登録が 早い	アラート機能 を備えている	全体として 使いやすい
Agricola	(n=32)	28.6	28.2	8.2	8.2	0.0	0.0	0.0	25.4
CancerLit	(n=14)	19.9	13.0	13.0	6.9	13.0	0.0	0.0	44.0
CINAHL	(n=21)	57.9	12.3	24.5	12.3	12.3	8.8	0.0	42.1
Compendex	(n=81)	81.1	40.1	8.8	10.6	3.2	0.0	0.0	43.3
CSA: IDS	(n=13)	46.2	38.7	7.6	27.4	7.6	7.6	0.0	52.9
Econlit	(n=90)	60.8	43.8	28.2	39.1	13.4	4.4	0.0	49.7
EMBASE	(n=21)	42.1	8.8	38.7	21.1	8.8	0.0	0.0	17.6
Lexis.com	(n=77)	77.4	40.7	27.8	30.3	9.0	15.5	1.3	38.7
MathSciNet	(n=103)	75.0	57.8	32.0	42.2	30.2	17.1	1.8	47.7
PsycInfo	(n=68)	79.0	52.8	37.6	42.1	12.8	15.3	0.0	43.3
SwetScan	(n=102)	40.0	17.8	8.8	9.3	10.9	7.4	8.7	42.7

**6.自由回答に見る
電子ジャーナルに対する意見・要望**

自由回答の内容のポイント 詳細は次ページの表参照。

Q9: 電子ジャーナルについて、日頃感じていること

全般に電子ジャーナルの内容(主としてその不足・拡充に関するもの)が多くあげられた。

特に、既刊論文等、過去の紙の文献についても電子化の推進を求める声が前回同様に非常に多い。

また、人文・社会科学系では、自分の研究分野での電子ジャーナルの不足を指摘する声が多く、自然科学系に比べ利用率の低いことの一因となっていると考えられる。

その他、日本語など2バイト文字圏の文献の電子化や、論文の質の維持に関する不安などの意見も一定数に上った。

使用法・利用状況については、便利という評価が非常に多い一方、よくわからないといった声も多い。

実際に使用している人からは、検索機能の改良やデータベース機能の充実を求める要望が多く寄せられている。

また、自宅など、図書館外・学外からのアクセスを求めるニーズもある程度見られる。

利用料金については、引き下げを求める声が多くあがった。

電子ジャーナル一般や使用法に対する情報提供や講習会などのサービスを大学図書館に求める声が多い。

上述の「よくわからない」「難しい」といった人に対しても、使用のきっかけにつなげていけると考えられる。

また、大学(図書館)間の環境の違いによる、情報やサービス格差を指摘する意見も。

媒体・インターフェイスに関しては、「目が疲れない」「一覧性がある」「他の論文も目にする事で新しい発見がある」など、紙(冊子体)のほうが優れている面と、「検索が便利・早い」「保存に便利」「わざわざ図書館まで出向かなくてもよい」など電子ジャーナルのほうが優れている面があり、今後も電子ジャーナルの普及と同時に、冊子体も併用すべきという意見が多い。

また、印刷した時に図表がきれいに出ない、画面表示が見にくい、など、ファイル形式や画面上のインターフェイスに関する声も。

全体的に見ると、自然科学系では電子ジャーナルはある程度自明のインフラのような意識で、今後の拡充や問題点を指摘する声が多いのに対し、人文・社会科学系ではまだ電子ジャーナルは特別なデバイスという認識も強いようである。しかし、その利便性の認知や使用ニーズも高まっていると言えるだろう。

6 - 1 . 電子ジャーナルについて(2)

自由回答の件数ランキング

下表は、電子ジャーナルに対する意見や要望などの自由記述を整理して、件数で見たものである。

Q9: 電子ジャーナルについて、日頃感じていること。

(N = 1619(ウエイト前))

順位	大分類	内容	件数	属性別			
				自然科学系	人文・社会科学系	教官	院生
1	内容・不足・拡充	既刊雑誌・論文の電子化	123	100	23	39	84
2	使用法	便利	76	60	16	31	45
3	内容・不足・拡充	全体の電子ジャーナルの不足・拡充	62	52	10	25	37
4	内容・不足・拡充	自分の研究分野の電子ジャーナルの不足・拡充	61	18	43	34	27
5	使用法	検索機能・データベース機能・リンクの充実	51	35	16	16	35
6	利用状況・意向	よくわからない、難しい	49	17	32	13	36
7	大学・図書館の問題	費用・ライセンスについて	46	36	10	29	17
8	媒体・インターフェイス	冊子体の必要性・併用 / 過剰な電子化に懸念	34	22	12	25	9
9	内容・不足・拡充	日本語、中国語など、欧米語以外のジャーナルの不足・拡充	32	13	19	12	20
10	媒体・インターフェイス	ファイル形式 / ファイルサイズについて	31	22	9	14	17
11	媒体・インターフェイス	紙・冊子体のほうが読みやすい / (PC画面は) 見づらい・目が疲れる	27	14	13	15	12
11	大学・図書館の問題	(電子ジャーナル一般や使用法についての) 情報・宣伝不足	27	15	12	8	19
13	使用法	学外から利用したい	22	10	12	8	14
14	内容・不足・拡充	論文の質(質の低下懸念、査読の必要性、信頼性、情報過多等)	20	13	7	13	7
15	使用法	時間がかかる	18	12	6	9	9
16	大学・図書館の問題	コンソーシアム化・学術情報の集中管理	15	13	2	12	3
17	利用状況・意向	これから(ますます)利用したい / ニーズが高まる	14	4	10	5	9
17	著作権・セキュリティ問題	著作権・セキュリティ問題	14	9	5	6	8
19	内容・不足・拡充	アブストラクトのみならず全文を見たい	13	12	1	5	8
19	大学・図書館の問題	大学間格差 / デジタル・ディバイドについて	13	7	6	8	5
21	大学・図書館の問題	環境の整備状況について(リンク切れ、プリントアウトできない等)	12	6	6	6	6
21	利用状況・意向	使いにくい	12	6	6	5	7
23	大学・図書館の問題	図書館の経費	11	8	3	11	0
24	利用状況・意向	必要性を感じない	8	2	6	6	2
24	制度的な問題 / 将来のサービス体制	制度的な問題 / 将来のサービス体制	8	5	3	7	1
26	利用者側からの情報発信	利用者側からの情報発信	6	5	1	1	5
27	使用法	個人単位での利用 / 契約について	5	1	4	3	2
27	媒体・インターフェイス	画面レイアウト・フォント・ページ構成などについて	5	0	5	0	5
29	内容・不足・拡充	その他電子ジャーナルの不足・拡充関連	4	2	2	1	3
29	媒体・インターフェイス	アラート機能について	4	3	1	1	3
31	媒体・インターフェイス	冊子体は不要	3	3	0	3	0
32	使用法	その他使用法関連	2	2	0	1	1
32	媒体・インターフェイス	その他媒体・インターフェイス関連	2	1	1	2	0
32	利用状況・意向	現状で満足	2	2	0	0	2
	その他	その他	14	8	6	8	6

6 - 2 . 今後図書館に期待するもの(1)

自由回答の内容のポイント 詳細は次ページの表参照。

Q10: 今後、図書館に何を期待するか

電子ジャーナルや二次データベースをはじめとして、電子化推進を求める声が圧倒的に多かった。
また、電子化の進展に伴い、蔵書検索システムの向上もこれまで以上に整備・改良が期待されている。
一方、現状では図書館の基本機能である、紙の文献の蔵書数の増加を求める声も、件数としては2番目に多くあがっている。

その他、図書館の機能としては、既刊雑誌のバックナンバーなどの保存機能強化や、古典一次資料などの電子化などが求められている。また、Q9にあがっていたのと同様、冊子体と電子媒体の共存に関する意見も若干見られる。

サービス面であげられた要望としては、開館時間・期間の延長を望む意見が最多。
学内の他館や他大学図書館などとの連携によって、文献の入手のしやすさや時間の短縮を求める意見も多い。
他には、図書館設備の充実、デリバリーサービス、職員対応に関するものなど、日常の使用で感じていることがあがっている。

図書館に行ってほしいこととして、電子ジャーナル等に対する情報提供や使用法の講習会などを求める要望が多い。
また、電子ジャーナルに限らず、図書館側からの積極的な情報発信を期待する内容も多い。

全体としては、電子媒体やシステムの扱いや保存といった、新しい時代への対応のあり方について、図書館が取るべき全体の方向性や具体的なレベルでの期待・要望などが、様々な立場・角度から述べられている。IT時代にあつてますます多様化するユーザーのニーズを、どのように汲み取って活かしていくかが今後の鍵となるだろう。

6 - 2 . 今後図書館に期待するもの(2)

自由回答の件数ランキング

下表は、今後の図書館に対する期待・要望などの自由記述を整理して、件数で見たものである。

Q10: 今後、図書館に何を期待するか。

(N = 1619(ウエイト前))

順位	大分類	内容	件数	属性別			
				自然科学系	人文・社会科学系	教官	院生
1	図書館の機能	電子化の推進(電子ジャーナル/二次データベースの整備・充実)	111	90	21	61	50
2	図書館の機能	蔵書数の充実	63	26	37	16	47
3	サービスの改善	開館時間・期間	59	33	26	17	42
4	図書館の運営	電子ジャーナルなどの使用方法周知・リテラシー向上	57	40	17	22	35
5	図書館の機能	検索システムの向上	56	28	28	28	28
6	サービスの改善	他館との連携・相互利用性の推進	46	28	18	20	26
6	図書館の機能	電子化の推進(その他)	46	34	12	26	20
8	サービスの改善	その他サービス関連	35	14	21	6	29
9	現状で満足(特に要求無し)	現状で満足(特に要求無し)	30	20	10	14	16
10	サービスの改善	設備(コピー機、パソコン、ラウンジスペースなど)	29	18	11	11	18
11	図書館の運営	図書館の情報発信	27	16	11	17	10
12	図書館の機能	保存機能の強化(貴重図書、雑誌のバックナンバー、Web情報等)	24	11	13	14	10
13	サービスの改善	学内の各分館等との連携	22	16	6	7	15
13	図書館の機能	電子化の推進(館外・学外からのアクセス)	22	15	7	12	10
15	図書館の機能	電子媒体と紙の共存	20	14	6	13	7
16	図書館の機能	冊子体の充実	18	14	5	12	6
17	サービスの改善	文献・資料のデリバリー	14	9	5	4	10
18	サービスの改善	職員の応対	12	3	9	2	10
18	サービスの改善	図書購入のスピードアップ	12	9	3	3	9
18	サービスの改善	地域・市民への開放	12	5	7	9	3
18	図書館職員・司書の専門性	図書館職員・司書の専門性	12	1	11	5	7
18	図書館の運営	人員・予算の適正化	12	9	3	8	4
23	図書館の機能	その他図書館の機能関連	10	9	1	8	2
24	サービスの改善	貸出期間・点数・方法	9	3	6	2	7
24	図書館の機能	電子化の推進(電子ジャーナルの無料化/低額化)	9	7	2	6	3
24	図書館の機能	過剰な電子化への懸念	9	1	8	8	1
24	図書館の運営	その他図書館の運営関係	9	6	3	6	3
28	サービスの改善	相互利用のコスト	5	0	5	1	4
28	著作権・セキュリティー	著作権・セキュリティー	5	2	3	2	3
30	サービスの改善	相互利用にかかる時間の短縮	4	1	3	0	4
	その他	その他	5	3	2	3	2

付 - 1)

調 査 票

大学における電子ジャーナルの 利用の現状と将来に関する調査

調査ご協力をお願い

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、**国立大学図書館協議会 電子ジャーナルタスクフォース**では、学術研究の推進に必要な不可欠な情報基盤となった電子ジャーナルについて、協議会に加盟する各図書館が導入の意思決定及び運用の改善に資するための基礎資料を提供する必要性を感じ、平成13年度に引き続き、電子ジャーナルの利用状況及び今後の活用方法に関するアンケート調査を実施することにしました。

当調査の結果は、前回の調査結果と比較した上で報告書を取りまとめ、協議会各加盟館に配付するとともに、協議会のホームページ等でも概要を公開する予定です。

今回は、すでに多くの電子ジャーナルを導入している大規模総合大学及び研究主題又は図書館運営に特色のある大学の計13校の教官・院生の皆様に調査対象とさせていただきます。あなた様を対象者として選ばせていただいたのは、統計手法の一つである無作為抽出によるもので他意はございません。

ご多用中誠に恐縮ですが、大学における研究環境の改善につながることでありますので、趣旨をお汲み取りの上、是非同封のアンケートにご協力賜りますようお願い申し上げます。

回答は7月31日(木)までに、同封の封筒に入れ、所属の大学図書館までお戻しください。

なお、アンケートの実施及び分析は(株)日経リサーチに委託しておりますので、当調査へのお問い合わせなどは下記までお願いいたします。また、当調査は無記名で実施し、分析も統計数字としてのみ(例：～という人が %)行いますので、是非率直なご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2003年7月10日

国立大学図書館協議会
電子ジャーナルタスクフォース
主査 名古屋大学附属図書館長 伊藤 義人

問合せ先(調査実施機関)
株式会社 日経リサーチ
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2-7
電話：03-5296-5126(平日10:00~18:00)
担当：大久保、熊谷、安達



Job No. 311114

<電子ジャーナルとは>

当アンケートでは、インターネット上で利用できる学術雑誌で、HTMLやPDF形式などのファイルにて論文をパソコン上で読める雑誌を「電子ジャーナル」と呼んでいます。

電子ジャーナルの特徴

- ・最新号がタイムラグなく即座に読め、冊子の刊行より先に公開される電子ジャーナルも増えています。

- ・引用文献やその他の有益な学術情報へのリンクが充実し、研究活動をシームレスなものとしめます。

- ・図書館に足を運ぶことなく、研究室にいながらにして利用できます。時間を気にすることなく24時間利用可能です。

- ・冊子体とは異なり、他の人が利用していても同時に同じ論文を閲覧できます。

- ・電子ジャーナルは書架を必要とせず、省スペースです。

上記は一般的な説明であり、個々の事情は異なる場合があります。

当アンケートでは、ご所属の大学図書館がサービスしている電子ジャーナルかどうかは問いません。

各大学の電子ジャーナルのサービス状況 (平成15年5月)

大学名	洋雑誌 受入数 (冊子体)*1	提供 電子ジャーナル 数	電子ジャーナルサービスページのURL
北海道大学	7,020	13,320	http://www.lib.hokudai.ac.jp/item/e_journal.html
東北大学	6,460	4,800	http://www.library.tohoku.ac.jp/olj/
千葉大学	2,450	6,740	http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/online/EJ/el-journals.html
東京大学	16,760	5,280	http://ejournal.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/
東京工業大学	2,980	4,820	http://topics.libra.titech.ac.jp/opc/olj/
一橋大学	3,240	4,500	http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/sankou/EJ_index.html
上越教育大学	330	3,350	http://www.lib.juen.ac.jp/TOSHOKAN/e-journal%20guide.html
名古屋大学	4,860	7,580	http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/ej/
京都大学	8,360	7,010	http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/gakunaiej.html
大阪大学	6,780	5,860	http://wsv.library.osaka-u.ac.jp/others/zassi-1.htm
島根大学	900	4,040	http://deneb.lib.shimane-u.ac.jp/asp/oj.asp
広島大学	3,250	4,240	http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/reference/ejriyoan.html
九州大学	7,420	12,540	http://bacchus.lib.kyushu-u.ac.jp/kyushu/

*1：純タイトル数(図書館備付、研究室等備付及び寄贈雑誌を含む大学全体の受入数)

Q1.早速ですが、学術研究上、以下のツールをここ1～2年、あなたはどの程度利用していますか。それぞれ一番あてはまるところに1つずつ 印をつけて下さい。

	ほぼ毎日利用している	週に1～2日程度利用	月に1～2日程度	ある今までに利用したことがある	どういふものか知っているが利用したことがない	知らなかった
a) Eメール	1	2	3	4	5	6
b) インターネットの検索エンジン(Yahoo!, Google 等)	1	2	3	4	5	6
c) インターネット上の統計, 特許, 時事, 書籍情報等	1	2	3	4	5	6
d) 大学や学会関連のサイト	1	2	3	4	5	6
e) インターネットで学術文献の目次 / 抄録を検索	1	2	3	4	5	6
f) 図書館ホームページのリンク集, パスファインダー	1	2	3	4	5	6
g) アラート機能(自動的に文献情報等の提供を受ける)	1	2	3	4	5	6
h) e-Print archive(印刷物がなく電子媒体のみの出版物)	1	2	3	4	5	6

Q2-1. それでは次に、電子ジャーナルについてお伺いします。

電子ジャーナルとは、ここでは、学術雑誌のインターネット上での利用を指しますが、あなたはここ1～2年、どの程度利用されていますか。あてはまるもの1つに 印をつけて下さい。

1. ほぼ毎日利用している	4. 今までに利用したことがある
2. 週に1～2日程度利用している	5. どういふものか知っているが利用したことがない
3. 月に1～2日程度利用している	6. 知らなかった 次ページQ4-1.へ

→ 1～3とお答えの方はQ2-2.へ

→ 4～5とお答えの方はQ2-3.へ

Q2-2. 日頃利用されている電子ジャーナルのタイトル数(雑誌数)は、およそいくつですか。

約 タイトル

Q2-3. なぜここ1～2年、電子ジャーナルを利用されていないのでしょうか。あてはまるものすべてに 印をつけて下さい。

1. 利用したいタイトルがないから	6. パソコン画面では読みにくいから
2. 研究分野の収録が少ないから	7. インターフェースが使いにくいから
3. 利用方法がわからないから	8. ダウンロードに時間がかかるから
4. 冊子体があれば十分だから	9. その他
5. バックナンバーが不十分だから	(具体的に: <input type="text"/>)

Q3. あなたは電子ジャーナルに関して、日頃どこから情報を得ていますか。(いくつでも 印)

1. 他の研究者からの話	8. 業界紙
2. 学生からの話	9. 出版社
3. 図書館からのお知らせ・案内	10. 書店
4. インターネット(ホームページ等)	11. パンフレット・ダイレクトメール
5. 学会誌	12. 一般雑誌
6. 研究会報等の冊子	13. その他
7. 専門雑誌	(具体的に: <input type="text"/>)

Q4-1. あなたは、どのような電子ジャーナルのサービスを知っていますか。ご存知のものにすべて 印をつけて下さい。

注) 代表的なサービス名・出版社の電子ジャーナルをアルファベット順に掲載しています。サービス名はイタリック体になっています。

1. ACM Portal (or) Digital Library 出版社: ACM: Association for Computing Machinery	16. IEEE: Institute of Electrical and Electronics Engineers
2. ACS: American Chemical Society	17. Ingenta (Select) 出版社: Taylor & Francis
3. AIP: American Institute of Physics	18. IoP: Institute of Physics
4. AMS: American Mathematical Society	19. JSTOR
5. APS: American Physical Society	20. Karger Online 出版社: Karger
6. ASCE: American Society of Civil Engineers	21. Kluwer Online 出版社: Kluwer Academic Publishers
7. ASME: American Society of Mechanical Engineers	22. Nature Publishing Group
8. BioMedNet	23. OUP: Oxford University Press
9. BMJ: British Medical Journal Publishing Group	24. ProQuest
10. ChemWeb	25. RSC: Royal Society of Chemistry
11. CUP: Cambridge University Press	26. ScienceDirect 出版社: Elsevier Science
12. EBSCO host ベンダー: EBSCO	27. SIAM: Society for Industrial and Applied Mathematics
13. ECO ベンダー: OCLC	28. Springer LINK (on metapress) 出版社: Springer-Verlag
14. Emerald 出版社: MCB University Press	29. Synergy 出版社: Blackwell Publishing
15. IEE: Institution of Electrical Engineers	30. Wiley InterScience 出版社: John Wiley & Sons, Inc.

(左ページから続く)

その他にご存知の電子ジャーナルサービスあるいは上記のどのサービスにあたるかわからない電子ジャーナル名を具体的にご記入下さい。(番号も 印をつけて下さい)

31. その他	33. その他
32. その他	34. その他

35. 知っている電子ジャーナルはない (6 ページの Q 5 - 1 . へ)

Q 4 - 2 . それでは、Q 4 - 1 . で 印をつけられたものの中で、日頃あなたが利用しているサービスはどれですか。最もよく使う順に5つあげて下さい。(Q 4 - 1 . の番号を記入して下さい)

また、それぞれの印象・イメージ (評価) として、あてはまるものすべてに 印をつけて下さい。

注) 利用している電子ジャーナルがない場合は、6 ページの Q 5 - 1 . へお進み下さい。

よく使う順に5つまで(Q 4 - 1 の番号で記入)				
1 位	2 位	3 位	4 位	5 位

印象・イメージ (評価) あてはまるものすべてに 印	1) コンテンツの質が高い	1	1	1	1	1
	2) データ量が豊富	2	2	2	2	2
	3) 検索機能が優れている	3	3	3	3	3
	4) リンクの機能が充実している	4	4	4	4	4
	5) 画面が見やすい (フォントサイズ・カラー等)	5	5	5	5	5
	6) 画面のページ展開がしやすい	6	6	6	6	6
	7) 論文中の画像情報の質が高い	7	7	7	7	7
	8) 自分が使いやすいように設定できる	8	8	8	8	8
	9) 学界で評価されている	9	9	9	9	9
	10) 論文掲載のタイミングが早い	10	10	10	10	10
	11) 全体として使いやすい	11	11	11	11	11
	12) アラート機能を備えている	12	12	12	12	12

Q 4 - 3 . あなたは、どのような方法で、電子ジャーナルの中から必要とする文献を探し入手し
ますか。以下の項目について、一番あてはまるものに 印を1つずつつけて下さい。



a) 自分の専門分野の電子ジャーナルをブラウジングして、読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
b) 自分の専門分野以外の電子ジャーナルをブラウジングして、読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
c) 電子ジャーナルの検索機能を使って得た検索集合の中から読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
d) 二次 (抄録・索引誌等) データベースの検索集合から読みたい文献を探し、リンク機能を使って入手する。	1	2	3	4
e) アラート機能を使って入手した特定電子ジャーナルの最新目次情報の中から読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
f) アラート機能を使って、予め登録した文献情報検索式でヒットした検索集合から読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
g) リンクが張ってある参考文献や引用文献の中から読みたい文献を入手する。	1	2	3	4
h) その他の方法で文献を入手する方法があれば、ご記入ください。()				

Q 4 - 4 . あなたが電子ジャーナルで論文を読む際に、どのデータ形式の論文を読むことが最も多いですか。あてはまるもの1つに 印をつけて下さい。

1. HTML形式	4. Te x形式
2. P D F形式	5. その他
3. P O S T S C R I P T形式	(具体的に:)

Q 4 - 5 . それでは、なぜ Q 4 - 4 . で 印をつけたデータ形式の論文を読むことが多いのですか。あてはまるものすべてに 印をつけて下さい。

1. 印刷するときいだから	5. 数式や記号などが扱いやすいから
2. 画面表示すると読みやすいから	6. 読みたい論文がたまたまその形式だから
3. リンク機能が便利だから	7. その他
4. ダウンロードに時間がかからないから	(具体的に:)

Q 4 - 6 . あなたは、電子ジャーナルのバックファイルが何年分あれば満足しますか。一番あてはまるものに 印を1つつけて下さい。

1	2	3	4	5	6	7
最新1年分	~ 5年分	~ 10年分	~ 15年分	~ 20年分	~ 30年分	全て

Q5 - 1 . あなたは、どのような電子的索引・抄録誌又は目次情報誌のサービスを知っていますか。ご存知のものにすべて 印をつけて下さい。

注1) 下記のデータベース名はアルファベット順です。

1. Agricola	10. EMBASE
2. Biological Abstracts	11. INSPEC
3. CancerLit	12. ISI : Web of Science
4. CAS: SciFinder Scholar, CA on CD	13. Lexis.com
5. CINAHL	14. MathSciNet
6. Compendex	15. Medline
7. CSA: IDS	16. PsycInfo
8. Current Contents	17. SwetScan
9. Econlit	

その他にご存知の電子的索引・抄録誌及び目次情報誌あるいは上記のどのサービスにあたるかわからない電子的索引・抄録誌及び目次情報誌名を具体的に記入下さい。(番号も 印をつけて下さい)

18. その他	20. その他
19. その他	21. その他

22. 知っている電子的索引・抄録誌及び目次情報誌はない (次ページQ6 .へ)

Q5 - 2 . それでは、Q5 - 1 . で 印をつけられたものの中で、日頃あなたが利用しているサービスはどれですか。最もよく使う順に3つあげて下さい。(Q5 - 1 . の番号を記入して下さい)

また、それぞれの印象・イメージ(評価)として、あてはまるものすべてに 印をつけて下さい。

注) 利用している電子的索引・抄録誌又は目次情報誌がない場合は、次ページのQ6 .へお進み下さい。

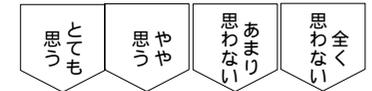
		1位	2位	3位
あてはまるものすべてに印をつけて下さい(印象・イメージ)	1) データ量が豊富	1	1	1
	2) 検索機能が優れている	2	2	2
	3) コンテンツ(抄録など)の質が高い	3	3	3
	4) 学界で評価されている	4	4	4
	5) 電子ジャーナルとのリンク機能がある	5	5	5
	6) 文献書誌情報の登録が早い	6	6	6
	7) アラート機能(自動的に文献情報等の提供を受ける)を備えている	7	7	7
	8) 全体として使いやすい	8	8	8

Q6 . あなたの今後の研究活動のために、電子ジャーナルはどの程度必要ですか。Q4 - 1 . にあげられた電子ジャーナルに限らず、電子ジャーナル全般についてお答え下さい。

(1つだけ 印)

1. 絶対に必要	3. あまり必要ない
2. ある程度必要	4. 全く必要ない

Q7 . 以下にあげた項目について、あなたはどのように思われますか。それぞれの項目について、一番あてはまるものに 印を1つずつつけて下さい。



a) これからは、いままで以上に研究成果を国際的に研究者間で交換していかなければならない	1	2	3	4
b) 電子ジャーナルやその利用法についての情報がもっとほしい	1	2	3	4
c) 学術研究上、必要な情報を広範囲な中から検索できる二次(抄録又は索引)データベースが欠かせない	1	2	3	4
d) 電子ジャーナルでは、全文表示だけでなく、全文検索も必要だ	1	2	3	4
e) 学術研究上、電子化を促進することが研究の生産性向上に直結する	1	2	3	4
f) 学術情報のインターネット配信を積極的に推進すべきだ	1	2	3	4
g) 電子ジャーナルや学術データベースに自宅からもアクセスしたい	1	2	3	4
h) 大学図書館が中心となって学内生産論文の電子化を進めるべきだ	1	2	3	4
i) 大学図書館が中心となって電子ジャーナルの使い方についての研修を行うべきだ	1	2	3	4
j) 大学図書館は有料電子ジャーナルの整備に力を入れるべきだ	1	2	3	4
k) 有料電子ジャーナルの整備にあたっては、複数の機関による共同購入・利用(コンソーシアム)を進めるべきだ	1	2	3	4
l) 電子ジャーナルによって、論文が掲載されるまでの時間が短縮されるのは評価できる	1	2	3	4

m) インターネット上の論文も査読機能を強化し、論文の質の低下を防ぐべきだ	1	-----	2	-----	3	-----	4
n) 電子ジャーナルが充実すれば冊子体の必要性は大幅に低くなる	1	-----	2	-----	3	-----	4
o) 電子ジャーナルがあっても冊子体を使いたい	1	-----	2	-----	3	-----	4
p) 電子ジャーナルを利用するに当たって、情報倫理(著作権法やネチケツト等)を意識しなければいけない	1	-----	2	-----	3	-----	4
q) 必要とする電子ジャーナルを導入するためには、購入経費の一部を負担しても良い	1	-----	2	-----	3	-----	4
r) 現在、自分が使える電子ジャーナル又は二次データベースの種類に満足している	1	-----	2	-----	3	-----	4

Q 8 . 今後(も)あなたは、研究のために以下のものを利用したいと思いますか。
一番あてはまるものに1ずつ 印をつけて下さい。

	利用していききたい	今まで以上に利用していききたい	現状程度はなるだろう	今ほど利用しなくなる	利用しない
a) Eメール	1	2	3	4	
b) インターネットの検索エンジン (Yahoo!, Google 等)	1	2	3	4	
c) インターネット上の統計, 特許, 時事, 書籍情報等	1	2	3	4	
d) 大学や学会関連のサイト	1	2	3	4	
e) インターネットで学術文献の目次 / 抄録を検索	1	2	3	4	
f) 電子ジャーナル (学術雑誌のインターネット上での利用)	1	2	3	4	
g) 図書館ホームページのリンク集, パスファインダー	1	2	3	4	
h) アラート機能 (自動的に文献情報等の提供を受ける)	1	2	3	4	
i) e-Print archive (印刷物がなく電子媒体のみの出版物)	1	2	3	4	
j) 二次 (抄録誌, 索引誌, 目次情報) データベースの利用	1	2	3	4	

Q 9 . 電子ジャーナルについて、日頃感じていることがあれば自由にご記入ください。

Q 10 . あなたは、今後図書館に何を期待しますか。自由にご記入ください。

最後に分析のためにあなた自身についてお伺いします。

F1. あなたの年齢は以下のどれにあたりますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 20 ~ 24 歳 | 6. 45 ~ 49 歳 |
| 2. 25 ~ 29 歳 | 7. 50 ~ 54 歳 |
| 3. 30 ~ 34 歳 | 8. 55 ~ 59 歳 |
| 4. 35 ~ 39 歳 | 9. 60 歳以上 |
| 5. 40 ~ 44 歳 | |

F2. あなたは以下のどれにあたりますか。

- | | |
|--------|----------|
| 1. 教授 | 5. 大学院生 |
| 2. 助教授 | 6. その他 |
| 3. 講師 | (具体的に:) |
| 4. 助手 | |

F3. あなたの研究分野は下記のどれにあてはまりますか。主なものを1つだけ選び、印をつけた上で、()内に専攻名をお書き下さい。

- | (人文科学系) | (社会科学系) | (自然科学系) |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 文学() | 6. 心理学() | 13. 理学() |
| 2. 史学() | 7. 社会学() | 14. 工学() |
| 3. 哲学() | 8. 経済学() | 15. 農学() |
| 4. 教育学() | 9. 経営学() | 16. 医学() |
| 5. その他人文科学系() | 10. 政治学() | 17. 歯学() |
| | 11. 法学() | 18. 薬学() |
| | 12. その他社会科学系() | 19. その他自然科学系() |

F4. あなたが所属する大学はどちらですか。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 北海道大学 | 8. 名古屋大学 |
| 2. 東北大学 | 9. 京都大学 |
| 3. 千葉大学 | 10. 大阪大学 |
| 4. 東京大学 | 11. 島根大学 |
| 5. 東京工業大学 | 12. 広島大学 |
| 6. 一橋大学 | 13. 九州大学 |
| 7. 上越教育大学 | |

質問は以上です。ご協力、誠にありがとうございました。